

| | | | | | | | |
|-----|---|----|-----|----|-----|-----|-----|
| 出生日 | 年月日 | 年 | 月 | 日 | 當年月 | 當年月 | 當年月 |
| 引致 | 年月日 | 引致 | 年月日 | 引致 | 年月日 | 引致 | 年月日 |
| 犯罪ト | 何々物品ヲ携帶シ其懇動犯人ト思量スル等 | | | | | | |
| 思料セ | 何々物品ヲ携帶シ其懇動犯人ト思量スル等 | | | | | | |
| 理由 | 前欄携帶ノ物品ハ此品ナルモ素ヨリ之ヲ知ラズ古物商何某ヨリ買入タルコト明白シタル等放還ノ理由ヲ摘載ス | | | | | | |
| 放還又 | 本人ハ何罪ヲ犯シタルニヨリ引致スルモ何所ヨリ何々ノ連累ニ付令狀持參セシヨル等引渡ノ理由 | | | | | | |
| ハ他管 | 別 | | | | | | |
| ハ引渡 | 口 | | | | | | |
| セ引渡 | 目 | | | | | | |
| 由 | 眉毛 | | | | | | |
| | 音聲 | | | | | | |
| | 高シ生國ナマリ | | | | | | |
| | 面体 | | | | | | |
| | 耳 | | | | | | |
| | 鼻 | | | | | | |
| | 面色 | | | | | | |
| | 別 | | | | | | |
| | 何所ニ何ノ刺繡アリ又ハ何々ノ痕アリ | | | | | | |

(裏面ハ表面ニ全シ察ス)

●島根縣訓令保第二十一號 明治二十四年三月十六日

警察署 分 署

贓物品觸取扱手續別紙ノ通定ム

(別紙)

贓物品觸取扱手續

第一條 警察署分署ニ於テ盜難其他ノ事故ニ因リ犯罪捜査ノ爲メ必要トスルトキハ古物商及質屋營業者ニ品觸ヲナスヘシ

品觸ヲナス物品ハ貴重稀有ノモノ又ハ著明ノ目録等辨認ノ便アルモノニ限ルヘシ

第二條 所轄外ノ營業者ニ品觸ヲナスヲ要スルトキハ當該警察署又ハ分署ニ照會スヘシ

第三條 品觸書ニハ物品ノ形質模樣數見積代價等ヲ詳記シ之ニ番號ヲ付シ且營業者各自寫取期限並其氏名ヲ記載スヘシ

第四條 品觸書ノ原稿ハ其番號順ニ從ヒ簿冊ニ編綴シテ保存スヘシ

第五條 品觸書ハ各管區毎ニ一本ヲ配布シ受持巡査ヲシテ營業者ニ交付シ順次回達セシムヘシ但土地ノ狀況ニ依リ營業者間回達ノ不便アルモノハ適宜配布スヘシ

第六條 品觸書ノ回達ヲ終リタルモノハ之ヲ受持巡査ニ返戻セシメ簿冊ニ編綴シテ保存セシムヘシ

第七條 他府縣ヨリ品觸ノ照會ヲ受ケタルトキ及本縣警察部ヨリ品觸ヲ通達シタルトキハ前數條ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

●島根縣訓令警第二十六號 明治二十四年四月十三日 警察署 分 署

各宗派管長ニ於テ已ニ住職ヲ免シタルニ拘ハラズ猶其寺院立退ノ需メニ應ゼタル者アルトキハ管長又ハ後任住職若シハ其寺院管理者ヨリ警察官ニ申立テ其保護ヲ請フコトヲ得ヘキ筈ニ付自然保護ヲ請フ者アルトキハ相當保護ヲ爲スヘシ

●島根縣訓令保第五號 明治二十六年二月二十三日 警察署 分 署

變死傷者檢視心得書別紙ノ通定ム但明治十八年二月警第八號變死人檢視心得ヲ廢ス (別紙)

變死傷者檢視心得書

第一條 變死傷者ノ檢視ハ屍体又ハ創部ノ形狀並ニ其場ノ模樣ヲ精査シ死傷ノ原因及事實ヲ明カニスルモノトス

第二條 變死傷ノ届出ヲ受ケタル時ハ事ノ輕重難易ヲ斟酌シ署長躬ヲ檢視シ又ハ警部巡査部長ノ内ニ命シ檢

●第九類 ◎違警罪目

視ヲ爲サシムヘシ但極メテ輕易ノ事件ニシテ事實疑ナキモノニ限リ巡查ニ命ジテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條 檢視ハ醫師及見出人其他致死負傷ノ原因ヲ知ルニ必要ナル者及親近ノ親族等ヲ立會ハセ之ヲ行フヘ

第四條 檢視ニ立會ヒタル醫師ニハ死傷ノ徵候死体若クハ創部ノ模様及死傷ノ原因等ヲ檢案セシメ明細ノ書
面ヲ出サシムヘシ

第五條 檢視官ハ檢視ニ立會ヒタル者除クテニ對シ死傷ノ始末ヲ詳細ニ尋問シ聞取書ヲ作り本人ニ讀聞カセ
署名捺印セシムヘシ但自管スル能ハサルモノアルトキハ代署シ實印所持セサル者アルトキハ捺印セシムヘシ

第六條 檢視官ハ左ノ事項ヲ記シタル檢視書ヲ作り之ニ意見ヲ付記シ現場ノ圖面及關係書類ヲ添ヒ警察署又
ハ分署ニ差出スヘシ

- 一 死傷者ノ族籍氏名年齢若シ之ヲ知ル能ハサルトキハ人相及衣類ノ模様
- 二 死傷ノ方法
- 三 屍体若クハ負傷箇所ノ形状
- 四 死傷者所在ノ現狀
- 五 屍体若クハ負傷者發見ノ場所ニ於テ死傷セシヤ否
- 六 死傷ノ年月日時
- 七 死傷ノ原因
- 八 過失ニ出テタルト自企ニ出テタル等ノ區別

第七條 檢視ヲ畢ヘタル屍体ハ立會醫師ノ檢案書ヲ添ヘ引取人ニ交付スヘシ但住所氏名判然セサル等ノ爲メ
戶長市町村長ニ引渡シタル時ハ受書ヲ徵シ一件書類ニ添フヘシ

第八條 醫師ニ於テ屍体ノ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難シト認メタルトキハ明治十年二月太政
官布告第二十二號ニ依リ取扱フヘシ

廿五年縣令
第四十六號
廿六年公第
廿六年公第
廿八年公第
廿六年公第

第九條 檢視官ニ於テ犯罪ニ原因スル死傷ト認メタルトキハ刑事訴訟法ニ依リ處分スヘシ

●島根縣訓令保第六號 明治二十六年二月二十四日 警察署 分署

明治九年五月二十四日達帶刀違背者取扱方心得左ノ通知ム

一 警部又ハ巡查ニ於テ明治九年三月布告第三十八號ニ違背シ帶刀スル者ヲ認メタルトキハ仮リニ其刀ヲ押收
シ本人ノ族籍氏名等ヲ取調ヘ速ニ所屬署長ニ申告セシムヘシ但時宜ニ依リ本人ヲシテ所屬署ニ全行セシム
ルモ妨ケナシ

二 署長前項ノ申告ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ該布告ニ依リ處分シ其旨本人ニ告知スヘシ

○第十類 衛生

病院 驅癪院

●縣令第五十一號 明治十九年十二月三日

島根縣松江病院ヲ元島根縣醫學學校跡ヘ設置シ治療規則別紙ノ通相定メ本月三日ヨリ開院ス

(別紙) 島根縣松江病院治療規則

總則

第一條 本院ハ主トシテ管内衆庶ノ疾患ヲ診察治療シ以テ醫道ノ改進ヲ計ル所トス

第二條 患者ノ診察治療ヲ別ナテ入院往診外來ノ三種トシ各其規則ノ手續ニ從フヘシ

第三條 診察時間ハ午前九時ヨリ午後三時マテトシ其他ノ時間ハ宿直醫院ニ於テ之ヲ取扱フモノトス尤モ重
症急患ノモノハ何時ニテモ診察治療ヲ施スヘシ

但時侯ニヨリ本文時限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

●第十類 ○衛生 ○病院 驅癪院

第四條 藥價及治療用物品代價ハ左ノ範圍ニ於テ徵收スヘシ

一 内服藥ハ一劑ノ代金貳錢以上五錢以下

一 外用藥ハ一劑ノ代金貳錢以上四錢以下

一 治療用物品ハ都テ原價ニ據リ相當代價ヲ定ム

第五條 投藥ヲ受ケタル者ハ前條ノ價格ニヨリ即時ニ其料金ヲ納ムヘシ

但入院患者ハ此限ニアラス

第六條 診察料及手術料ハ納ムルニ及ハス

第七條 貧困ニシテ重病ニ罹リ藥價ヲ償フ能ハサル者ハ親屬連署ノ上藥價ノ免除ヲ願出ツル時ハ詮議ノ上之ヲ免除スルコトアルヘシ

但願書ニハ其地戸長ノ公証ヲ要ス

第八條 患者診察休日ハ左ノ如シ、

一月一日ヨリ三日マテ

定例祝祭日

日曜日

十二月二十九日ヨリ三十一日マテ

但休日ト雖宿直ノ醫員及ヒ各地出張ノ醫員ニ於テハ診察治療ヲ施スモノトス

入院規則

第九條 入院ヲ乞フ者ハ其由受付ケニ申出テ醫員ノ指揮ヲ待ツヘシ

但傳染病其他病症ニヨリテ入院ヲ許サ、ルコトアルヘシ

第十條 入院許可ヲ得タル者ハ保証人連署ノ上左式ノ証書ヲ出スヘシ

但保証人ハ松江市街居住ノ身元健ナル戸主ヲ要ス若シ松江市街中保証人ト爲ル者ナキ時ハ本縣在籍ノ身

元健ナル戸主ヲシテ保証セシムルヲ得

証書式(幼少ノモノ入院セシ時ハ本文書式ノ意)

證

自分儀病患ニ罹リ入院治療ヲ受ケ候ニ付テハ御規則堅ク可相守若シ本人身上ニ於テ事故出來候節ハ保証人ニ於テ都テ引受ケ可申仍テ証書差出候也

何府縣郡町村番地住或ハ寄留

年 月 日

本人 姓名

名 印

島根縣何郡何町村番地

姓名

名 印

保証人 姓名

名 印

松江病院御中

第十一條 病室料(夜具火鉢藥瓶敷油料及ハ左ノ三等ニ分チ本人ノ望ミニ任セ其料金ヲ納メムヘシ)

一等 一人 一日分金拾五錢

二等 一人 或ハ三人 一日分金拾錢

三等 一人 或ハ三人 一日分金七錢

第十二條 食餌料ハ左ノ三等ニ分チ本人ノ望ミニ任セ之ヲ供スヘシ

一等 金拾五錢

二等 金拾貳錢

三等 金七錢五厘

但物價ノ昂低ニ由リ臨時増減スルコトアルヘシ

第十三條 看護人及夜具等ハ本院備付ノ物ヲ以テ病者ノ使用ニ充ツルト雖本人ノ望ミニヨリ別ニ看護人ヲ連

レ來リシ者ハ其旨受付ヘ届置クヘシ

●第十類 ○衛生 ○病院 臨瀛院

第十四條 藥價病室料食餌料ハ毎月三回^{十日}ニ之ヲ納ムヘシ

但退院ノ節ハ本文期日ニ係ハラズ即時ニ完納スヘシ

第十五條 患者入院ノ上ハ進退起居食餌及他人ニ應接スル等都テ本院職員ノ指揮ニ從フヘシ

第十六條 往診治療ハ患者ノ病症ニ由リ本院シ難キモノ及ヒ遠隔ノ地ニ在リテ容易ニ本院シ難キ者ノ爲メニ之ヲ設クルモノトス

第十七條 遠隔ノ地ニハ時々醫員ヲ派遣シ適當ノ位置ヲトシ期日ヲ定メ最寄患者ヲ集メテ診察治療セムヘシ

但位置及期日ハ別ニ告示スヘシ

第十八條 往診ヲ乞フ者ハ患者ノ住所姓名病狀等ヲ受付ニ申出テ差圖ヲ待ツヘシ

第十九條 往診ヲ受クルトモ其旅費等ハ一切差出ニ及ハズ

外來診察規則

第二十條 本院ニ來リ診察治療ヲ乞フモノハ其住所姓名年齡職業ヲ受付ニ申出テ小札ヲ受取リ扣所ニ在リテ呼出シヲ待ツヘシ

第二十一條 診察治療済ノ上付與セラル、處方箋ヲ受付ニ出シ藥價ヲ收メ而後其方箋ヲ藥局へ出シテ調藥ヲ乞フヘシ

第二十二條 診察所ヨリ渡シタル姓名札ハ其後治療及投藥ヲ乞フ時必ス持參シテ受付ニ差出スヘシ

●島根縣令第四十六號 明治二十五年三月三十日

明治十九年^{十一月} 縣令第五十一號島根縣松江病院治療規則第五條第六條來ル四月一日ヨリ左ノ通リ改正ス

第五條 診察料方箋料ハ左項ニ從ヒ徵收スヘシ

一 管内ノモノ方箋料金五錢

一 管外ノモノ方箋料金貳拾錢

第六條 藥價及治療物品代價診察料方箋料ハ即納スヘシ

但入院患者ハ此限ニアラス

●島根縣令第四十六號 明治二十六年四月一日

明治十九年^{十一月} 縣令第五十一號島根縣松江病院治療規則第五條第一項左ノ通改正シ明治二十六年度ヨリ施行ス

一 管内ノモノ方箋料金拾錢

●島根縣令第二十六號 明治二十八年三月三十日

明治十九年^{十一月} 本縣令第五十一號島根縣松江病院治療規則中左之通改正シ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

第五條 診察ノミヲ請フ者ハ左ノ區別ニ依リ診察料ヲ徵收ス

一 管内ノモノハ一回金貳拾錢

二 管外ノモノハ一回金四拾錢

管外ノ者ニシテ本院ノ治療ヲ受ルトキハ初診ニ限リ診察料金四拾錢ヲ徵收ス

處方書ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ依リ方箋料ヲ徵收ス但診察料ヲ納ムル者ハ各半額ヲ徵收ス

一 管内ノモノハ金貳拾錢

二 管外ノモノハ金四拾錢

第十一條 中病室料三等一日分金七錢トアルヲ金六錢トス

●訓令第六號 明治二十三年六月四日

其院職制左ノ通改正ス

島根縣松江病院職制

松江病院長

●第十類 ○衛生 ○病院 醫院

一 松江病院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 院長 一名
- 副院長 一名
- 幹事 一名 副長ヲ以テ之ニ充ツ
- 調劑長 一名
- 醫員 無定員
- 調劑員 無定員
- 書記 無定員

一 院長ハ専ラ診察治療ノ事ヲ擔當シ且ツ職員ヲ監督シ院內諸般ノ事ヲ總理ス

一 副院長ハ院長ヲ輔ケ診察治療ニ從事ス院長不在ノトキハ院務ヲ代理ス

一 幹事ハ院長ヲ輔ケ諸般ノ事務ヲ幹理ス

一 調劑長ハ調劑員ヲ指揮シテ調劑製藥ノ事ヲ監督シ藥品飲食品ノ鑑定試験ニ從事ス

一 醫員ハ院長ノ指揮ヲ受ケ診察治療ニ從事ス

一 調劑員ハ調劑長ノ指揮ヲ受ケ調劑製藥ニ從事ス

一 書記ハ院長ノ命ヲ受ケ金錢出納物品管理其他庶務ニ從事ス

●訓令衛第百四號 明治二十年三月九日 松江病院
院長副院長共不在之節ハ上席醫員ニ於テ其事務ヲ代理スヘシ

●訓令衛第百四〇號 明治二十三年十月二十八日 松江病院
其院職員中ニ監獄醫ヲ兼務セシメ監獄署在監人ノ治療ヲ擔當セシム

●島根縣訓令衛第百四號 明治二十四年三月十九日 松江病院院長

廿三年訓令
第六號
廿五年訓令
第十四號

警察部並松江警察署ノ醫務左記ノ事項來ル四月一日ヨリ其院ニ於テ取扱ハル

- 一 巡查志願人体格検査ノコト
- 二 變死傷入檢案ノコト
- 三 路上急病人治療ノコト
- 四 巡查教習所並松江警察署巡查病氣診斷ノ事

●訓令衛第百二十八號 明治十九年十二月三日 島根縣松江病院

其院職制事務章程並職員俸給表別紙之通相定ム

- 島根縣松江病院事務章程
- 主管ノ事務左ニ列記スルモノハ院長其意見ヲ具然シ允可ヲ得テ後施行シ其他ハ院長之ヲ專行スルヲ得但其執行ニ付テハ院長其責ニ任ス
- 第一 新ニ事ヲ創メ又ハ規則ヲ改更シ或ハ定例成規ナキ事ヲ施行スル事
 - 第二 處務規程ヲ定メ若シハ之ヲ變更スル事
 - 第三 月給五圓以上ノ雇ヲ命罷シ及其給與額ヲ増減スル事
 - 第四 職員ノ願伺ヲ處分スル事
 - 第五 職員以下ニ地方派出ヲ命スル事
但巡回治療又ハ往診ノ爲メ派出ヲ命スルハ此限ニアラス
 - 第六 職員以下ニ賞與又ハ慰勞金ヲ與フル事
 - 第七 物品建物等ヲ貸借シ又ハ之ヲ賣却スル事
 - 第八 建物ヲ新築シ又ハ之ヲ模様替スル事
 - 第九 死体ヲ解剖スル事
 - 第十 一應金拾圓以上ノ金額ヲ以テ需用ノ物品ヲ購求シ又ハ建物ヲ修繕スル事

●第十類 ○衛生 ○病院 醫院

第十一 豫算外ノ金員ヲ支消スル事
第十二 貧困患者ノ藥價入院料賄料ヲ免除スル事
島根縣松江病院職員俸給表

| 職名 | 給額 |
|-----|----------------|
| 院長 | 年俸千五百圓以上千八百圓以下 |
| 副院長 | 年俸千二百圓以上千四百圓以下 |
| 醫員 | 月俸八圓以上八十圓以下 |
| 藥局長 | 月俸三十圓以上五十圓以下 |
| 藥劑員 | 月俸七圓以上十五圓以下 |
| 書記 | 月俸六圓以上十五圓以下 |

●島根縣訓令第一四號 明治二十五年五月五日

松江病院長

其院事務章程中第十二ヲ削除ス

●島根縣訓令第二十一號 明治二十六年十一月三十日

松江病院

其院雇ノ名義ヲ以使用スルモノ、俸給ハ明治二十六年十二月一日ヨリ日給ト爲スヘシ

●訓令第五號

明治二十年三月三十一日

島根縣松江病院

其院職員俸給及旅費支給規則別紙之通相定メ月俸支給規則ハ四月一日ヨリ施行スヘシ
右訓令ス

(別紙)

島根縣松江病院職員俸給支給規則

- 第一條 年俸ハ之ヲ四分シ二月五月八月十一月ノ四期ニ於テ各月四日之ヲ支給シ月俸ハ毎月二十六日支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ繰上トス
- 第二條 新任ノトキハ職務ニ就ケル當日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス
- 第三條 轉任ノトキハ前任ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス
- 第四條 公務ニ由リ旅行スルモノハ第一條定ル所ノ期日ニ拘ハラズ翌月迄ノ俸給ヲ支給スルヲ得
- 第五條 廢職退職ノ者事務引繼發務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ從事スルトキハ其間從前ノ俸給ヲ支給ス
- 第六條 願濟休暇旅行ノ者及私事ノ故障(自己ノ病氣)ニ由リ出勤セサル者三十日已後ハ日割ヲ以俸給ノ半額ヲ減スルモノトス
- 第七條 病氣(轉地療)ニ由リ出勤セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス但公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ此限ニテラス
- 第八條 廢職退職及死亡ノトキハ當月分ノ俸給ヲ支給シ日割ヲ以計算セス但出張中廢職退職ノトキハ其命令到達ノ日ヲ以テ區分ス
- 第九條 優恩ニ由リ賜暇休養及暑中休暇ハ第六條第七條ノ限リニアラス
- 第十條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以計算スルモノトス
- 第十一條 減俸又ハ願濟休暇旅行病氣其他ノ事故ニヨリ俸給ヲ追徴スヘキモノアルトキハ年俸ハ次期月俸ハ翌月ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス
- 第十二條 一ヶ月内ニ於テ廢職或ハ退職シ更ニ就職シタルトキハ其當月分新任ノ俸給ヲ支給セス尤モ新任ノ俸給多キトキハ其差額ノミヲ支給ス
- 第十三條 第六條ノ場合ト第七條ノ場合ト相續テ起ルトキハ其第六條ニ始リ第七條ニ終レハ其間通算シ九十日ノ後俸給ヲ減シ第七條ニ始リ第六條ニ終レハ其間通算シ三十日ノ後俸給ヲ減ス

●第十類 ○衛生 ○病院 聖福院

第十四條 優遇ニ由リ賜暇休養者中休暇及忌引等ノ場合ト第六條第七條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇休養
休暇又ハ忌引ノ日數ヲ除キ前後ノ日數ヲ計算シ減俸スルモノトス
第十五條 俸給日割計算ノ法ハ月額ヲ以テ其月ノ現日數ニ割合計算スルモノトス

島根縣松江病院職員旅費規則

第一條 島根縣松江病院職員公務ニ依リ旅行スルトキ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ本則ニ依リテ旅費ヲ支
給ス

第二條 旅費ハ各職名ニ依リ分テ四種トシ別表ノ定ムル處ニ從ヒ順路ノ路程ニ依リテ旅車賃旅船賃車馬賃及日
當ヲ支給ス但車馬賃及日當ハ管内外ニ區別シ之ヲ支給ス

第三條 旅車賃ハ旅車旅行旅船賃ハ旅船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ
支給ス

第四條 官廳若シハ病院ニ於テ有スル舟車馬及全上ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ旅行シ若シハ旅行ノ性
質ニ依リ特ニ舟車馬等ノ實費拂フ許可シタルトキハ本令ノ旅車賃旅船賃及車馬賃ヲ支給セス

第五條 旅車賃ハ哩數旅船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス

第六條 赴任又ハ管外旅行ノ爲メ其管内ヲ通過スルトキハ其路程ハ管外ニ準シ又管内巡回ノ際其便宜ニ依リ
管外ヲ通過スルトキハ其路程ハ管内ニ準ス

第七條 日當ハ陸路六里未滿旅車十哩未滿及旅船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス
但公務ノ都合ニヨリ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給ス

第八條 旅車賃旅船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給ス
但其一位未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算ス
但旅車賃及旅船賃ハ會計年度ニ係ハラス旅車旅船ノ到達地ニ着ケル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算ス

第十條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ該職相當ノ車馬賃旅車賃若シハ旅船賃ノ二倍ヲ支給ス
第十一條 廢職若シハ退職ノ際事務引續發務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給
ス

第十二條 舊奉職中事務取調ノ爲メ出張ヲ命スルモノ非職ノ者ハ雇ノ旅費額在職ノ者ハ其俸給ヲ別表ニ照
其相當額ヲ支給ス

第十三條 新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任ノ職名相當ノ旅費ヲ支給ス

第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給ス
第十五條 旅行中廢職死亡又ハ諭旨退職シタルモノハ前職相當ヲ以舊任地マテノ旅費ヲ支給ス

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ旅車旅行ハ一日二百哩陸路旅行ハ
一日百海里陸路旅行ハ一日十二里トス

但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十
二時間トシ其日數ヲ計算ス
(別表旅費額ハ改正ニ付添ス)

島根縣訓令第三號 明治二十六年三月三十一日 松江病院

其院雇員日給其他支給規則別紙ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス
但明治二十年三月本縣訓令第六號雇員日給其他支給規則ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

雇員日給其他支給規則
一 雇小使看病人等日給ヲ以テ雇入タルモノ其給料ハ勤務日數ニ據リ支給ス
但一般休暇日欠勤中ノ休
暇日ヲ除ク忌引日ハ之ヲ支給シ病氣引其他不勤ノ日ハ一切支給セサルモノトス
一 給料ハ前月二十一日ヨリ翌月二十日迄分テ其月二十六日支給スルモノトス若シ休暇日ナレハ順延トス
一 非常駐付夫足留給ハ半年分テ毎年九月二十六日ニ下付シ駐付金ハ壹度金貳拾錢以内支給ス

第十類 ○衛生 ○病院 醫院

●訓令第百三十一號 明治十九年十二月三日

島根縣松江醫院

其院宿直規則並非常心得別紙ノ通相定ム

(別紙)

宿直規則

第一條 宿直ハ病院職員ノ内左ノ三名毎日交互輪番ヲ以テ院内ニ詰切り各自ノ職掌ニヨリ臨時ノ事務ヲ取扱フヘシ

但書記ハ特ニ夜中院内ヲ巡視シ非常ノ憂ナキ様警戒スヘシ

醫師 一名

藥劑員 一名

書記 一名

前項ノ外醫員一名島根縣松江監獄ニ宿直シテ臨時ノ診察治療ニ従事スヘシ

第二條 宿直ヲ分テテ平常休暇ノ二種トナシ平常宿直ハ退出時限ヨリ翌日出勤時限マテ詰切り休暇宿直ハ出勤時限ニ出頭シ翌日出勤時限迄詰切ルモノトス

但前夜宿直ノ者ト雖モ翌日ノ勤務ハ他ノ職員ト異ナルコトナカルヘシ

第三條 宿直人名簿ハ書記之ヲ管理シ宿直月日ヲ記入シ各自ノ檢印ヲ取置クヘシ

第四條 鎖鑰ハ各擔掌ノ宿直員之ヲ取扱ヒ諸般ノ取締ヲナシ且宿直中起リシ事項ハ細大漏ナク宿直日誌ニ詳記シ翌日擔掌ノ主任者ヘ引續クヘシ

非常心得

第一條 火災水災其他非常ノ變アルトキハ院前ニ高張ヲ點シ嚴重取締ヲ爲スヘシ

第二條 非常ノ變アルトキ宿直員ハ勿論職員備小使等速ニ出頭シ院長ノ指揮ヲ受ケ各主管物品ノ擁護ニ従事スヘシ但事ノ緩急ニ依リ臨機處置スルハ勿論ナリトス

第三條 書籍器械藥品等ハ平常豫メ擁護ノ順序ヲ定メ急劇ノ際顛倒失墜ナキ様注意スヘシ

第四條 非常ノ際出頭ノ職員以下姓名ハ宿直書記之ヲ記載シ事止ムノ後院長ニ差出スヘシ

●訓令第百二十一號 明治二十年七月十八日

松江病院

其院巡回治療之義ハ別紙心得書ニ據リ取扱フヘシ

巡回治療心得書

一 患者ノ診察治療ハ止宿所ニ於テ取扱フヘシ尤モ往診ヲ乞フ者アルトキハ通路ニ沿接ノモノニ限り之ニ應スルヲ得

一 參集ノ開業醫ニハ患者ニ就キ病理治法ヲ説示シ餘暇アルトキハ其質疑ニ答フヘシ

一 患者ニハ懇篤ニ診察治療ヲ施シ最寄ノ開業醫若シハ藥舖ニ就キ投藥ヲ乞ハシムヘシ但藥品ノ供給不便ナル地ニ在テハ出張員直チニ投藥シ藥價ヲ收入スルヲ得

一 患者ハ成ルヘク其期日内ニ診察治療スヘシ若シ結了セザルトキハ最寄開業醫ニ就キ或ハ來院治療ヲ乞フヘキ旨ヲ諭スヘシ

一 患者ノ診察治療ニ關スル雜務ハ隨行醫員ニ於テ取扱フヘシ

●島根縣訓令第百二十三號 明治二十五年十二月二日 松江病院 藥劑院

其院執務時間自今左之通改定ス

四月二十日ヨリ七月十日マテ午前八時ヨリ午後四時ニ至ル

七月十一日ヨリ九月十日マテ午前八時ヨリ午後十二時ニ至ル

九月十一日ヨリ四月十九日マテ午前九時ヨリ午後五時ニ至ル

事務繁劇ノ場合ニ於テハ院長ノ指揮ニ依リ晝夜ニ拘ヘラス執務スヘシ

●島根縣訓令第百六號 明治二十六年四月十二日 松江病院 藥劑院

技術上必要ナルモノハ新聞紙雜誌ヲ購入シ及法律命令ノ解釋書ヲ購入シ又ハ之ヲ印刷ヲ爲スヘカラス

●第十類 ○衛生 ○病院 藥劑院

三、院長醫員調劑員ノ姓名

●訓令衛第二十一號 明治二十一年六月十三日
其院規則及豫算別紙之通り相定ム

島根縣聖澤院

右訓令ス
(別紙)

聖澤院規則

第一章 職制

第一條 聖澤院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 一人

醫員 無定員

書記 無定員

第二條 院長ハ醫員職員ヲ統督シ諸般ノ事務ヲ總理ス

第三條 醫員ハ院長ノ命ヲ受ケテ檢査治療ニ從事シ且ツ調劑ノ事ヲ掌ル

第四條 書記ハ雜務會計ヲ擔當シ且ツ院內取締ノ責メニ任ス

第二章 檢査心得

第五條 新ニ娼妓營業ヲ爲ス者檢査上該營業ニ適セサルカ又ハ堪ヘサル者ト認ルトキハ其旨詳記シ本人所轄ノ警察署又ハ分署ニ通知スル者トス

第六條 娼妓重病又ハ痲疾ニ罹リ營業ニ堪ヘサル者ト診斷スルトキハ其旨ヲ詳記シ本人所轄ノ警察署又ハ分署ニ通知スル者トス

第七條 檢査ノ上ハ娼妓ノ攜帶セル檢査証票ハ病毒有無ノ檢印ヲ爲スヘシ

第八條 檢査中ハ介添婦ノ外他人ノ入ルヲ許サス

第三章 治療心得

第九條 患者ノ治療ハ檢査場ニ於テス檢査場ニ出ル能ハサル者ナルトキハ其病毒ニ於テス

第十條 癩毒アリト雖トモ傳染ノ虞ナキ者ハ自宅加養ヲ許シ外來患者トシテ當院ノ治療ヲ受ケムルコトアルヘシ

第十一條 檢査上淋疾ノ患者モ時宜ニ因リ入院セムルコトアルヘシ

第四章 患者心得

第十二條 患者入院中ハ醫員職員ノ指示ヲ堅ク遵守スヘシ

第十三條 治療服藥ハ看病婦ノ指示ニ背クヘカラス

第十四條 入院中ハ本院投藥ノ外用ユルコトヲ禁ス

第十五條 病室内ニ於テ飲食物ヲ調理スルヲ禁ス

第十六條 已ムヲ得サル要事アリテ外出又ハ運動ノ爲メ廊内ヲ逍遙セント欲スルトキハ貸席取締ノ証票ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ此場合ニハ貸席取締ヨリ付添人ヲ付スヘシ

第五章 雜則

第十七條 患者ノ退院ヲ許ストキハ貸席取締ノ受取証ヲ差出サシムヘシ

第十八條 入院患者ニ面會ヲ乞フ者又ハ物品ヲ寄贈セントスル者ハ貸席取締ノ証票ヲ攜帶スルニアラサレハ之ヲ許サス

二但夜間ハ面會ヲ許サスト雖モ貸席取締ノ特別証書ヲ持參スル者ハ許スコトアルヘシ

●訓令衛第四號 明治二十二年四月一日

聖澤院長

●訓令衛第五號 明治二十二年四月一日

濱田、温泉津、杵築、安來、三保關、

西郷、松江、檢梅所

●第十類 ○衛生 ○病院 聖澤院

檢梅所事務ハ驅梅院ノ指揮ヲ受クヘシ

●衛達第五十六號

明治十九年四月十九日

島根縣驅梅院

本年ニ衛達第四十一號達娼妓梅毒検査條項左之通改正候條此旨相達候事

- 一娼妓一日平均人員
- 二梅毒検査總數

眞性患者

内 假性患者

不患者

解釋

一娼妓一日平均人員ハ一ケ年間毎月末ノ現在數ヲ以テ平均スヘシ

一検査總數ハ一ケ年間検査シタル員數ニシテ例ヘハ一人ノ娼妓毎月四回検査ヲ受クル時ハ即チ一ケ年間四十八人ト算スルカ如シ

●訓令衛達第二十二號

明治二十一年六月十三日

島根縣驅梅院

其院職員月俸其他支給規則別紙之通り相定ム

右訓令ス

島根縣驅梅院職員月俸其他支給規則

第一條 月俸ハ毎月二十六日支給シ休日ニ當ルトキハ繰上ケトス但驅梅院外ニ奉職ノモノハ爲換ヲ以テ遞送スルモノトス

第二條 醫員在勤地ニ一ケ月間娼妓營業者ナキトキハ其月々俸ハ支給セサルモノトス

第三條 新任ノトキハ職務ニ就キタル當日ヨリ支給スヘシ轉任ノモノハ前任ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新任ノ俸給ヲ支給スルモノトス

廿一年訓令
第五十四
廿六年全第
四號發原

第四條 公務ニ由リ旅行スルモノハ第一條ノ規日ニ拘ハラヌ翌月迄ノ俸給ヲ支給スルヲ得

第五條 廢職退職ノ者事務引繼殘務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間從前ノ俸給ヲ支給ス

第六條 願濟休暇旅行ノ者及私事ノ故障(自己ノ病氣)ニ據リ出勤セサル者三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第七條 病氣(梅毒)ニ由リ出勤セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス但公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ此限コフラス

第八條 廢職退職及死亡ノトキハ當月分ノ俸給ヲ支給シ日割ヲ以テ計算セス但出張中廢職退職ノトキハ其命令到達ノ月ヲ以テ區分ス

第九條 優恩ニ由リ賜暇休養及暑中休暇ハ第六條第七條ノ限ニテアラス

第十條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第十一條 減俸又ハ願濟休暇旅行病氣其他ノ事故ニヨリ俸給ヲ追徴スヘキモノアルトキハ翌月ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

第十二條 一ケ月内ニ於テ廢職或ハ退職シ更ニ就職シタルトキハ其當月分新任ノ俸給ヲ支給セス尤新任ノ俸給多キトキハ其差額ノミヲ支給ス

第十三條 第六條ノ場合ト第七條ノ場合ト相續テ起ルトキハ其第六條ニ始リ第七條ニ終レハ其間通算シ九十日ノ后ヲ俸給ヲ減シ第七條ニ始リ第六條ニ終レハ其間通算シ三十日ノ后俸給ヲ減ス

第十四條 優恩ニ由リ賜暇休養暑中休暇及忌引等ト第六七條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇休養休暇又ハ忌引ノ日數ヲ除キ前後ノ日數ヲ計算シ減俸スルモノトス

第十五條 俸給日割計算ノ法ハ月額ヲ以テ其月ノ現日數ニ割合計算スルモノトス

第十六條 雇小使看病人等日給ヲ以テ雇入タルモノ其給料ハ毎月末日勤務日數ニ據リ之ヲ支給スヘシ但日限二日等ノ公暇ハ勤日數ニ算スヘシト雖モ欠勤日ヨリ引續キ公暇ニ涉ルモノハ之ヲ算入セス

●第十類 ○衛生 ○病院 ○驅梅院

●訓令衛第百五十四號 明治二十一年十二月二十一日

●驅梅院長

本年六月訓令衛第二十二號職員月俸其他支給規則中毎月二十六日ノ下(十二月ニ限リ二十日尤モ休日ナレハ翌日若シテシセ日ヨリ廿二日マテ休日ナレハ繰上トス)ノ割註ヲ追加ス

右訓令ス

●島根縣訓令衛第四號 明治二十六年三月三十一日 驅梅院

明治二十一年六月訓令衛第二十二號驅梅院職員月俸其他支給規則第十六條左ノ通更正シ來ル四月一日ヨリ施行ス

第十六條 雇小使看病人等日給ヲ以テ雇入タルモノ其給料ハ勤務日數ニ據リ支給スヘシ

但一般休暇日欠勤中ノ休日ヲ除ク忌引日ハ之ヲ支給シ病氣引其他不勤ノ日ハ一切支給セサルモノトス
給料ハ毎月二十一日ヨリ翌月二十日迄分ヲ其月二十六日支給スルモノトス若シ休暇日ナレハ順延トス

●島根縣訓令衛第二十一號 明治二十六年十一月三十日 驅梅院

其院雇ノ名義ヲ以テ使用スルモノ、俸給ハ明治二十六年十二月一日ヨリ日給ト爲スヘシ

●訓令衛第二十七號 明治二十年八月十八日 島根縣驅梅院

其院職員旅費規則別紙之通相定ム
右訓令ス

(別紙)

島根縣驅梅院職員旅費規則

第一條 島根縣驅梅院職員公務ニ依リ旅行スルトキ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ本則ニ依リテ旅費ヲ支給ス

第二條 旅費ハ各職名ニ依リ分テ四種トシ別表ノ定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程ニ依リ旅車賃旅船賃車馬賃及日當ヲ支給ス但車馬賃及日當ハ管内外ニ區別シ之ヲ支給ス

廿五年訓令
第四號參

第三條 旅車賃ハ旅車旅行旅船賃ハ旅船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ宿泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第四條 官廳若クハ驅梅院ニ於テ有スル舟車馬及全上ニ於テ借入傭入タル舟車馬等ニテ旅行シ若クハ旅行性質ニ依リ特ニ舟車馬等ノ實費拂フ許可シタルトキハ本令ノ旅車賃旅船賃及車馬賃ヲ支給セス

第五條 旅車賃ハ哩數旅船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ

第六條 赴任又ハ管外旅行ノ爲メ其管内ヲ通過シタルトキハ其路程ハ管外ニ準シ又管内巡回ノ際其便宜ニ依リ管外ヲ通過スルトキハ其路程ハ管内ニ準スヘシ

第七條 日當ハ陸路六里未滿旅車十哩未滿及旅船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス
但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給スヘシ

第八條 旅車賃旅船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給スヘシ
但其一未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ
但旅車賃及旅船賃ハ會計年度ニ係ラス旅車旅船ノ到達地ニ着タル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算スヘシ

第十條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ該職相當ノ車馬賃旅車賃若クハ旅船賃ノ二倍ヲ支給スヘシ

第十一條 廢職若クハ退職ノ際事務引繼義務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十二條 舊奉職中事務取調ノ爲メ出張ヲ命スルモノ非職ノ者ハ雇ノ旅費額在職ノ者ハ其俸給ヲ別表ニ照シ其相當額ヲ支給スヘシ

第十三條 新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任職名相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ

第十五條 旅行中廢職死亡又ハ論旨退職シタルモノハ前職相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給スヘシ

●第十類 ○衛生 ○病院 驅梅院

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ海軍旅行ハ一日二百哩詰船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス

但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以一時間ノ行程トス一日ノ旅行時間ハ十二時間トシ其日數ヲ計算スヘシ

第十七條 本縣若シハ驛梅院ニ於テ旅行ヲ命スルトキハ院長ニ於テ豫メ其事務ノ便宜路程ノ近便等ヲ登リ經過ノ路筋旅行日數ヲ定ムヘシ

第十八條 海灣河洲等ノ海里ヲ以路程ヲ算セサル場合ハ里數ニ應シテ馬賃ノ額ヲ支給スヘシ

第十九條 非常急行等ノ如キ場合ニ於テ定額ノ車馬賃ヲ以支給シ難シト見認ルトキハ縣廳ニ於テ實費拂フ許可スルコトアルヘシ

第二十條 一海里ハ十六町九分七厘五毛壹厘ハ十四町七分五厘壹厘ハ三十六町ヲ以計フヘシ

第二十一條 新ニ任用ノ者ハ在勤地迄規則第十三條旅費ヲ支給スヘシ
(別表旅費額ハ改正ニ付容ス)

●島根縣訓令第四號 明治二十五年三月十二日 驛梅院長
明治二十年八月訓令第二十七號旅費規則第二條及別表旅費額左之通り更正シ第六條ヲ削除ス
但本文ハ來ル四月一日ヨリ施行ス

第二條 旅費ハ各職名ニ依リ別表ニ定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程及日數ニ依リ之ヲ支給ス
(別表旅費額ハ改正ニ付容ス)

●甲第一百九號 明治十七年八月三十日 醫師取締規則
醫師取締規則左ノ通相定來九月十日ヨリ施行ス
但明治十四年八月ニ本縣甲第二百一號布達醫務條例其他此規則ニ抵觸スル從前ノ達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止

右布達候事
醫師取締規則

第一條 當管内開業ノ醫師ニシテ管内各地ニ轉居シタル時又ハ他府縣下ニ轉居セントスル時ハ速ニ移住ノ國郡町村名ヲ記シ其旨當廳ニ届出ツヘシ

他府縣下開業ノ醫師ニシテ當管内ニ轉居開業スル者又ハ新ニ醫術ヲ開業スル者ハ免許狀寫及履歷書ヲ添ヘ前項ニ準シ開業ニ先ツテ當廳ニ届出ツヘシ

第二條 醫師廢業又ハ死亡シタル時ハ醫師免許規則明治十六年第三十號布告以下之條第十條ニ據リ七日以内ニ届出ツヘシ
免許狀ヲ亡失毀損シ又ハ氏名族籍ヲ變換シタル者ハ醫師免許規則第八條ニ據リ七日以内ニ書換願出ツヘシ

第三條 醫師出張所自家ノ外ニ診察所又ハ治療所ヲ設クルノ類ヲ設クントスルトキハ其場所及出張期日ヲ記シ其旨當廳ニ願出ツヘシ
但場所期日ヲ變換シ又ハ休廢シタル時ハ其旨速ニ届出ツヘシ

他府縣下ニテ開業ノ醫師當管内ニ出張所ヲ設ケントスル時モ亦前項ニ全シ但出願ノ時ハ免許狀寫及履歷書ヲ添フヘシ

第四條 醫師ハ處方録ヲ製シ施治患者ノ住所職業氏名年齢及其病名藥劑ノ處方病症ノ轉歸等ヲ記シ之ヲ保存スヘシ

處方録ヲ亡失毀損シタルトキハ速ニ當廳ニ届出テ更ニ新帳ヲ製スヘシ

第五條 施治ノ患者ニ藥劑ヲ與フル時ハ其容器又ハ包紙ニ患者ノ姓名藥劑ノ用法及自己ノ姓名若シハ堂號會號等ヲ記シ且内服藥ト外用藥トハ一見辨識シ易キ様區別ヲ設ケ記載スヘシ但堂號會號等ヲ用フコト欲スル者ハ豫メ當廳ニ届置クヘシ

患者ニ處方書ヲ與フル時ハ其年月日ト患者ノ姓名年齢及藥劑ノ用法ヲ詳記シ自己ノ姓名ヲ署シ之ニ捺印スヘシ但藥品名稱ハ零式ヲ記スルヲ得ス秤量ニハ瓦豆等量目ニ關スル文字ヲ用フ則毒藥配伍ノ方劑コトヲ

第五十八號 第五十四號 第五十二號 第五十號 第四十八號 第四十六號 第四十四號 第四十二號 第四十號 第三十八號 第三十六號 第三十四號 第三十二號 第三十號 第二十八號 第二十六號 第二十四號 第二十二號 第二十號 第十八號 第十六號 第十四號 第十二號 第十號 第八號 第六號 第四號 第二號 第一號 照八十六年九月號

●第十類 ○衛生 ○醫師

其種世ニ違シ或ハ之ヲ超ユル者ハ左ノ警點符號ヲ記入スヘシ

警點符號

第六條 醫師ハ左ノ各項ヲ爲スヲ禁ス

- 一 診察ヲ爲サ、ル患者ニ藥劑又ハ處方書若クハ容體書ヲ與フルコト
- 二 免許狀ヲ所持セサル者ニ治療ヲ爲サシムルコト
- 三 藥劑ノ要ヲ辨セサル者ニ藥品調劑ヲ專任スルコト

第七條 此規則ニ掲ケル願届ハ其地戶長衛生委員ノ與書ヲ受ケ所轄郡役所ヲ經由スヘキモノトス但第一條第一項管内轉居ハ前住地ト移住地ト戶長役場所轄甲乙ニ跨ル時ハ双方戶長衛生委員ノ與書ヲ要ス其郡役所々轄甲乙ニ跨ル時ハ双方郡役所ヲ經由スヘシ

第八條 前數條ノ規則ニ違背シタルモノハ違警罪ニ據リ罰セラルヘシ

附則

一 死体ヲ解剖セントスル時ハ本人ノ願書若クハ其家族又ハ親戚等二名以上ノ承諾証ヲ添ヘ施術場ヲ記シ當廳へ願出ツヘシ

●甲第五十四號 明治十八年三月十日

明治十七年ハ本縣甲第百十九號布達醫師取締規則中左ノ通追加改正シ元第七條ヲ第八條ト爲シ以下順次繰下ケ候條此旨布達候事

第六條第一項改正

一 診察ヲ爲サ、ル患者ニ藥劑又ハ處方書若クハ容體書ヲ與ヘ及檢案ヲナサシテ死亡届書若クハ死體檢案書死産証ヲ與フル事

第七條追加

醫師施治ノ患者死亡シタルトキハ主治醫ヨリ第一號書式ノ死亡届書ヲ作り其家人ニ付與スヘシ醫師ノ治

療ヲ受クル猶豫ナクシテ死亡シタル死屍ヲ檢案シタルトキハ第二號書式ノ檢案書ヲ作り其家人ニ付與スヘシ妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ第三號書式ノ死産証ヲ作り其家人ニ付與スヘシ

附則中改正

家族ノ下(又ハ親戚等二名以上)ノ九字ヲ削除ス

第一號書式

死亡届

何府縣何國郡何町村何番屋敷

族籍何誰父母兄弟妻子等

職業

姓

生年月名

一 病名

一 死亡ノ年月日時

但寄留等ノ者ハ何郡何町何番屋敷何ノ誰方寄留若クハ宿泊中ト付記スヘシ

何郡町村

醫師

姓

名印

年 月 日

戶 長 宛

第二號書式 死體檢案書

何府縣何國郡何町村何番屋敷

族籍何誰父母兄弟妻子等

職業

姓

生年月名

一 病名

●第十類 ○衛生 ○醫師

一死亡ノ年月日時

但書第一號書式ノ通

右死体検査候處前記ノ病症ニ據リ死亡シタルコトヲ證シ及御届候也

何郡町村

醫師

姓

名印

年 月 日
戸長宛
第三號書式

死産証

何府縣何國郡何町村何番屋敷

族籍何誰妻妾或ハ何誰姉妹幾女等

職業

姓

名

一妊娠ノ月數
一男女死體分娩ノ年月日時

何郡町村

醫師

姓

名印

年 月 日
戸長宛

●縣令第五十九號

明治二十二年六月十日

明治十七年八月三十日甲第百十九號布達醫師取締規則中第九條左ノ通更正ス

第九條 第一條第二條第三條第五條第六條各項第七條ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●島根縣令第二十二號

明治二十四年三月十二日

明治十七年八月本縣甲第百十九號布達醫師取締規則第一條第三條第一項第四條第二項第五條第一項中(當廳)ヲ(島廳)又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳)トシ第八條左ノ通リ改ム

第八條 第一條第一項管内轉居ハ舊居住地ノ島廳若シハ郡市役所ヘモ届出ヘシ

●島根縣令第百十九號 明治二十五年十二月二十三日

明治十七年八月本縣甲第百十九號布達醫師取締規則第三條左ノ通改正シ第五條第二項ヲ刪除シ第九條中第三條ノ下(第一項本文)ノ五字ヲ加フ

第三條 醫師出張所自家ノ外ニ診察所又ハ治療所ヲ設ケルノ類ヲ設ケントスルトキハ其場所及出張期日ヲ記シ其旨島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ場所期日ヲ變換シタルトキ亦全シ

但他管下ノ開業醫師ニ係ルトキハ設置届出ノ際免許狀寫ヲ添フヘシ
出張所休廢シタルトキハ前項ノ手續ニ據リ速ニ届出ヘシ

●島根縣令第八十四號 明治二十六年九月九日

明治十七年八月本縣甲第百十九號布達醫師取締規則第九條中(第二條)ノ三字ヲ削除ス

●甲第百十六號

明治十七年八月二十八日

開業醫師組合規則左之通相定候條此旨布達候事

開業醫師組合規則

第一條 本縣内ニ於テ開業スル醫師ハ此規則ニ遵ヒ組合規約ヲ定メ其業務ニ關スル法律規則ヲ遵守シ各自本分ノ義務ヲ全クセシコトヲ企圖スヘシ其目的左ノ如ク

一 醫風ヲ改良シ及醫術ヲ研究スル事

二 地方病ノ原因ヲ探究スル事

三 傳染病豫防及治療ノ方法ヲ講究スル事

四 傳染病患者治療普及ノ事

●第十類 ○衛生 ○醫師

| | | | | | | | |
|------|-----|----------|----------|----------|---------|---|---|
| 第十五部 | 全部 | 掛合町外二村 | 多根村外二村 | 宮内村外二村 | 全 | 上 | |
| 第十六部 | 全部 | 波多村外三村 | 順原町外四村 | 八神村外四村 | 野登村外二村 | 全 | 上 |
| 第十七部 | 出雲郡 | 下庄原村外四村 | 出西村外四村 | 富村外四村 | 下直江村外四村 | 全 | 上 |
| 第十八部 | 橋邊郡 | 河下村外五村 | 水谷本莊村外四村 | 小津浦外四浦 | 鹿園寺村外二村 | 全 | 上 |
| 第十九部 | 全部 | 小伊津浦外二浦 | 岡田村外四村 | 鹿園寺村外二村 | | 全 | 上 |
| 第二部 | 神門郡 | 平田村灘分外二村 | 平田町外一村 | 美談村外四村 | | 全 | 上 |
| 第三部 | 全部 | 荒茅村外三村 | 杵築西村外一村 | 杵築東村外一村 | 宇津浦外三浦 | 全 | 上 |
| 第四部 | 全部 | 入南村外四村 | 松寄下村外四村 | 平野村外六村 | 高岡村外五村 | 全 | 上 |
| 第五部 | 全部 | 大石村外三村 | 今市町外一村 | 盛治町外四村 | 上朝山村外四村 | 全 | 上 |
| 第六部 | 全部 | 船津村外三村 | | | | 全 | 上 |
| 第七部 | 全部 | 八幡原村外三村 | 山口村外九村 | 小田村外四村 | 三部村外四村 | 全 | 上 |
| 第八部 | 全部 | 差海村外三村 | 古志町外四村 | 神西村沖分外四村 | | 全 | 上 |
| 第九部 | 全部 | 鳥井村外四村 | 大田村外二村 | 波根西村外二村 | 山中村外四村 | 全 | 上 |
| 第十部 | 安渡郡 | 池田村外四村 | 川台村外一村 | | | 全 | 上 |
| 第十一部 | 全部 | 佐摩村外四村 | 仁万村外四村 | 磯竹村外三村 | | 全 | 上 |
| 第十二部 | 全部 | 久利村外四村 | 井田村外四村 | 福光村外三村 | | 全 | 上 |
| 第十三部 | 全部 | 大家本郷外四村 | | | | 全 | 上 |
| 第十四部 | 全部 | 温泉津村外三村 | | | | 全 | 上 |
| 第十五部 | 全部 | 川本村外四村 | 福式村外三村 | 南佐木村外四村 | 惣森村外九村 | 全 | 上 |
| 第十六部 | 全部 | 築瀬村外七村 | 柏瀬村外五村 | | | 全 | 上 |
| 第十七部 | 全部 | 九日市村外六村 | 畑田村外四村 | 都賀本郷外二村 | 上田村外三村 | 全 | 上 |
| 第十八部 | 全部 | 阿須那村外四村 | 布施村外五村 | 上原村外四村 | | 全 | 上 |
| 第十九部 | 全部 | 下田所村外三村 | 中野村外三村 | 市木村 | 出羽村外六村 | 全 | 上 |
| 第二部 | 全部 | 田津村外三村 | 川戸村外三村 | 市山村外四村 | 日貫村外二村 | 全 | 上 |
| 第三部 | 全部 | 今市村外三村 | 波佐村外二村 | 今福村外三村 | 木田村外三村 | 全 | 上 |

| | | | | | | | |
|-------|-----|---------|---------|---------|---------|---|---|
| 第三十部 | 全部 | 敬川村外四村 | 郷田村外三村 | 淺利村外三村 | 下河戸村外四村 | 全 | 上 |
| 第三十一部 | 全部 | 市村外四村 | 跡市村外二村 | 下有福村外四村 | | 全 | 上 |
| 第三十二部 | 全部 | 治和村外四村 | 田島村外三村 | 内村外三村 | 長濱村外二村 | 全 | 上 |
| 第三十三部 | 全部 | 新町外九町村 | 淺井村外四村 | 下府村外三村 | | 全 | 上 |
| 第三十四部 | 全部 | 程原村外四村 | 高内村外三村 | 木都賀村外三村 | 河内外村四村 | 全 | 上 |
| 第三十五部 | 全部 | 古市場村外二村 | 岡崎村外二村 | 井野村外一村 | | 全 | 上 |
| 第三十六部 | 美濃郡 | 益田本郷外四村 | 下種村外四村 | 中吉田村外三村 | 津田村外四村 | 全 | 上 |
| 第三十七部 | 全部 | 遠田村外三村 | | | | 全 | 上 |
| 第三十八部 | 全部 | 澄川村外三村 | 仙道村外四村 | 正見村外一村 | 宇津村外二村 | 全 | 上 |
| 第三十九部 | 全部 | 都茂村外三村 | 波田村外四村 | | | 全 | 上 |
| 第四十部 | 全部 | 白上村外四村 | 上黒谷村外四村 | 飯浦村外四村 | 高津村外三村 | 全 | 上 |
| 第四十一部 | 全部 | 横田村外四村 | 神田村外四村 | | | 全 | 上 |
| 第四十二部 | 全部 | 森村外四村 | 高峰村外五村 | 中川村外五村 | 寺田村外五村 | 全 | 上 |
| 第四十三部 | 全部 | 青原村外四村 | 須川村外三村 | 日原村外四村 | 柿木村外四村 | 全 | 上 |
| 第四十四部 | 全部 | 真田村外四村 | 七日市村外四村 | 六日市村外四村 | 藏木村外五村 | 全 | 上 |
| 第四十五部 | 全部 | 中町外二町 | 飯田村外四村 | 布施村外二村 | 中村外三村 | 全 | 上 |
| 第四十六部 | 全部 | 下西村外六村 | 都万村外三村 | 郡岡外四村 | 北方村外四村 | 全 | 上 |
| 第四十七部 | 全部 | 海士村外三村 | 布施村外三村 | 美田村外三村 | 知夫村 | 全 | 上 |
| 第四十八部 | 全部 | 知夫郡 | | | | 全 | 上 |

●第十類 ○衛生 ○醫師

●甲告第百九號
 明治十七年十月本縣甲告第三百三十一號告示開業醫組合區畫ノ内第十二部第十三部ヲ合併ノ第十二部ト改メ此旨告示候事
 ●島根縣告示第三十號
 明治二十四年四月九日
 明治十七年十月本縣甲告第三百三十一號開業醫組合區畫中左ノ通更正追加ス

| | | | | | | | | |
|------|-----|------|------|-----|------|-----|-----|-----|
| 第三六部 | 鹿足郡 | 津和野町 | 喜時雨村 | 木部村 | 青原村 | 日原村 | 須川村 | 小川村 |
| 第三九部 | 鹿足郡 | 柿木村 | 七日市村 | 朝倉村 | 六日市村 | 藏木村 | | |

●乙第百三十九號

明治十七年八月三十日

郡町村

客年十月太政官第三十四號布達醫術開業試驗規則ニ依リ試驗ヲ願出ルモノアルトキハ戶長ニ於テ右規則第十條ニ該當スル醫事ニ關スル犯罪若クハ不正行為ノ有無取調副書ヲ以テ開申スヘシ此旨相違候事

●甲告第百十號

明治十八年四月二十七日

醫術開業試驗出願中病氣或ハ事故等ニテ試驗難相受モノハ自今其旨届出候義ト心得ヘシ此旨告示候事

●島根縣告示第二十號

明治二十四年三月十二日

醫術開業試驗規則第九條ノ願書ハ島廳又ハ郡市役所戶長役場町村役場ヲ經由スヘシ

醫師免許規則第二條第八條第十條ノ願書ハ島廳又ハ郡市役所ヲ經由スヘシ

●島根縣令第四十二號

明治二十五年三月三十日

本年三内務省令第一號ニ據リ納ムヘキ醫師並藥劑師免許新規及舊替手数料ノ登記印紙ハ願書ニハ印紙ヲ貼附セシ免狀下付ノ節内務大臣宛受書ヲ作リ其受書ヘ金額相當ノ印紙ヲ貼用シ當廳ヘ進達スヘシ

●島根縣告示第五十八號

明治二十五年四月七日

醫術開業試驗規則第十五條ノ但書並ニ藥劑師試驗規則第八條ノ但書ニ據リ次回ヘ延期ヲ出願スルトキハ願書ニ事故ヲ証明スヘキ書類ヲ添付スヘシ

鍼灸灸治 產婆 入齒齒拔

●縣令第三十六號

明治二十三年三月二十七日

鍼灸灸治營業取締規則別紙ノ通更正ス

(別紙)

鍼灸灸治營業取締規則

第一條 新ニ鍼灸又ハ灸治ノ業ヲ營ント欲スル者ハ師家ノ證明書並修業履歷書ヲ添ヘ縣廳ヘ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

他府縣免許ノ者本縣ニ於テ營業セントスルトキハ本則ニ遵ヒ更ニ免許鑑札ヲ願受クヘシ

第二條 鍼灸灸治ノ營業ハ年齡二十年以上コシテ三年以上修業ヲ爲シタル者ニ非カレハ之ヲ許サス

第三條 營業者族結婚姓名等ニ變更ヲ生シタルトキハ鑑札書換願出テ轉住ノトキハ郡市町村名ヲ詳記シ速ニ届出テ仍ホ舊居住地ノ島廳若クハ郡市役所ヘモ届出ツヘシ

第四條 免許鑑札ヲ毀損遺失シタルトキハ鑑札下附又ハ書換ヲ乞フヘシ

第五條 營業者死亡スルカ廢業若クハ他府縣ヘ轉居セントスルトキハ其旨届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第六條 一定ノ場所ナシ各地ヲ徘徊シテ營業ヲ爲ス者ハ豫メ所轄島廳郡役所市役所ヘ届出テ認許証ヲ受クヘシ

第七條 營業ノ爲メ外出スルトキハ必ス鑑札(認許証ヲ所持スル者ハ認許証ト共ニ)ヲ携帯スヘシ

第八條 本則ニ掲ケル願書書類ハ所轄島廳郡役所市役所戶長役場町村役場ヲ經由スヘシ

第九條 營業者ハ左項ヲ爲スヲ許サス

一 醫師治療中ノ患者ニ其醫師ノ承諾ヲ得スルテ施術スルコト

一 藥方ヲ指示シ又ハ藥劑ヲ授與スルコト

一 猥リコ人ヲ勸メテ施術スルコト

第十條 本則第一條第九條ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第二十二號 明治二十三年二月二十五日

產婆取締規則別紙ノ通更正ス

(別紙)

產婆取締規則

第一條 產婆ハ内務省若クハ本縣ノ免狀ヲ所持スル者ニアラサレハ營業スルヲ許サス

第二條 新ニ產婆ヲ營業セントスル者ハ左ノ科目ノ試験ヲ受ケ其及第證書ヲ添ヘ願出ツヘシ

●第十類 ○衛生 ○鍼灸灸治 產婆 入齒齒拔

但産婆學校卒業證書若シハ之ニ相當スル資格ヲ有スルト認ムル者ハ試験ヲ要セス
婦人骨盤及生殖器構造ノ大意

妊娠經過ノ大意

分娩機能ノ大意

産褥經過ノ大意

産婦及嬰兒ノ看護法

第三條 内務省免許ノ者本縣内ニ於テ開業セントスルトキハ免狀寫ヲ添其旨届出テ府縣免許ノ者ハ免狀寫ニ
履歴書ヲ添願出ツヘシ

第四條 免狀ヲ遺失毀損シタルトキ又ハ氏名族籍ヲ變換シタルトキハ其事由ヲ具シ下付又ハ書換ヲ願出ツヘ
シ

第五條 廢業死亡シタルトキ又ハ他府縣ニ轉住セントスルトキハ速ニ其旨届出免狀ヲ返納スヘシ
但内務省免狀ヲ所有スル者他府縣ニ轉住スルトキハ其旨届出ツヘシ

本縣内ニ於テ轉住シタルトキハ郡市町村名ヲ詳記シ速ニ届出テ仍ホ舊居住地ノ郡市役所(若シハ
一)ニ届出
シ

第六條 本則ニ掲グル願届書類ハ所轄島廳郡役所市役所戸長役場町村役場ヲ經由スヘシ

第七條 左項ニ該ル者ハ産婆タルヲ許サス
一 年齢二十年未滿ノ者

一 墮胎ノ所業アリシ者

一 産科器械ヲ用ユルコト

一 藥劑ヲ與ヘ藥方ヲ指示スルコト

一分娩ノ際異狀アルトキ及産兒死亡ノ場合ニ於テ醫師ノ指揮ヲ待クシテ之ヲ處置スルコト

第九條 産婆ハ適宜組合同規約ヲ定メ業務ノ講習ヲ爲スヘシ

第十條 産婆ハ左ノ諸式ノ帳簿ヲ製シ一年一回七月總計ヲ爲シ翌月五日限リ居住地戸長市町村長へ差出シ檢
印ヲ受クヘシ

第十一條 本則第一條第八條ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
書式

出產流産簿

國郡市町村番地(或ハ寄留)

某妻(又ハ妻女姉妹等)

何年月日出産或ハ流産

氏

年 名 齡

計何人

内

出產

流産

右之通ニ候也

男何人
女何人
男何人
女何人

何郡市町村番地

産婆

戸長市長町長村長

何年月日檢

備考 流産ハ妊娠四ヶ月以上ニ限リ死胎分娩男女不詳ナルトキハ不詳ト記スヘシ寄留者ナルトキハ其本
籍ヲモ併テ記載スヘシ

第十類 衛生 (鍼灸灸治 産婆 入齒齒抜)

附則

從來ノ履歴ニ據リ下付シタル本縣免許狀ハ來ル明治二十四年三月限り無効タルヘシ

●島根縣令第二十八號 明治二十五年三月四日

明治二十三年ニ島根縣令第二十二號產婆取締規則中第八條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加ヘ第九條ヲ第十條トシ以下各條順次繰下ケ元第十一條中第八條ノ下ヘ(第九條本文)ノ五字ヲ挿入ス

第九條 產婆死産ヲ取扱ヒタルトキハ市長戸長町村長宛死産證ヲ作り家人ニ付與スヘシ其死産ノ取扱ヲ爲サハルモ死産證ノ請求ヲ受ケタルトキハ胎兒ニ就キ異狀ナント確認スルモノ又同シ
但醫師ヨリ死産證付與セシモノハ此限ニアラス

●島根縣令第八十號 明治二十六年九月四日

明治二十三年ニ縣令第二十二號產婆取締規則中第十一條左ノ通更正シ出產流産簿書式ヲ削除ス
第十一條 產婆ハ出產流産簿ヲ設ケ出產若シハ流産ノ年月日及男女別産婦ノ住所族籍氏名年齢等ヲ登記保存ス可シ

●島根縣令第四十一號 明治二十四年三月十三日

明治二十三年ニ縣令第二十二號產婆取締規則附則ノ免許狀ハ松江市ヲ除キ來ル明治二十五年三月マテ仍ホ其効ヲ有ス

●島根縣令第五十二號 明治二十四年四月二日

內務省ノ產婆開業免狀ヲ得ントスルモノハ本縣ニ於テ試驗スヘキニ付キ住所姓名生年月ヲ記シ履歴書ヲ添ヘ試驗ノ儀島廳又ハ郡役所市役所ヲ經テ縣廳ヘ願出ヘシ

●島根縣告示第二十八號 明治二十四年四月二日

產婆試驗科目及試驗法ハ左ノ如シ
內務省ノ免狀ヲ得ントスルモノ

豫備論

妊娠論

分娩論

產褥及初生兒論

產婆職務論

右各論二問ツ、筆答セシメ、實地試驗ヲ行フ但適當ノ妊婦産婦ナキトキハ模型ニ依リ口答試驗ヲ行フコトアル

本縣ノ免狀ヲ得ントスルモノ

本科

豫備論

妊娠論

分娩論

產褥及初生兒論

右各論二問ツ、筆答セシム

簡易科

妊娠論

分娩論

產褥及初生兒論

右各論二問ツ、口答セシム

●告示第七十三號

明治二十三年五月一日

產婆試驗每年春秋二季ヲ以テ左ノ箇所ニ於テ舉行ス

●第十類 ○衛生

○統治自治 產婆 入齒齒抜

但期日ハ其際告示スヘシ

出雲國

松江市

廣瀬

大東

掛合

今市

大森

石見國

川本

隱岐國

濱田

益田

津和野

西郷

●縣令第三十七號

明治二十三年三月二十八日

入齒齒拔營業取締規則別紙ノ通更正ス

(別紙)

入齒齒拔營業取締規則

第一條 新ク入齒齒拔ノ業ヲ營ント欲スル者ハ師家ノ証明書並ニ修業履歴書ヲ添ヘ縣廳ヘ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

他府縣免許ノ者本縣内ニ於テ營業セントスルトキハ本則ニ違ヒ更ニ免許鑑札ヲ願受クヘシ

第二條 入齒齒拔營業ハ年齢二十年以上ニシテ一年以上修業ヲ爲シタル者ニ非サレハ之ヲ許サス

第三條 營業者族籍姓名等ニ變更ヲ生シタルトキハ鑑札書換願出テ轉住ノトキハ郡市町村名ヲ詳記シ速ニ届出仍ホ舊居住地ノ島廳若シハ郡市役所ヘモ届出ツヘシ

第四條 免許鑑札ヲ毀損遺失シタルトキハ鑑札下附又ハ書換ヲ乞フヘシ

第五條 營業者死亡スルカ廢業若シハ他府縣ヘ轉居セントスルトキハ其旨届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第六條 一定ノ場所ナク各地ヲ徘徊シテ營業ヲ爲ス者ハ豫メ所轄島廳郡役所市役所ヘ届出テ認許証ヲ受クヘシ

第七條 營業ノ爲メ外出スルトキハ必ズ鑑札(認許証ヲ所持スル者ハ認許証ト共ニ)ヲ携帯スヘシ

第八條 本則ニ掲ケル願出書類ハ所轄島廳郡役所市役所戸長役場町村役場ヲ經由スヘシ

第九條 營業者ハ左項ヲ爲スヲ許サス

一 醫師治療中ノ患者ニ其醫師ノ承諾ヲ得シテ手術スル

一 藥方ヲ指示シ又ハ藥劑ヲ投與スル

但齒拔業ハ血止メトシテ毒劇藥ヲ除ク外他ノ藥品ヲ齒齦ニ塗付スルハ此限ニテアラス

一 入齒材料トシテ鉛銅真鍮ノ類ヲ用フル

一 猥リニ人ヲ勸メテ手術スル

第十條 本則第一條第九條ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第五十四號 明治二十三年五月二十三日

本年三 縣令第三十七號入齒齒拔營業取締規則中第一條ヲ左ノ通り更正シ第二條ヲ削除シ第三條ヲ第二條トシ以下各條順次繰上ケテ元第九條中第一條ノ下(二項)ノ二字ヲ加ヘ第九條ヲ第八條トス

第一條 入齒齒拔營業者ハ本縣免許鑑札ヲ所持スルモノニ限ル

他府縣免許ノ者本縣内ニ於テ營業セントスルトキハ更ニ免許鑑札願受クヘシ

藥品 繪具染料

●縣令第二十一號 明治二十三年二月二十四日

藥種商製藥者營業取締規則左ノ通相定ム

藥種商製藥者營業取締規則

第一條 藥種商又ハ製藥者ノ營業ヲ爲サントスル者ハ島廳郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 藥劑師ニシテ藥品販賣及製造ノ業ヲ爲サントスル者ハ第一條ノ免許鑑札ヲ受クルニ及ハスト雖モ該條ニ準シ届出第四條但書ヲ除クノ外總テ本則ヲ遵守スヘシ

●第十類 ○衛生 (藥品 繪具染料)

四二五

廿三年縣令
第三十三號
廿五年公第
七十三號

廿三年縣令
第五十四號
參照

第三條 藥種商製藥者廢業死亡シ又ハ管外ニ移轉セントスルトキハ十日以内ニ島廳郡市役所ヲ經テ免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ

但管内移轉ノトキハ直ニ島廳郡市役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第四條 藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分チタル容器ニ製造者(藥品製造會社ナレハ其所在地名及會社名)若シハ外國藥品引取人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ
但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス

第五條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ
但衛生試驗所ノ検査印紙ヲ貼付シタル者ハ此限ニアラス

第六條 藥種商製藥者ニ於テ使用スル封緘用印紙ノ衛生試驗所検査ノ印紙ニ紛ハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

第八條 製藥者ハ毎年製造及販賣セシ藥品ノ種類數量ヲ統計シ翌年一月限リ島廳郡市役所ヲ經テ縣廳ニ差出ヘシ
但廢業又ハ管外ニ移轉スルトキハ十日以内ニ差出ヘシ

第九條 第二條第四條第五條ニ違背シ又ハ第六條ノ命令ニ違ハサル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

本則施行以前ニ於テ内務省ヨリ製藥免許証ヲ受ケタル者ト雖モ本則ニ據テ縣廳ニ届出更ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

●縣令第三十三號 明治二十三年三月十八日

本年ニ縣令第二十一號藥種商製藥者營業取締細則第一條届出テノ下(其他ヲ(第四條但書ヲ除クノ外)ニ改正

●島根縣令第七十三號 明治二十五年六月二十九日

明治二十三年ニ島根縣令第二十一號藥種商製藥者營業取締細則中第七條ノ次ハ左ノ三條ヲ加ヘ第八條ヲ第十一條トシ以下線下シ元第九條中第五條ノ下(第八條第二項)ノ六字ヲ挿入ス

第八條 藥種商又ハ製藥者ニシテ行商セントスル者ハ第一條ノ手續ニ據リ免許鑑札ヲ受クヘシ
前項行商者ハ行商ノ際必ス該鑑札ヲ携帯スヘシ

第九條 藥種商製藥者ノ行商者ニシテ廢業死亡シ又ハ管外ニ移轉セントスルトキハ第三條ニ從フヘシ

第十條 藥種商ニシテ店舖ヲ開カス行商ヲ爲ス者ハ第一條ノ手續ニ據リ其旨届出ヘシ

●島根縣告示第百二十六號 明治二十五年十月十三日
縣下藥劑師中藥師開業免狀所持ノモノニシテ免狀書換出願ノ節ハ其試驗ヲ受ケタル管轄廳及受験年月大學卒業ノ者ハ卒業年月ヲ其願書ニ記入スヘシ

●縣令第百二十三號 明治二十二年十一月十三日

何人シリトモ格得兒^{ゴロウシヤ}加留^{カキウ}誤^{ミカ}加留^{カキウ}ヲ賣買授受スルトキハ豫メ其斤量及需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ
前項ノ手續ニ違反シ賣買授受シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●縣令第十七號 明治二十三年二月十九日

明治二十二年ニ縣令第百二十三號何人ノ上ニ醫師藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テスルノ外ノ二十字ヲ加ヘ並ニ届書式中(醫藥)ノ二字ヲ削除ス

●島根縣令第十九號 明治二十六年二月六日

●第十類 ○衛生 ○藥品 繪具染料

廿三年縣令
第百二十三號
廿六年縣令
第十九號

明治二十二年十一月一號 縣令第百二十三號中醫師ノ下ニ「限醫」ノ二字ヲ追加ス

●告示第百八十五號 明治二十三年十月十日

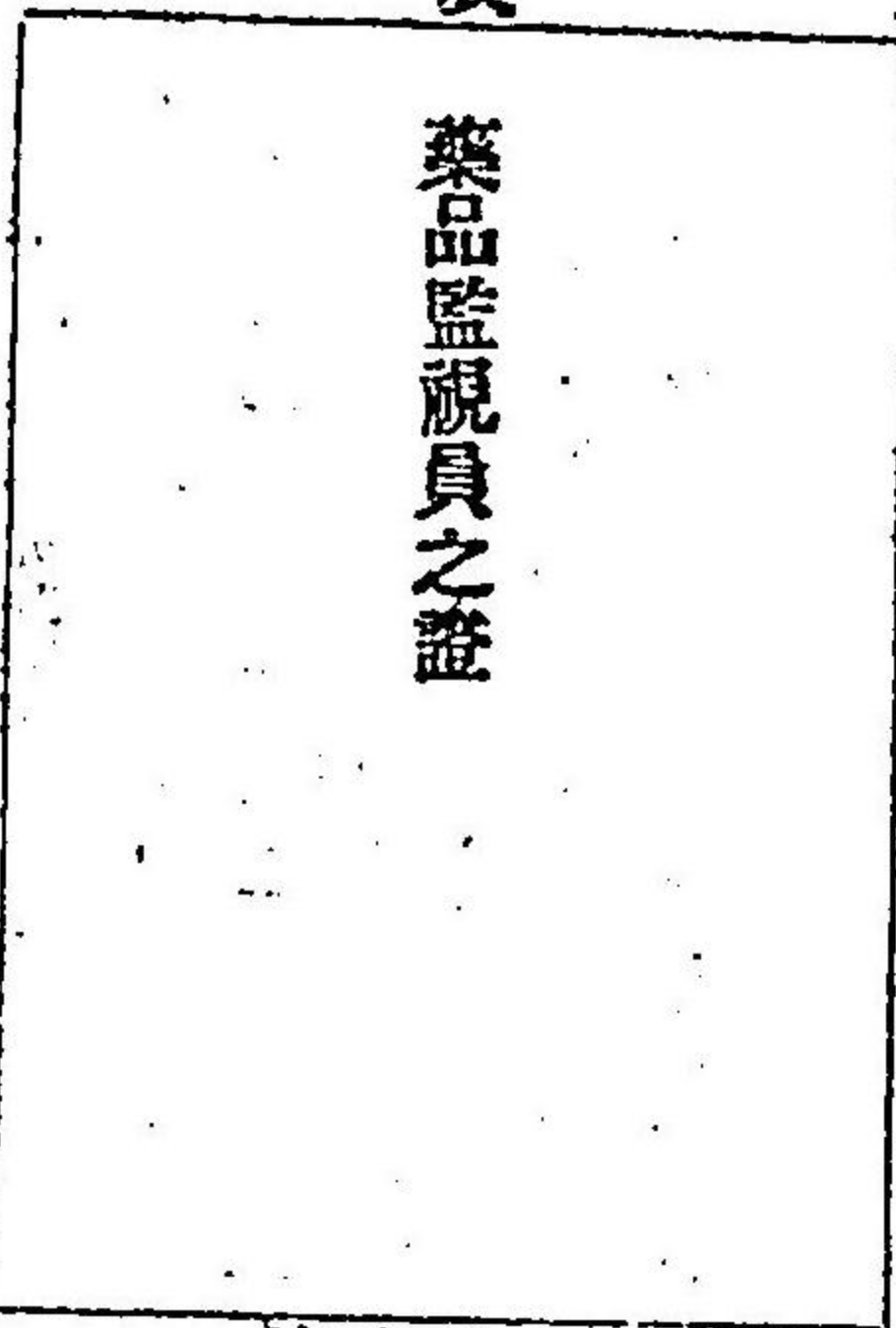
明治二十二年三月法律第十號ニ據リ本縣藥品監視員證票左ノ如ク相定ム

(雁皮紙)

曲尺二寸二分

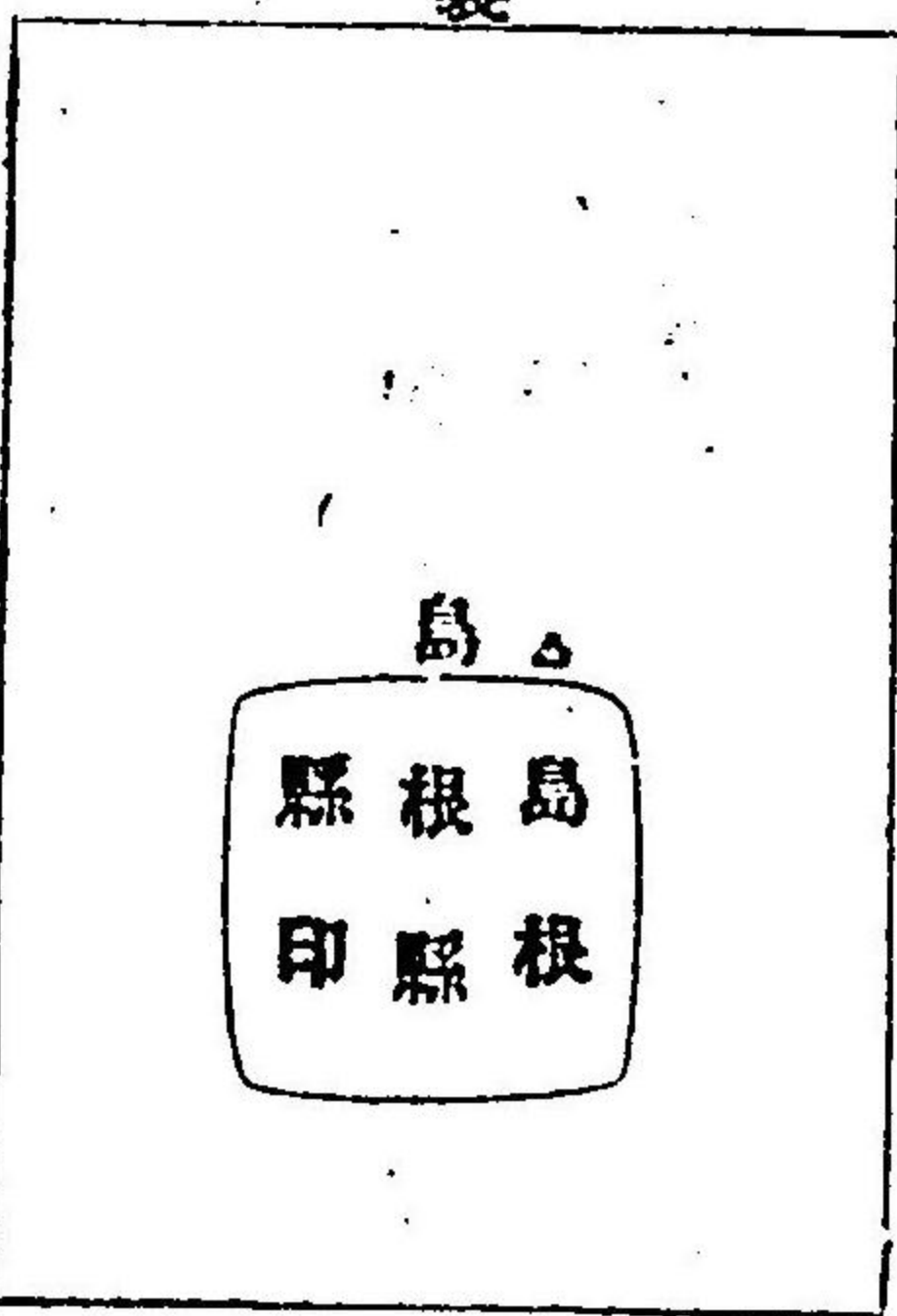
(△印ハ朱書)

表 藥品監視員之證



六六十一

裏



島根縣印

●訓令警第百二十八號

明治二十三年十一月一日

警察署 分署

藥品監視執行ニ付テハ明治二十二年內務省令第四號ニ依リ警察署長分署長ヲ以テ監視員トス就テハ其所轄内

ニ於テ其事ヲ行フヘン但事故ノルトキハ他ノ警部ヲシテ取扱ハンムルヲ得

●島根縣告示第四十三號 明治二十四年五月七日

本年內務省令第三號ニ據リコソホ結核病治療液ヲ使用セントシ内務省ノ認可ヲ請フトキハ其書面ニ左ノ事項

- 一 院長若クハ醫師ノ履歷
- 一 病室ノ數其廣狹及該患者ヲ入ルヘキ豫定數
- 一 助手及看護人ノ數其每人ニ受持タシムヘキ患者ノ豫定數但助手ハ履歷ノ概略ヲ添フヘン

廿四年縣令
第五十一號
第五十三號

一 結核菌ヲ檢スルニ必要ナル顯微鏡ノ有無其他檢査用ノ器具

●島根縣令第三十九號 明治二十四年三月十三日

給具染料販賣取締規則ヲ定メ明治十五年三月本縣申第百二十六號布達給具染料販賣取締規則ヲ廢ス

給具染料販賣取締規則

- 第一條 給具染料ヲ販賣セントスルモノハ島根又ハ郡市役所ヘ届出ヘン
- 第二條 轉居改姓名又ハ廢業ノトキハ速ニ届出ヘン
- 第三條 毒劇性ノ給具染料ハ其容器又ハ包紙ニ假名若シハ漢字ヲ以テ其名稱ヲ記シ且(毒)(劇)ノ字ヲ明記シテ他ノ物品ト區別シ毒性ノモノハ鎖鑰アル所ニ貯藏スヘン
- 第四條 毒劇性ノ給具染料ハ其名稱數使用ノ目的年月日住所姓名年齡職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出タル者コアラサレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス其證書ハ記載ノ日附ヨリ滿一年間保存スヘン
- 第五條 前項ノ證書アルモ幼稚者其他不安心ト認ムル者コハ交付スヘカラス
- 第六條 但毒ハ赤字劇ハ青字ヲ以テスヘン
- 第七條 衛生官吏又ハ警察官吏ハ店舖ニ臨檢シ且必要量ノ給具染料ヲ携歸シテ檢査スルコトアルヘン此場合ニ於テ檢査ニ消費シタル料品ノ代價ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第八條 給具染料ノ性質不明ノモノハ其名稱ヲ記シ現品ヲ添ヒ縣廳ヘ願出試驗ヲ受ケタルモノニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス
- 第九條 第一條第三條第四條第五條第六條第八條ヲ犯シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分セラルヘン

●第十類 ○衛生 ○藥品 給具染料

附則

本則ニ於テ稱スル毒劇性ノ繪具染料トハ明治二十二年内務省令第五號ニ定ムル所ノ毒藥劇藥ト全一ノ性質ヲ有スルモノヲ云フ

繪具染料取締規則ニ依リ販賣許可ヲ得タルモノハ本則第一條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

●島根縣令第五十一號 明治二十四年四月一日

本年三月島根縣令第三十九號繪具染料販賣取締規則第七條左ノ通更正ス

第七條衛生官吏又ハ警察官吏ハ臨時検査スルコトアルヘシ

●島根縣令第五十三號 明治二十四年四月九日

本年三月島根縣令第三十九號繪具染料販賣取締規則第六條(繪具染料)ノ下へ(及テール製色素燐金銀箔燐金銀粉)ノ十五字ヲ挿入ス

●島根縣告示第三十一號 明治二十四年四月十日

本年三月島根縣令第三十九號繪具染料販賣取締規則毒劇性ノ繪具染料品名ハ概テ左ノ如シ

毒藥ノ性質ヲ有スルモノ

| 品名 | 別名 | 名 |
|----|----------------|---|
| 雄 | 雞冠 | 黃 |
| 雌 | 石黃、キワウ、王雄、支那黃 | 黃 |
| 岩 | | 綠 |
| 花 | 和蘭綠青、洋綠青、和蘭花綠青 | 綠 |

劇藥ノ性質ヲ有スルモノ

| 品名 | 別名 | 名 |
|----|------------------------|----|
| 拵 | | 石黃 |
| 紅 | 紅 | 信 |
| 青 | | 粉 |
| 松 | | 綠 |
| 唐 | | 綠 |
| 品 | | 名 |
| 藤 | | 黃 |
| 岩 | ▽ | 青 |
| 板 | 若松印、杉印、上森印、非森印、唐松青摺抜印、 | 綠 |
| 板 | | 綠 |
| 綠 | 銅青、銅綠、石綠 | 青 |
| 白 | | 青 |
| 扁 | | 青 |
| 唐 | | 土 |

第廿二年
第廿一年
第廿四年
第廿五年
第廿六年
第廿七年
第廿八年
第廿九年
第卅年

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 重 | コ | ロ | ー | ム | 酸 | 加里 | | |
| 膠 | | | | | | | 硫 | 酸 |
| 格 | | | | | | | ナ | ー |
| 粒 | | | | | | | 若 | 松 |
| 煉 | | | | | | | 印、 | 三 |
| 奈 | | | | | | | 笠 | 印、 |
| ナ | | | | | | | 杉 | 印、 |
| 粉 | | | | | | | 上 | 森 |
| 格 | | | | | | | 印、 | 菲 |
| 格 | | | | | | | 森 | 印、 |
| 格 | | | | | | | | |
| 鉛 | | | | | | | | |
| 鉛 | | | | | | | | |
| 鹽 | | | | | | | | |
| 亞 | | | | | | | | |
| 酸 | | | | | | | | |

四四二

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|
| 生 | | | | | | | | | 綠 | 青 |
| 砂 | | | | | | | | | 金 | 粉 |
| 黃 | | | | | | | | | 酸 | 粉 |
| 修 | | | | | | | | | 酸 | 粉 |
| コ | | | | | | | | | 酸 | 粉 |
| コ | | | | | | | | | 酸 | 粉 |
| 沃 | | | | | | | | | 酸 | 粉 |
| 孔 | | | | | | | | | 酸 | 粉 |
| 二 | | | | | | | | | 酸 | 粉 |
| 錫 | | | | | | | | | 酸 | 粉 |

●島根縣訓令第百四十一號 明治二十四年八月三十一日 島 廳 郡役所 市役所
 繪具染料販賣者ノ異動ハ自今毎半年分取纏メ其住所姓名開廢業ノ別七月限リ開申スヘシ

●縣令第十七號 明治二十年二月二十一日
 類外藥劑取締規則別冊ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス
 (別冊)

●第十類 ○衛生 ○類外藥劑
 類外藥劑取締規則

四四三

- 第一條 此規則ニ類外藥劑ト稱スルハ、飲食物ノ防腐藥、髮染藥、防臭藥及鼠蠅虱蚤蚊等ヲ驅除スルノ目的ヲ以テ調製シタル者ヲ云フ
- 第二條 類外藥劑ヲ調製販賣セント欲スル者ハ、方名、藥味分量製法用法功能ヲ詳記シタル第一號書式ノ願書ニ藥劑ヲ添ヘ縣廳ニ出願シ、免許鑑札ヲ請フヘシ
- 第三條 免許ヲ得タル後、其藥味分量製法用法功能ヲ改正セント欲スル者ハ、第二號書式ノ願書ニ藥劑ヲ添ヘ縣廳ニ出願シ、許可ヲ請フヘシ
- 但方名ヲ改正セント欲スルトキハ、鑑札書換ヲ出願スヘシ
- 第四條 類外藥劑ヲ請買セント欲スル者ハ、第三號書式ノ願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫ヲ添ヘ、所轄郡役所ニ差出シ、請買鑑札ヲ請フヘシ
- 第五條 營業人及受賣人ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商セシメントスルトキハ、第四號書式ノ願書ヲ所轄郡役所ニ差出シ、行商鑑札ヲ請ケテ之ヲ携帶スヘシ
- 第六條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スルトキハ、營業ノ繼續セント欲スルトキ姓名ヲ變更シタルトキ、他町村ニ轉住スルトキ及免許鑑札ヲ紛失毀損シタルトキハ、其旨ヲ記シテ所轄郡役所ニ出願シ、鑑札書換又ハ下付ヲ請フヘシ
- 第七條 營業者死亡又ハ廢業シタルトキ若クハ他府縣下ニ轉籍寄留スルトキハ、其旨届出鑑札ヲ返納スヘシ
- 第八條 前條ノ場合及營業人其營業ヲ禁止セラレタルトキハ、請買人及行商人ニ於テモ速ニ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第九條 免許鑑札ハ、賣買貸與スルヲ許サス
- 第十條 藥劑検査ノ上、其配劑ノ藥品取扱上失誤ヲ生シ易キ處アル者ハ、一切之ヲ許サス
- 第十一條 免許ノ藥劑ト雖更ニ有害ナルヲ發見スルトキハ、發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 第十二條 此規則第二條第三條第四條第五條第八條ニ違背シタル者ハ、違背罪ニ處セラルヘシ

(第一號書式)

類外藥劑検査願

一方名

藥味分量

製法

用法

功能

右ノ藥劑調製販賣仕度候照御検査ノ上、免許鑑札御下渡被成下度、依テ製劑相添此段奉願上候也

何郡何町村何番地居住(寄留)族籍

年 月 日

氏 名 印

知事宛

前書之通願出候ニ付、與印仕候也

何郡何町村戸長

氏 名 印

(第二號書式)

類外藥劑改正願

一方名

藥味分量

製法

用法

功能

右ノ藥劑明治何年何月何日御検査済免許鑑札御下渡營業仕候處、今般藥味分量(製法)用法、功能右之通改正

●第十類 ○衛生 ○類外藥劑

仕度候處御検査ノ上御許可被成下度依テ製劑相添此段奉願候也

(署名以下書式第一號ニ全シ)

(第三號書式)

類外藥劑請賣願

一方名 一方名

何郡何町村何番地居住(寄留)族籍

右製劑者

氏

名

一方名

肩書前ニ全シ

右製劑者

氏

名

右之製劑何方請賣仕度依テ別紙製劑者所持ノ免許鑑札寫相添此段奉願候也

何郡何町村何番地居住(寄留)族籍

年 月 日

氏

名

島根縣何郡長某殿

(與書式第一號ニ全シ)

(第四號書式)

類外藥劑行商願

一方名 一方名

請賣者ニ於テ行商願出ルトキハ方名毎ニ製劑者住所族籍氏名ヲ記載スヘシ

何郡何町村何番地居住(寄留)族籍

賣 子

氏

名

右之製劑自分(賣子派出)行商仕度候間行商鑑札御下渡被成下度此段奉願候也

(署名以下第三號ニ全シ)

◎縣令第六十二號

明治二十二年六月十日

明治二十年二月縣令第十七號類外藥劑取締規則中第十二條左ノ通更正ス

第十二條 第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

◎島根縣令第二十八號

明治二十四年三月十二日

明治二十年二月縣令第十七號類外藥劑取締規則第二條第三條中、藥劑ヲ添ヘシノ下(島廳又ハ郡市役所ヲ經テ)ノ十一字ヲ加ヘ第四條第五條第六條中(所轄郡役所)ヲ(島廳又ハ郡市役所)ニ第七條中(其旨)ヲ(島廳又ハ郡市役所)ニ改メ

◎島根縣令第二十九號

明治二十五年三月四日

明治二十年二月島根縣令第十七號類外藥劑取締規則第三條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加ヘ第四條ヲ第五條トシ己下各條順次繰下ケ元第十二條中(第九條)ノ次ヘ(第十條)ノ三字ヲ加フ

第四條 類外藥劑ノ用法及功能ヲ其容器又ハ包紙ニ記入販賣スヘシ

◎訓令第九十四號

明治二十年四月一日

郡役所

類外藥劑營業鑑札下付方左ノ手續ニ據リ取扱フヘシ

一 鑑札用紙ハ照應ヨリ下付スヘキニ付毎年七月五日限リ凡積ヲ以受取方申出ヘシ

一 類外藥劑取締規則第二條第三條ニ據リ鑑札下付又ハ替換ヲ出願スルトキハ照應ヨリ指令到達ノ上左ノ鑑札ニ準シ鑑札ヲ記載シ根帳ト契印シ下付スヘシ

但契印ハ郡役所印ヲ用フヘシ

二十六年訓
令第百十號

訓令第九十五號 明治二十年四月一日
類外藥劑請賣行商鑑札ハ左ノ雛形ニ準シ記載下付スヘシ

郡役所

| | |
|---|---|
| <p>類外藥劑請賣許可之證</p> <p>番號</p> <p>一方名</p> <p>右請賣營業開屆候事</p> <p>島根縣</p> <p>明治年月日何郡役所</p> <p>豎五寸五分</p> <p>用材檢厚廿三分</p> | <p>類外藥劑行商許可之證</p> <p>島根縣士族又ハ平民</p> <p>類外藥劑營業又ハ</p> <p>請賣業</p> <p>何某賣子</p> <p>何</p> <p>某</p> <p>右行商開屆候事</p> <p>豎二寸五分</p> |
| <p>類外藥劑營業人</p> <p>島根縣何國何郡</p> <p>何町何番地</p> <p>何</p> <p>某</p> <p>請賣營業人</p> <p>何町何番地</p> <p>何</p> <p>某</p> | <p>明治年月日</p> <p>何郡役所</p> <p>燒印</p> <p>番號</p> |

第十類 ○衛生 ○類外藥劑

四四九

| | |
|---|------------------------|
| <p>契合印</p> <p>番號</p> <p>島根縣何國何郡</p> <p>何町何番地</p> <p>何</p> <p>某</p> <p>右免許候事</p> <p>明治年月日</p> <p>島根縣</p> | <p>島根縣</p> <p>何郡役所</p> |
|---|------------------------|

四四八

十年甲第百
卅一號全第
二百十五號
令二十四號
廿六年全第
八十一號全

●島根縣訓令第百十號 明治二十六年十月十二日
 明治二十年四月本縣訓令第九十五號類外藥劑請發行商鑑札離形中堅橫ノ寸法ヲ廢シ全行商鑑札離形肩書(用材
 槍厚サ三分)ノ七字ヲ削除ス

●島根縣訓令第百一十一號 明治二十六年十月十二日
 類外藥劑請發行商鑑札用紙ハ自今縣廳ヨリ下付スヘキニ付 簡年度ノ豫算ヲ以テ毎年二月中請求ス可シ
 但本年度ニ於テハ該鑑札用紙既ニ製作済ノ分ハ從前ノ通り使用シ其製作未済ナルトキハ至急請求スヘシ

賣藥

●甲第百八號 明治十年三月三十一日

本年一月太政官第七號ノ以賣藥規則公布相成候ニ付出願手續及書式等左ノ通可相心得此旨布達候事

- 一 昨明治八年七月以降內務省ヨリ下附相成候賣藥鑑札ハ免許發賣共當分替願出ニ不及規則公布後下附ノ鑑札同様相心得ヘシ
- 一 前條鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ儀ハ本年分ヨリ徵收スヘキニ付昨年マテノ分ハ納ムルニ及ハス
- 一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ノ請賣又ハ行商業致ノ居候モノハ願書式ニ照準來ル四月二十日マテニ悉皆願出ツヘシ
- 一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ營業鑑札所持ノモノニ限リ本年一月ヨリ六月マテノ內廢業届出タルモノハ其税金月割ヲ以テ徵收スヘシ
- 一 賣藥營業者並ニ請賣免許ノモノハ左式ノ通看板ヲ掲クヘシ
 豎三尺幅ヒ寸五歩
 寸法同上

許賣藥營業

許賣藥請賣藥

賣藥營業願書式用紙表簿詳細

賣藥檢査願

一方名

壹劑ノ量 何藥 量目何處 何藥 何藥
 以上幾味調合或ハ丸散トシ幾貼ニ分チ或ハ幾粒トナシ幾粒ヲ一包トナシ一度或ハ一日ノ用最大人小兒ノ區別等其用法詳細

一主治功能詳細

右ハ從來發賣渡世仕來候(或ハ此度新ニ調製發賣仕度奉存候)而御檢査ノ上御差支モ無御座候ハ、免許鑑札御下渡被下度依テ製劑相添此段奉願候也

年號 月 日

長官宛

○賣藥改正願書式用紙表上

賣藥改正願

府大小區國郡村番地 族籍 氏 名 印
 府大小區國郡村番地 族籍 氏 名 印
 府大小區國郡村番地 族籍 氏 名 印
 府大小區國郡村番地 族籍 氏 名 印

●第十類 ○衛生 ○賣藥

一方名

藥品分量

製法

用法用量

功能

右ハ何年月日御検査済証札御下渡營業仕候處今般何々ノ歳左ノ通改正仕度御差支無之候ハ、鑑札御替替被下度此段奉願候也

一 改正ノ歳ヲ評記スヘシ

年 月 日

願人 氏

名 印

區戶長醫務取締與印

長官宛

○賣藥諸賣鑑札願書式用紙全上

賣藥諸賣願

一方名 一全 一全 一全 一全

右營業人

府大小區國郡村番地

族籍

氏

名

但營業者與ナレハ縱令一方アリモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ評記スヘシ
右之賣藥諸方今般諸賣仕度依テ別紙營業者ニ御免許ノ御指令寫並約定書相添此段奉願候也

府大小區國郡村番地

請賣願人

族籍

氏

名 印

與印全上

年 月 日

長官宛

賣藥諸賣約定書

一方名 一全上 一全上 一全上

右者何果ノ官計ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整候ニ付請賣者ニ於テ諸賣鑑札ヲ願受ル營業者ノ製調シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免許期限内ハ惣テ賣藥ニ關スル御規則及御達ノ趣旨ヲ確守シ不正ノ所棄致ス間敷候依テ約定書如件

府大小區國郡村番地

賣藥營業人

族籍

氏

名 印

全

賣藥請賣人

族籍

氏

名 印

○賣藥營業鑑札滿期書替願書式用紙全上

賣藥營業鑑札滿期御書替願

府大小區國郡村番地

營業人

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但藥方數種アルトキハ上ノ例ニ從テ一々連書スヘシ

右ハ何年月日御檢査済鑑札御下渡營業仕候處奉ル何月滿期相成猶引續營業仕度別紙鑑札疑枚返納仕候間御詮議ノ上御差支無之候ハ、御書替被下度此段奉願候也

年 月 日

願人 氏

名 印

長官宛

奥印全上

○賣藥營業鑑札並請賣鑑札^或遺失之節書替願書式用紙全上

賣藥營業鑑札^或賣藥請賣鑑札^或遺失ニ付御書替願

府 大小區國郡町番地

族籍

賣藥營業人 氏

名

賣藥請賣鑑札ナレハ左ノ通認ムヘシ

府 大小區國郡町番地

族籍

一方名

一方名

賣藥營業人 氏

氏

名

右請賣人 同

族籍

氏

名

右ハ何年月日^{概略ノ記述ニサレハ}御下渡被下候賣藥營業鑑札^或請賣何月日何々ノ事故ニ^或遺失仕候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年 月 日

奇難等要人^或請賣人

氏

名 印

長官宛

奥印全上

○賣藥營業鑑札讓渡願書式用紙全上

賣藥營業鑑札讓渡願

府 大小區國郡町番地

族籍

營業人 氏

名

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アルトキハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ

右ハ何年月日御檢査済鑑札御下渡營業仕候處奉ル何月滿期相成猶引續營業仕度別紙鑑札疑枚返納仕候間御

●第十類 ○新製 ○賣藥

●甲第二百十五號 明治十年七月二十七日

本年一月太政官第七號ヲ以テ賣藥規則公布相成候ニ付出願手續及書式等本縣甲第八號ヲ以テ布達候處今般其筋達ノ趣モ有之左ノ通改正並追加候條此旨布達候事
第四項改正

一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノモノ本年六月マテニ廢棄届出候分ハ特別ノ證議ヲ以テ本年ニ限リ前半期ノ税金ハ免除スヘシ
第二項ノ次ニ追加

一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス

●島根縣令第二十六號 明治二十四年三月十二日

明治十年三月本縣甲第八號布達賣藥檢査出願手續及書式中願書書式ニアル區戶長醫務取締與甲ノ例ヲ廢ス
●島根縣令第八十一號 明治二十六年九月五日

明治十年三月本縣甲第八號布達賣藥行商願書式(用紙通常野紙)ノ六字ヲ削除シ明治十三年四月本縣甲第四十五號布達賣藥營業願用紙全十四年三月甲第四十九號布達賣藥營業願用紙ハ自今適宜トス

●甲第二百二十八號 明治十年八月六日

賣藥規則第一章第六條ノ通リ營業受賣藥ノモノ免許鑑札申受候上ハ看板揭示可致候ニ付本縣甲第八號ヲ以テ看板離形布達候處間ニ無其儀等閑ニ打過候向キ有之趣不都合ノ事ニ候自今右免許ヲ受候モ看板調製不致内ハ發賣不相成候條此旨布達候事

●甲第六十七號 明治十五年四月十四日

藥湯營業者ハ十年甲第八號布達ニ準シ左式之通看板ヲ掲シヘシ此旨布達候事

壁三尺 幅七寸五分

免 藥 湯 營 業 許

●甲第八十七號 明治十一年四月八日

賣藥營業之義ニ付追々及布達置候處于今無鑑札ニテ營業致シ又ハ賣藥營業之者賣藥請賣者等成規ノ看板ヲ掲ケサル者有之趣ニ相聞不都合之事ニ候條自今犯則之者ハ嚴重可及處分此旨爲心得布達候事
但施藥ト稱ヘ家法ヲ以製藥シ望之者ハ無代價付與候モノト雖モ無鑑札ニテハ一切不相成候事

●郡乙第七十九號 明治十三年九月十八日

賣藥營業者廢業或ハ禁止ノ節其請賣行商ヲナスモノハ總テ賣藥規則ニ據リ鑑札返納可致ハ勿論ニ候處請賣行商者ニ於テ營業者ノ廢止ヲ了知セサルカ或ハ故意甚甚販賣スル等之儀有之候テハ不都合ニ付自今賣藥者廢業届出候節ハ受賣行商者定約ノ有無取札ニ定約者本縣下ニアルモノハ其關係ノ郡役所ニ報告シ其郡内ニアルモノ又ハ他郡役所ヨリ通知ヲ受ケタルモノハ直チニ鑑札返納致サセ他府縣下ニアルモノハ請賣行商者ノ住所姓名ヲ詳記シ可届出此旨相達候事

●訓令第三十七號 明治二十年十一月二十二日

賣藥營業者廢業ノ後テ其請賣行商者ニ於テ該賣藥ヲ所持スルモノハ六ヶ月間販賣苦シカラス依テ明治十三年九月本縣郡乙第七十九號達ニ據リ返納スヘキ鑑札ハ右販賣セントスルモノニ限リ更ニ期限ヲ定メ返納方猶豫スヘシ

●甲第八十二號 明治十五年四月二十七日

賣藥營業鑑札下付方自今郡役所ニ委任候條出願手續等左之通可相心得此旨布達候事

●第十類 ○衛生 ○賣藥

七十六年甲第
七十六號
七十七號
七十八號
七十九號
八十年甲第
八十一號
八十二號

十五年
第十六號
第十七號
第十八號
第十九號
第二十號
第二十一號
第二十二號
第二十三號
第二十四號
第二十五號
第二十六號
第二十七號
第二十八號
第二十九號
第三十號
第三十一號
第三十二號
第三十三號
第三十四號
第三十五號
第三十六號
第三十七號
第三十八號
第三十九號
第四十號
第四十一號
第四十二號
第四十三號
第四十四號
第四十五號
第四十六號
第四十七號
第四十八號
第四十九號
第五十號
第五十一號
第五十二號
第五十三號
第五十四號
第五十五號
第五十六號
第五十七號
第五十八號
第五十九號
第六十號
第六十一號
第六十二號
第六十三號
第六十四號
第六十五號
第六十六號
第六十七號
第六十八號
第六十九號
第七十號
第七十一號
第七十二號
第七十三號
第七十四號
第七十五號
第七十六號
第七十七號
第七十八號
第七十九號
第八十號
第八十一號
第八十二號
第八十三號
第八十四號
第八十五號
第八十六號
第八十七號
第八十八號
第八十九號
第九十號
第九十一號
第九十二號
第九十三號
第九十四號
第九十五號
第九十六號
第九十七號
第九十八號
第九十九號
第一百號

一 新規定營業簿籍書換並免許期限中營業簿籍分置用法量能書ヲ改正シ鑑札下附及書換ヲ乞フモノハ縣廳ニ於テ許
可ノ上郡役所ヨリ下付スヘキニ付郡縣廳ニ可願出其他書換再渡トモ郡役所ニ願出ヘシ

一 廢業及ヒ死亡者相續營業者ハ鑑札相添ヘ郡役所ニ願出ヘシ

一 本縣内轉居ハ移轉地郡役所ニ鑑札裏書ヲ乞ヒ其旨元管轄郡役所ニ願出ヘシ

一 新規免許滿期書換及ヒ賣藥規則第一章第四條ノ改正ニ係ル税金及其鑑札料金ハ都テ鑑札記載ノ年月ヲ以テ
其年度分ヨリ上納スヘシ

一 他管ヨリ入籍ノモノハ元免許ノ鑑札ヲ添ヘ郡役所ニ願出ツヘシ

●甲第七十六號 明治十六年八月三日

客年本縣甲第八十二號布達第一項(能書)ノ下及ヒ第四項(第四條)ノ下(又ハ方名)ノ四字増補候條此旨布
達候事

●島根縣令第二十七號 明治二十四年三月十二日

明治十五年本縣甲第八十二號布達賣藥營業出願手續第一項都テノ下(島廳又ハ郡役所ヲ經テ)ノ十字ヲ加ヘ
其他各項共(郡役所)トアルヲ(島廳又ハ郡役所)ト改ム

●島根縣令第四十九號 明治二十五年四月八日

賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼付方ハ願書ニ印紙ヲ貼付セス鑑札下附ノ際印紙ヲ貼付シタル鑑札領收証ヲ差
出スヘシ

●島根縣令第五十一號 明治二十五年四月九日

明治十年太政官第七號賣藥規則第二條第四條ノ願書ハ自今式通差出スヘシ

●郡乙第三十一號 明治十五年四月二十八日 郡役所

賣藥鑑札下付方甲第八十二號ヲ以委任候ニ付左ノ手續ニ準テ可取扱此旨相達候事

一 鑑札用紙ハ縣廳ヨリ下付スヘキニ付毎年一月五日限リ凡積ヲ以請取方申出ヘシ

一 新規營業並滿期書換及十年第七號公布第一章第四條改正ニヨリ鑑札書換ヲ乞フモノハ縣廳ニ於テ許可ス
ヘキニ付指令到達ノ上ハ第一號離形ニ準テ鑑札記載根帳ト契印ノ上下付スヘシ

但契印ハ郡役所印ヲ用フヘシ

一 家畜牛馬ニ用フル賣藥鑑札ハ赤輪廓ノ分ヲ用フヘシ

一 死亡跡相續又ハ代換他人ニ讓渡並族籍姓名ヲ變換シ方名ヲ改正シ鑑札書換ヲ乞フモノ或ハ水火盜難ニ因
リテ再渡ヲ願出ツルモノハ郡役所限リ隔屆第二項ノ通取計ヘシ

一 本縣内轉居ハ鑑札書換ニ不及移轉地郡役所ニ於テ鑑札裏面ニ移轉地名年月日ヲ朱書下付スヘシ

但元郡役所ニ於テハ本人ノ屆書ニヨリ根帳ヲ塗抹スヘシ

一 第四項ニ掲ケル所ノ書換ハ舊鑑札ノ年月日ヲ記載シ鑑札裏面ニ其書換タル理由並ニ年月日ヲ朱記シ郡長
檢印ノ上下付スヘシ

一 他管ニ於テ免許ヲ得タル者本縣ニ移轉或ハ寄留營業セントスルトキ出願手續ハ第四項ニ準テ取扱フヘシ

税金及鑑札料金ハ十年第七號公布ニヨリ徵收スヘシ

但賣藥規則第二章第十七條鑑札再渡ノ外ハ都テ料金金額ヲ徵收スヘシ

一 第二項ノ下渡鑑札ハ願書指令到達ノ日ヲ記載スヘシ

一 鑑札遺拂明細表ハ第二號表式ニ準テ毎年七月十日限リ進達スヘシ

第一號 (△印ハ朱書)

形 離 札 鑑

△契 合 印

△番 號

右免許候事

明治何年何月何日

內務省

島根縣何國何郡
何町村何番地
何之誰

全 裏 面

島根縣廳

第十類 ●衛生 ●賣藥

第二號

賣藥營業及請賣行商鑑札受換表

| 行商 | 請賣 | 賣藥 | 元 | | 受 | 換 | 再 | 渡 | 合 | 計 | 差 | 引 | 殘 |
|------------|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 高 | 低 | | | | | | | | | |
| 前書之通相違無之候也 | | | | | | | | | | | | | |
| 年 月 日 | | | | | | | | | | | | | |
| 長 官 宛 | | | | | | | | | | | | | |
| 郡 長 姓 名 印 | | | | | | | | | | | | | |

●郡乙第五十號

明治十五年七月十八日

郡役所

●郡乙第七十四號

明治十六年八月三日

郡役所

●本縣郡乙第三十一號達第九項中願書指合到達ノ六字ヲ刪リ鑑札下附ノ四字ニ更正候條此旨相違候事

●客年本縣郡乙第三十一號達中左記ノ通更正増補候條此旨相違候事

●第二項中(第四條)ノ下(又ハ方名)ノ四字ヲ増補ス

●第四項中(方名ヲ改正シ)ノ六字ヲ削リ左ノ但書ヲ加フ

●但水火盜難其他トモ鑑札紛失ナルモノハ其都度開申スヘシ

●島根縣訓令第百三號

明治二十七年五月十七日

島 縣 郡役所

明治十五年四月郡乙第三十一號達第九項左ノ通改ム

一第二項ノ下渡鑑札ハ實際本人ニ下付ノ日ヲ記載スヘシ

●島根縣訓令第七十一號 明治二十六年六月三十日

明治十五年四月本縣郡乙第三十一號達第七項ニ依リ賣藥營業鑑札ヲ替替タルトキハ元鑑札和添ヘ其旨開申スヘシ

●訓令第六十六號

明治十九年十一月四日

郡役所

賣藥請賣行商鑑札下付方ハ左之手續ニヨリ取扱フヘシ

一請賣行商鑑札ハ左式之通り記入下付スヘシ

一請賣行商鑑札ハ一葉五方ヲ限リ記載シ内一方若クハ數方廢棄スルトキハ該方塗抹印ヲ捺シ主任書記捺印ノ上下付スヘシ

一請賣行商鑑札書換ヘ明治十五年四月郡乙第三十一號達ニ準スヘシ

二十一年訓令第百一號

賣藥請賣許可之證

第何號

表

| | | | |
|-----|----|----|----|
| 一方名 | 一全 | 一全 | 一全 |
| 一全 | 一全 | | |

右請賣營業開屆候事

島 縣 郡役所

明治年月日

豎五寸五分

何縣何郡區何町村番號

賣藥營業人 氏 名

籍

島根縣何郡何町村番號

籍

請賣營業人 氏 名

籍

●第十類 ○衛生 C賣藥

用材槍厚サ三分

賣藥行商許可之證

島根縣士族又ハ平民
賣藥營業又ハ請賣業
何條誰賣子
苗字 名

一何湯 一何丸 一何散
一何膏 一何丹

右行商開屆候事

字四十四第

裏

| | | |
|---------|---|---|
| 年 | 月 | 日 |
| 何 郡 役 所 | | |
| 所 印 | | |
| 何 第 何 號 | | |
| 燒印 | | |

堅三寸五分

訓令第百一號

明治二十一年六月二十一日

隱岐島廳

郡役所

明治十九年十一月

訓令第六十六號賣藥行商鑑札表面ノ書式左ノ通改正ス

賣藥營業者自ラ行商ノ分

賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商センムル分

賣藥行商許可之證

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業者 氏 名

一方名 一方名 一方名

右行商開屆候事

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業者 氏 名
賣子 氏 名

一方名 一方名 一方名

右行商開屆候事

賣藥請賣者自ラ行商ノ分

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業人 氏 名

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥請賣營業 氏 名

一方名 一方名 一方名

右行商開屆候事

賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商センムル分

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業人 氏 名

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥請賣營業 氏 名
賣子 氏 名

一方名 一方名 一方名

右行商開屆候事

● 郡乙第四十一號

明治十四年五月三十日

郡役所

賣藥受賣並行商鑑札料紙是迄豫算ヲ以下渡來候處自今相廢止候條從前雛形之通調製シ其製作費之儀ハ十三年第十六號公布第三條第七項ヲ以支辨可致且是迄豫算ヲ以下渡置候料紙ハ返納可致此旨相達候事

● 島根縣訓令第七十八號

明治二十六年七月二十九日

島 廳

郡役所

市役所

賣藥受賣並行商鑑札用紙ハ自今縣廳ヨリ下付スヘキコ付一箇年度ノ豫算ヲ以テ毎年二月中請求スヘシ但本年度ニ於テハ該鑑札用紙既ニ製作済ノ分ハ從前ノ通り使用シ其製作未済ナルトキハ至急請求スヘシ

● 甲第百五十三號

明治十五年十月十九日

賣藥營業者死亡又ハ退隱シ相續人ニ於テ之ヲ相續スルトキ其請賣者ハ更ニ請賣約定ノ上鑑札書換方郡役所へ可願出此旨布達候事

明治十六年二月五日

● 第十類

○ 衛生、○ 賣藥

安息香阿片丁幾 舍電華讓氏阿片丁幾 單阿片丁幾 脫臭阿片丁幾 硝砂精加阿片丁幾
 地榆丁幾 複方松芽丁幾 ビレトリウム丁幾 括失亞丁幾 規尼涅丁幾 硝砂精加規尼涅丁幾
 ヤーシツバ脂丁幾 大黃丁幾 水製大黃丁幾 酒製大黃丁幾 大菴加旃那丁幾 サヒナ丁幾
 麒麟血丁幾 海葱丁幾 加里加海葱丁幾 麥奴丁幾 遠志丁幾 旃那丁幾 セルベンタリア丁
 幾 複方スピランナス丁幾 蔓陀羅華丁幾 亞的兒製馬錢子丁幾 琥珀丁幾 シュンブル丁幾
 チニヤ丁幾 トリユタナ丁幾 トキノコデントリ丁幾 纈草丁幾 亞的兒製纈草丁幾
 硝砂精加纈草丁幾 アニルラ丁幾 生姜丁幾 強生姜丁幾 亞的兒製薑若丁幾 亞的兒製失鳩
 苔丁幾 亞的兒製非沃斯丁幾 亞的兒製龍腦丁幾 白黎蘆丁幾
 酒劑
 蘆薈酒 苦味酒 芳香酒 橙皮酒 龍腦酒 機那酒 コロシム酒 コロシム根酒
 コロシム實酒 麥奴酒 鐵酒 枸橼酸鐵酒(枸橼酸アンモニア鐵酒) 吐根酒 メアチ酒
 大黃酒 海葱酒 アンチモニー酒 煙草酒 酒石酸加里鐵酒

傳染病

●島根縣令第三十六號 明治二十八年五月九日
 傳染病豫防細則別紙ノ通定ム

(別紙)

傳染病豫防細則

總則

第一條 傳染病凡列利、腸室扶斯、赤痢、實布垣、
 呈亞、發疹室扶斯、痘疹ナニフニ罹リタル者又ハ傳染病疑似ノ症狀ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ診斷
 ヲ受クヘシ
 患者治癒又ハ死亡シタルトキハ其由ヲ施治ノ醫師ニ通知スヘシ

第二條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ又ハ其死者ヲ檢案シタルトキ傳染病豫防規則第二條ニ從ヒ通知ヲナストキ
 ハ其發病月日時、病名、住所、姓名、職業ヲ記載スヘシ

醫師施治ノ傳染病患者治癒又ハ死亡シタルトキハ其姓名、月日ヲ速ニ市長戸長町村長ニ通知スヘシ

第三條 醫師傳染病ニ疑似スル患者ヲ診察シ又ハ其死者ヲ檢案シタルトキハ遅クモ二十四時間ニ其症狀住所
 姓名ヲ市長戸長町村長ニ通知スヘシ

第四條 醫師傳染病患者又ハ之ニ疑似スル患者ヲ診斷シ若ハ死者ヲ檢案シタルトキハ相當ノ豫防消毒法ヲ其
 家人ニ懇示スヘシ

第五條 第二條第三條ノ通知ハ便宜所轄警察署警察分署又ハ駐在巡查ニ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 市長戸長町村長ニ於テ第二條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ其住所、姓名、職業、生年月及治療
 所ノ區別避病院、離隔病
 室又ハ自宅等ヲ詳記シ同條第二項ニ付テハ治療、死亡者ノ姓名並月日ヲ記シ市長ハ直ニ戸長町村長
 ハ島廳若ハ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出同時ニ警察署警察分署又ハ駐在巡查ニ報告スヘシ

第七條 警察署警察分署又ハ駐在巡查ニ於テ第五條ニ依リ醫師ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ市長戸長町村長
 ニ報告スヘシ

第八條 島廳郡役所市役所戸長役場町村役場ニ於テハ部内傳染病ノ發熱時日、地名、病者、死者ノ員數等ヲ詳
 記シ其時々揭示スヘシ

第九條 傳染病發生シタルトキハ島廳郡役所警察署警察分署ニ於テ速ニ吏員ヲ派遣シ病況並發生ノ原因等ヲ
 視察シテ豫防消毒ノ施行ニ關スル方法等ヲ完全ナラシムヘシ但病況並發生ノ原因等ハ縣廳ニ報告スヘシ

第十條 傳染病患者アルトキハ市町村吏員ハ速ニ其病家ニ臨ミ左ノ處置ヲ爲スヘシ

一 患者ノ上リタル便所、排泄物、汚穢物、及患者ト室ヲ同フシタル者其他衣服器具等病毒汚染ノ疑アルモ
 ノ、消毒ヲナサシムルコト

二 傳染病預防規則第七條ニ依リ患者ヲ避病院ニ入ラシメ又ハ隔離病室ニ移ラシムルコト

三 自宅治療ヲ許シタル患者ノ居室、看護人、排泄物取扱人、便器飲食器具、衣服、臥具等ヲ一定セシムルコト

四 病家ノ状況ニ依リ家人ニ感染ノ虞アルモノハ相當ノ場所ヲ撰定シテ隔離スルコト

第十一條 傳染病患者及其家人ハ掛吏員ヨリ避病院入院又ハ隔離病室若ハ隔離所ニ移轉ヲ命セラレタルトキハ速ニ之ニ從フヘシ

第十二條 傳染病患者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ市町村吏員警察官吏時々之ヲ巡視シテ豫防消毒ノ事ヲ監査スヘシ

第十三條 傳染病疑似ノ患者アルトキハ市町村吏員又ハ警察官吏ハ常ニ其病況ヲ觀察シ豫防上相當ノ處置ヲナスヘシ

第十四條 公立學校工作場劇場人寄席其他多人數集合ノ場所ニ於テ傳染病患者發生シタルトキハ其主長管理者又ハ興行主ハ速ニ左ノ處置ヲ爲スト同時ニ最寄警察署警察分署又ハ巡査若ハ市役所戸長役場町村役場ニ通知スヘシ

一 醫師ヲシテ患者ヲ診察治療セシムルコト

二 患者發生ノ場所並患者ノ上リタル便所其他病室ニ汚染シ又ハ其疑アル場所等ハ速ニ他人ノ交通ヲ遮斷シ消毒ヲ行フコト

三 塵、敷物、其他病室ニ汚染シ又ハ其疑アル器具物品等ノ散逸ヲ防キ消毒ヲ行フコト

四 患者ニ隣接シタル者又ハ病室ニ接セシ疑アル者ニ消毒ヲ行ヒ退散セシムルコト

傳染病疑似ノ患者發生シタルトキ亦本條ニ準シ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第十五條 傳染病患者死者ハ掛吏員ノ指示アリタルトキ若ハ其許可ヲ受ケタルトキノ外私ニ之ヲ他所ニ移轉スヘカラス

第十六條 傳染病患者治療中及治療死亡又ハ患者ヲ他所ニ移轉シタル後相當ノ消毒法ヲ施行スル迄_{（五日間）}掛吏員ノ指示ヲ受ケルニテラサレハ家人ノ外出及他人ノ交通ヲ許サス

第十七條 傳染病患者ニ用ヒタル病室、臥具、被服、便器其他病室汚染ノ疑アル物品等ハ掛吏員ノ指揮ヲ受ケ消毒ヲ行フヘシ

看護人、死体取扱人、汚物運搬人等ノ衣類又ハ患者、死者汚穢物ノ運搬ニ用ヒタル諸器具等ハ掛吏員ノ指揮ヲ受ケ消毒ヲ行ヒタル后ニアラサレハ再ヒ之ヲ使用シ又ハ受授買入スルコトヲ得ス

第十八條 傳染病患者ノ排泄物及病室ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル臥具、被服、器具其他ノ物品ハ湖川港灣池沼溪流溝渠共用井戸等ニ於テ洗滌スヘカラス

第十九條 湖川港灣池沼溪流溝渠共用井戸等ニ傳染病患者投身シ又ハ排泄物流入ノ爲メ病室殘留ノ虞アルトキハ警察署又ハ警察分署ニ於テ一時該水ヲ飲用又ハ洗滌等ニ使用シ又ハ游泳ヲ爲スコトヲ停止シ其由ヲ要所ニ榜示スヘシ但共用井戸ノ外ハ使用停止ヲ必要トスル部分ヲ指スヘシ

第二十條 傳染病患者ノ排泄物及病室ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物品又ハ患者ノ浴淨等ニ用ヒタル湯水及汚穢物ヲ洗濯シタル汚水ハ掛吏員ノ指定シタル場所ノ外溢リコ之ヲ他ニ移シ又ハ投棄スヘカラス

第二十一條 傳染病患者死者並排泄物、汚穢物ヲ運搬シ及死者ノ埋葬、火葬並排泄物、汚穢物ヲ燒棄、埋却スルトキ警察官吏ノ監護ヲ受クヘシ但時宜ニ依リ他ノ掛吏員ヲシテ監護セシムルコトアルヘシ

第二十二條 傳染病患者自宅治療ノモノ治療又ハ死亡シタルトキハ掛吏員ハ速ニ其家ニ臨ミ患者ノ身体若ハ死体、看護人、病室及病室ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル衣服、臥具、器具其他家屋ノ内外等充分ニ消毒法ヲ施行セシムヘシ患者ヲ他所ニ移轉シタルトキ亦同シ

第二十三條 傳染病患者ノ死体ハ埋葬又ハ火葬ノ后ニアラサレハ葬儀ヲ爲スヲ得ス但死体ハ成ルヘシ之ヲ火葬スヘシ

第二十四條 掛吏員人夫等ニシテ消毒法ノ實施ニ當ルトキハ成ルヘク常服ノ外上衣_{（白色ノ布帛ヲ以テ製シタルモノ）}ヲ被リ之ニ

從事スヘシ

凡ソ消毒法ノ實施ニ從事シタル掛吏員人夫等ハ其都度消毒法ヲ行フヘシ

第二十五條 市町村居住者ハ便宜ノ區域ニ依リ衛生組合ヲ設ケ本則ニ定ムル傳染病豫防消毒法其他清潔法攝生法ニ關スル各項目ヲ標準トシ規約ヲ結ビ之ヲ履行スヘシ但組合規約ハ市長戸長町村長ニ届出認可ヲ受クヘシ

衛生組合ニハ組合長一名世話掛若干名ヲ撰定シ之ヲ市長戸長町村長ニ届出ヘシ
衛生組合長ハ其組合規約ノ履行ニ注意シ組合内若ハ其近傍ニ傳染病發生シタルトキハ豫防上各家共同シテ遵守スヘキ事項等ヲ特ニ告知シテ之ヲ實行セシムヘシ
衛生組合世話掛ハ組合長ニ屬シ組合ニ關スル事務ニ從フヘシ

第二十六條 市町村ハ相當ノ避病院ヲ建設スヘシ但土地ノ狀況ニ依リ縣廳ノ認可ヲ受ケ建設ノ地所ヲ豫定シ臨時建設ニ備フルコトヲ得

第二十七條 市町村ニ建設スヘキ避病院ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一 避病院ハ消毒法充分ナルトキハ病毒ヲ傳播スルノ虞ナキヲ以テ其建設地ハカメテ患者運搬ノ便利ヲ圖リ道路險惡交通不便ノ地ヲ避クヘシ

二 避病院ハ左ノ建物ヲ設クヘシ

- 一 重症患者室 若干棟
- 二 輕症患者室 若干棟
- 三 快復期患者室 一棟

以上病室ノ廣サハ患者一人ニ付凡ソ一坪半ノ割合トシ床側壁トモ板張トシ凡テ洗滌消毒ニ便シ床下ハ成ルヘク漆喰敷キト爲シ多少ノ傾斜ヲ付シテ汚水ノ流下ニ便シ別ニ滲透セサル汚水溜ヲ設ケ且建物ニハ各別ニ厠ヲ設ケ快復期患者室ニハ浴室ヲモ備フヘシ

三 醫員其他事務員詰所調劑所看護人室小便並消毒運搬夫詰所及炊場等 一棟

但浴室厠ヲ備フヘシ

四 消毒所 一箇所

但洗濯所ノ附屬ヲ要ス

五 屍室 一箇所

但床ヲ漆喰敷キ又ハ板張ト爲スヘシ

六 汚物置場及燒却所 一箇所

七 物置 一箇所

町村ニ於テハ其狀況ニ依リ重症患者室輕症患者室及快復期患者室ヲ同一建物中ニ區劃シテ設クルコトヲ得
第二十八條 市町村ニ於テ避病院ヲ建設又ハ其地所ヲ豫定セントスルトキハ之ニ關スル位置構造及近傍ノ地況ヲ詳記セル圖面ヲ添ヘ市ハ直ニ町村ハ島廳又ハ郡役所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
避病院ヲ増築シ又ハ模様替ヲ爲シタルトキ若ハ傳染病發生ニ際シ臨時避病院ヲ建設シタルトキハ圖面ヲ添ヘ前項ノ手續ニ依リ届出ヘシ

第二十九條 第二十六條ニ該當スル避病院ノ設ケナキ市町村ハ離隔病室ニ充ツヘキ建物ヲ豫定シ臨時差支ナキ様準備スヘシ但人家稠密ナラサル地ニ於テハ本文ノ準備ヲ容スルコトヲ得此場合ニ於テハ島廳郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第三十條 市町村ハ豫メ左ノ消毒藥品並器具ヲ備置クヘシ

- 一 石炭酸^五以上
- 二 生石灰^{二十}以上
- 三 右ノ外消毒用ノ藥品
- 四 蒸熱消毒器

五 煮沸消毒用品

六 運搬器 患者並ニ死體、汚物等

七 患者ノ便器、霧吹、如露、其他消毒上必要ノ器具

第三十一條 市町村ハ傳染病豫防消毒又ハ隔離ノ方法等行届キ難キモノト認ムルトキ又ハ行旅人乗船人其他發病地ニ於テ引取人ナキ患者アルトキ及縣廳島廳郡役所ノ命令アリタルトキハ速ニ避病院又ハ隔離病室ヲ開キ又ハ臨時避病院ヲ建設シ若ハ隔離所ヲ設ケテ豫防消毒ノ方法ヲ周到ナラシムヘシ
行旅人乗船人其他引取人ナキ傳染病死者ヲカタルトキハ其所在市町村ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スヘシ
避病院又ハ隔離病室ヲ開キタルトキ及之ヲ閉鎖シタルトキハ市長ハ直ニ戶長町村長ハ島廳郡役所ヲ經テ縣廳ニ報告スヘシ

第三十二條 市町村ニ於テ避病院ヲ開キタルトキハ左ノ所屬員ヲ定メ庶務ヲ取扱フヘシ

- 一 醫長 一人
- 二 醫員 患者十五名乃至二十名ニ付一人
- 三 調劑係 二人以上
- 四 看護人 患者概テ五名ニ付一人
- 五 事務員 市町村吏員ヲ以テ之ニ充テ其人ハ適宜トス
- 六 消毒並運搬人夫 患者並ニ死體汚物等ノ運搬又ハ消毒ニ要スルモノ
- 七 小使

町村ニ於テハ其狀況ニ依リ別ニ醫長調劑係ヲ置カズ醫員ニ於テ之ヲ兼スルコトヲ得

第三十三條 市町村ニ於テ避病院ヲ開キタルトキハ實際ノ須要ニ應ジ左ノ藥品器具ヲ準備スヘシ

- 一 治療ニ要スル藥品器具ノ類 醫師ニ於テ之ヲ辨スルモ但貧困者ノ外ハ患者ヲシテ藥價ノ實費ヲ辨償セシムヘシ

二 消毒ニ要スル藥品器具燃料ノ類 第三十條ニ掲グル種類ニ全シ

三 貧困患者并其附添看護人ニ供スル食物臥具其他必需ノ物品

四 右ノ外院内必需ノ備品消耗品

第三十四條 隔離病室ヲ開キタルトキハ第三十二條第三十三條ニ準シ醫師看護人其他治療並消毒ニ關スル相當ノ設備ヲナスヘシ

第三十五條 傳染病流行ノ虞アルトキハ市町村ハ便宜ノ地ニ豫防事務所ヲ設置シ適當ノ事務員ヲ定メ專ラ豫防消毒ノ事ヲ施行スヘシ

第三十六條 傳染病流行スルトキ船舶交通ノ市町村ニ於テ豫防上必要ト認ムルトキ又ハ縣廳島廳郡役所ノ命令アリタルトキハ其市町村ハ便宜船舶ノ検査ヲ行フヘシ但傳染病豫防規則第十三條ノ場合ハ此限ニアラス
前項ノ場合ニ於テハ警察署警察分署ハ巡查ヲ立會セシムヘシ

第三十七條 市町村ハ傳染病檢疫豫防ニ從事スル官吏ヨリ市町村ノ檢疫豫防上必要ナル醫師又ハ人夫ヲ需メタルトキハ速ニ之ニ應ジ其使用ニ供スヘシ

第三十八條 市町村ハ病家交通遮斷中及隔離ニ付シタル者ノ飲食物其他用辨ニ供セシムヘキ相當ノ手當ヲ爲スヘシ但自活シ得サル貧困者ニハ飲食物其他日用必需ノ物品ヲ給與スヘシ

第三十九條 傳染病流行地及流行ニ至ラサルモ患者アリタル家及病汚染ノ疑アル人家ハ翌年春季ニ於テ左ノ方法ニ據リ消毒ノ清潔法ヲ施行スヘシ

- 一 但施行ノ期日ハ市長戶長町村長ノ指定スル所ニ依ルヘシ
- 一 下水溝渠ヲ浚濶シ特ニ不潔ナル場所ハ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通スルコト
- 二 芥溜ノ塵埃ハ成ルヘシ之ヲ燒却シ若シ燒却スルヲ得サル場合ニ於テハ周ク石灰乳ヲ撒布シテ他ノ無害

ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 井戸ヲ浚渫シ及其周圍ヲ掃除スルハ勿論破損セル井戸下水溝ヲ修理スルコト

四 各家ノ厠間及路傍便所共同便所ヲ掃除シ生石灰若ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

五 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ掃除ヲナスコト

一 家什ヲ出シ疊ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具疊建具等ハ日光空氣ニ曝スコト

一 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク之ヲ焼却シ其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

六 衣服臥具ノ類ハ殊ニ能ク日光空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト

七 右ノ外不潔汚穢ノ場所ハ前各項ヲ斟酌シ措置スルコト

第四十條 市長戸長町村長ハ第三十九條清潔法施行ノ期日ヲ定メ之ヲ告示スヘシ

前項ノ施行期日ヲ定メシムルトキハ市長ハ警察署戸長町村長ハ島廳郡役所及警察署又ハ警察分署ニ報告スヘシ

警察署警察分署ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ專ラ實施上ノ監督ヲ爲スヘシ但島廳郡役所ニ於テモ成ルヘク吏員ヲ派遣シ監督ヲ爲スヘシ

第四十一條 傳染病流行地ニ於テ該病ノ熄滅シタルトキ消毒上必要ト認ムルトキハ第三十九條ノ例ニ依リ臨時清潔法ヲ施行セシムルコトアルヘシ

第四十二條 本則ニ依リ市町村ノ施行ニ屬スル事業ノ費用ハ其市町村ニ於テ負擔スヘシ

前項ノ外貧困其他ノ事故ニ依リ豫防消毒其他清潔法ニ關スル事項ヲ施行スル能ハサルモノハ市町村ニ於テ相當ノ處置ヲ爲シ其費用ヲ負擔スヘシ但地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費用ハ此限ニアラス

第四十三條 本則ニ於テ掛吏員ト稱スルハ檢疫委員警察官吏及島廳郡役所市役所戸長役場町村役場ノ吏員ヲ云フ

虎列刺

第四十四條 虎列刺患者又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看護人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
 - 二 看護人及患者ノ排泄物取扱人ヲ定メ置クコト
 - 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
 - 四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若ハ石炭酸水ヲ入レ置キ排泄物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ澆キ其排泄物ハ成ルヘク之ヲ焼却スルコト
 - 五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳五十分一ノ生石灰若ハ五分一ノ石炭酸水ヲ澆キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ澆クコト
 - 六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看護人ノ衣服等總テ患者ノ排泄物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒ヲ行フコト
 - 七 患者ノ身体、排泄物及之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚ラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ排泄物ニ汚染セル様注意スルコト
 - 八 看護人ハ其衣服ヲ患者ノ排泄物ニ觸レサル様注意シ且其排泄物及之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
 - 九 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカヲサルコト
 - 十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト
- 第四十五條 虎列刺發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同ニテ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ
- 一 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ之ヲ用フルコト
 - 二 芥溝ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流澆潤ヲ防キ且下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト
 - 三 飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ用フルコト
 - 四 總テ本病ニ疑似スル症候ヲ發シタルモノハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケルコト

第四十六條

- 一 芥留ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
- 二 路傍便所及共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
- 三 醫師ヲシテ貧民部落其他必要ト認ムル各戸ヲ巡診セシムルコト

腸室扶私 赤痢

第四十七條 腸室扶私又ハ之ニ疑似セル患者及赤痢又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ第四十四條ニ準シ豫防法ヲ遵守スヘシ但瀉下物ハ成ルヘク之ヲ糞滿スルコト

第四十八條

腸室扶私若ハ赤痢發生シタルトキハ病家近傍ハ第四十五條ニ準シ豫防法ヲ遵守スヘシ

第四十九條

腸室扶私及赤痢患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テ第四十六條ニ準シ豫防法ヲ施行スヘシ

實布埤里亞

第五十條

- 一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童トキ他家ニ避ケシテ其兒童小學校幼稚園ニ通フモノナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校幼稚園ニ報告スルコト
- 二 患者ノ居室ニハ一定ノ看護人ノ外他ハノ交通ヲ絶チ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看護人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ數々砌酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含嗽シ且患者ノ居室ヲ出タルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 五 患者ノ痰唾鼻汁ヲ拭ヒタル紙片布片等ハ蓋覆ヲ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ含嗽シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ルコト
- 六 便器ニ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 七 患者ノ玩具飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

八 患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物玩具飲食器看護人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

第五十一條

實布埤里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同ニテ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ

- 一 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト
- 二 兒童ノ感冒ニ罹ルモノアルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト

第五十二條

實布埤里亞(格魯布)患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ又其病勢ニ依リテハ小學校幼稚園ヲ閉鎖スルヲ要ス

- 一 醫師ヲシテ小學校幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト
- 二 小學校幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト
 - 一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家ニ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ禁スルコト
 - 二 兒童中嗽咳或ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルコト
 - 三 生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ缺席ノ理由ヲ問フコト
 - 四 出頭時刻ヲ遲クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルコト
 - 五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト
 - 六 教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戸ヲ開放シ十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト
 - 七 教場内所々ニ適宜ノ瓶蓋等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰唾ハ此器中ニ吐カシムルコト

發疹室扶私

第五十三條 發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ

- 一 患者ノ居室ヲ定メ一定ノ看護人ノ外人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 三 看護人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 四 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 五 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器、其他總テ患者ノ身体ニ接觸セルモノ及看護人ノ衣服ハ之ヲ取
細メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

第五十四條 發疹室扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ

- 一 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト
- 二 身体衣服ヲ清潔ニシ過度ノ努力、露臥、夜行等身軀ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト
- 三 凡熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第五十五條 發疹室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ

- 一 醫師ヲシテ貧民部落其他必要ノ各戸ヲ巡診セシムルコト
- 二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト

痘 瘡

第五十六條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ

- 一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘ヲ爲スコト
- 二 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校幼稚園ニ通フモノナ
ルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校幼稚園ニ報告スルコト
- 三 患者ノ居室ヲ定メ一定ノ看護人ノ外人ノ交通ヲ絶ツコト
- 四 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

五 患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒ
タル布片、紙片又ハ落葉及居室内ノ塵芥等ハ必ス此器中ニ入ル、コト但器中ノ汚物ハ藥、鉤屑等ノ燃料
ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ之ヲ燒却スルコト

六 看護人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

七 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

八 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

九 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看護人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染セタル疑
アルモノハ之ヲ取細メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

十 患者ノ身体及痘漿ニ染汚セルモノハ蚊、蠅等ノ聚ラサル様之ヲ防クコト

十一 患者ノ痘瘡落葉スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非ラサレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ
混浴ノ風呂屋ニ入浴スヘカラス

第五十七條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ

一 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘スルコト

二 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第五十八條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ臨時ニ種痘ヲ普及セシムヘシ

消毒法

第五十九條 凡消毒ハ左ノ種類及効用ヲ撰別シテ之ヲ爲スヘシ

第一 火力

凡消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死体及屍毒ニ汚染スルコト甚クシテ貴重
ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 蒸熱附煮沸

第十類 ○衛生 (傳染病)

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱瀦ニ達フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘシ熱瀦消毒器中ニ入レテ熱瀦ノ内部ニ透徹シ易キ様適宜ニ之ヲ拂列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱瀦ヲ周テ通シテ消毒スヘシ

熱瀦消毒器ノ簡易ノ裝置ハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿テ熱瀦ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一孔ヲ穿テ寒暖計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ又熱瀦中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ大釜ヲ以テ煮沸ノ用ニ供スヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ効全カラストス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分 水 九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スル力アリテ効用甚タ廣シト雖其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘシ他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ 例ヘハ石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ且昇汞ヲ用フレハ危險ノ虞アル等 其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニヨリ使用スヘシ

石炭酸水ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レトモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後斑點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ精造精級ノ家屋貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス

石炭酸水ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ルヘシ

- 一 衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スルコト
 - 二 器具室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨スルコト
 - 三 手足ヲ消毒スルニハ先ツ石炭酸水ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スルコト
- 石炭酸水ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ至ランムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリトス但衣類等ニ使用スルモノヲ除キ其他ノ場合ニ於テ

ハ更ニ鹽酸若ハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シキモノトス

乙 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸五分 水 九百九十四分

昇汞水ハ假廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カンカ爲メ昇汞水百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色トナスカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサレ色素ヲ加ヘテ着色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

昇汞水ハ飲食物、玩具及飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若ハ糞便中ノ成分ニ達フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器、糞便及吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス

昇汞水ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲 乙兩種ノ消毒藥ニハ劇シク藥効アリ飲ビヘカラサト要記スヘシ

丙 生石灰 生石灰一分 石灰乳(十倍)水 九分

生石灰及石灰乳ハ虎列刺、腸壁扶私、赤痢等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アル者ナレハ吐瀉物、瀉下物、下水等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良トス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノヲ用フヘシ又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ使用スルトキハ能ク之ヲ攪拌スヘシ

丁 格魯兒石灰水 格魯兒石灰五分 水 九十五分

格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及土間等ノ消毒ニ用フ

戊 硫酸若ハ粗製硫酸 全量ノ水ニ溶 解シタルモノ

硫酸若ハ粗製硫酸ハ石灰乳石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池下水等ノ消毒ニ用フルヲ得ヘシ但硫酸若ハ粗製硫酸ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フ際能ク注意スヘシ

硫酸若ハ粗製硫酸ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト全量ノモノヲ注テ攪拌スヘシ硫酸若ハ粗製硫酸ヲ糞池ニ入ルニテ其其便多量ナル場合ニハ其糞分ヲ他器ニ分チテ各別ニ消毒スルヲ可トス又硫酸若ハ粗製硫酸ハ漆喰散、金、銀製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ糞池ノ周邊漆喰散ナルトキハ消毒ノ際特ニ注意シ又金銀製器ニ容ルヘカラス

硫酸若ハ粗製硫酸ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若ハ粗製硫酸五十分ヲ注加スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

第六十條 消毒ハ左ノ方法ニ依リ精密ニ施行スヘシ

第一 患者
傳染病患者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇永水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴ヲ取ラシムヘシ

第二 死体
傳染病者ノ死体ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ歛ムヘシ

第三 看病人其他病家ノ家人等
看病人其他病者ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事シタル吏員、人夫ハ手足ヲ石炭酸水又ハ昇永水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ汚垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者、死体等運搬器
患者死体等ヲ運搬シタル繩籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周チク昇永水又ハ石炭酸水ヲ灌クヘシ

第五 井戸、便所、芥溜、下水等
病家使用ノ井戸ハ其内外ヲ掃除シ數回水ヲ汲換ヘ濾水器ノ設アレハ是亦充分ニ掃除シ其破損セルモノハ改造又ハ修理スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物、腸管扶私赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等ニハ少ナクモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若ハ格魯兒石灰水此用量ハ最低度ヲ示シタルモノナレバ灌キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ

周チ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞池、肥料溜等ノ糞便ニテ附後新クニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉下物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ケナシ

虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若ハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取リテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘシハ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若ハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若ハ格魯兒石灰水ヲ灌キ能ク攪拌シテ後多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムヘシ

第六 衣服、器具、壘、敷物等
一 傳染病者ノ着用スル衣服及患者ノ用ニ供シタル器具、蚊帳、飲食器、藥用品、玩具其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類

一 看病人其他病者ニ汚染セル病家ノ家人消毒法ノ施行ニ從事セル吏員、人夫等ノ着用セル衣服及手巾、足袋、靴、草履等

一 患者ノ居室内ニ用ヒタル壘、蓆、敷物等ニテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ

右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚シク且高價ナラサル品ハ成ルヘシ燒却スルヲ良シトス

(一) 蒸熱 消毒スヘキ物中ニ應シ攝氏百度以上ノ熱蒸ヲ三十分乃至一時間以上周チテ通セシム

(二) 煮沸 熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス

(三) 石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ二十時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗滌ス

(四) 昇永水浸漬 昇永水中ニ二十時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗滌ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

(一) 石炭酸水拭淨石炭酸水ヲ以テ拭淨シテ

(二) 乾布拭淨乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭淨シ其乾布ハ速ニ焼却ス

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇永水等ノ浸漬ヲ用フ但昇永水ハ金屬製器ニ用フヘカラス

木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且高價ナラザル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良トス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、蓆、絨緞、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル后日光天氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ者ノ吐瀉

物、下物ノ浸漬セルモノ虎列刺、發疹、痲疹、ハ燒却スヘシ

第七 患者ノ居室

傳染病患者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚ケ此疊、敷物ノ消毒ハ前項ニ據ルヘシ室内各部床及床

下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ床及床下ニ吐瀉物滲漏セルトキハ石灰乳掃除后昇永水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ

叮嚀ニ拭淨スヘシ

右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スルマテ家人ノ起居ヲ爲サシム

サルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

第八 船舶

傳染病患者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先テ人家及他ノ船舶ニ隔リ

タル所ニ廻航セシムヘシ

一 患者アリタル船室ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次

ニ昇永水又ハ石炭酸水ヲ周チシ室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗淨シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、

空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スルマテ船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セ

シムヘシ

一 患者アリタル室ノ外ト雖病汚染ノ疑アル場所及不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ

虎列刺ニ於テハ前二項ノ外尚ホ左ノ方法ヲ行フヘシ

一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗滌スヘシ

一 吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ溜留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

一 船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗滌スヘシ

罰例

第六十一條 第十五條第十六條第十七條第十八條第二十條ヲ犯シタル者及第十九條ニ依リ警察署又ハ警察分

署ニ於テ爲シタル榜示ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●島根縣訓令第六十七號 明治二十八年六月五日

島 廳 郡役所 警察署
警察分署 市役所 戶長役場

町村役場

明治二十八年五月本縣令第三十六號傳染病豫防細則第三條ニ依リ市長戶長町村長ニ於テ醫師ヨリ傳染病ニ疑似

スル患者又ハ死者ニ關スル通知ヲ受ケタルトキ其吐瀉病ニ係ルモノハ當分ノ内同細則第六條第一項ノ例ニ依

リ縣廳ニ届出ヘシ

前項ノ吐瀉病患者又ハ死者ニ對シテハ虎列刺病同様ノ消毒法ヲ嚴重施行スヘシ

●島根縣訓令第八十三號 明治二十八年七月二十四日 島 廳 郡役所

明治二十八年五月本縣令第三十六號傳染病豫防細則第二十八條ニ依リ避病院建設又ハ其地所豫定ノ認可申請書

ヲ進達スルトキハ實地調査ヲ遂ク其適否ニ關スル意見ヲ副申スヘシ

●島根縣訓令第五十四號 明治二十四年三月十二日 島 廳 郡役所 警察署

警察分署 市役所

傳染病豫防事務所設置規定左ノ通相定ム

傳染病豫防事務所設置規定

第一條 傳染病流行ノ際豫防消毒施行ノ爲メ必要アリト認ムルトキハ地方税ヲ以テ其事務所ヲ設置スルコトアルヘシ

但傳染病豫防規則第十四條ニヨリ檢疫所ヲ設置シタル場合ハ此限ニアラス

第二條 豫防事務所ハ島司又ハ郡市長ノ管理トス

第三條 豫防事務所ニ要スル費用ハ豫算ヲ以テ島廳又ハ郡市役所ヘ下付スヘキニ付閉所後十日以内ニ精算ス

●訓令第五六十三號 明治二十三年七月二十一日
縣立避病院事務手續左之通相定ム

島 廳 郡役所 市役所

縣立避病院事務手續

第一條 縣立避病院ノ開設又ハ閉鎖ハ訓令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 縣立避病院ハ島司又ハ郡市長ニ於テ管理スヘシ

第三條 縣立避病院ヲ開設シタルトキハ島司又ハ郡市長ハ吏員ニ避病員掛ヲ命ジ其旨開申スヘシ

第四條 治療醫ハ縣廳ニ於テ任免スヘシ

第五條 縣立避病院掛員及治療醫ハ左ノ事項ヲ分擔スヘシ

避病院掛員

一 建築修繕ニ關スルコト

一 需用品ノ供給及取締ニ關スルコト

一 院内庶務會計及上申往復ニ關スルコト

一 雇人ノ進退及使役ニ關スルコト

治療醫

一 患者治療及入退院許否ニ關スルコト

一 處方録及病床日誌調製ノコト

一 病勢及治療上ノ景況ヲ報告スルコト

一 患者ノ食餌ヲ検査スルコト

一 調劑員ヲ指揮監督シ調劑セシムルコト

一 調劑簿ヲ調製スルコト

第六條 左ニ掲グル項目ハ出張警察官ノ監督ニ任スヘシ

一 患者ノ出入及消毒ニ關スルコト

一 排泄物埋焼却ニ關スルコト

一 汚穢物ニ汚染セシ燒棄物品ニ關スルコト

一 院内取締ニ關スルコト

第七條 避病員掛員及治療醫ハ其事務ヲ分擔スト雖トモ互ニ協議施行スヘシ

第八條 雇人ハ左ノ制限ニヨリ雇入ルヘシ但制限外ニ出ツルトキハ島司又ハ郡市長ノ指揮ヲ乞フヘシ

一 調劑員一名日當金參拾錢以内

一 小使二名一名日當金貳拾錢以内

一 看護人一名ニ付日當金二拾錢以内

一 運搬人一名ニ付日當金貳拾五錢以内

第九條 縣立避病院經費ハ概算ヲ以テ下付スヘキニ付島司又ハ郡市長ニ於テ受拂ノ上閉院後三十日以内ニ精算スヘシ

第十條 縣立避病院需用物品ハ經費豫算以内ト雖モ一個五圓以上ニ涉ルトキハ島司又ハ郡市長ノ指揮ヲ受ク

●第十類 ○衛生 ○傳染病

第十一條 治療費旅費ハ明治二十一年縣令第八十四號醫師派遣規則ニ據リ支給スヘシ
 第十二條 治療醫ノ内自宅ヨリ通勤スルモノハ旅費ヲ給セス院内ニ宿直スルトキハ賄料一直七錢翌日午後退院スルトキハ午餐費三錢五厘支給ス
 第十三條 患者ニ與ラル藥品代ハ追テ原價ヲ以テ徵收シ地方稅雜收入トシテ上納スヘシ
 第十四條 患者ノ賄ハ相當ノ者ヲシテ請負ハシムヘシ
 第十五條 患者入院マテニ係ル費用及死体埋火葬ニ關スル費用ハ本人ノ自辨トス
 ●島根縣訓令第八十八號 明治二十八年八月九日
 島 廳 郡役所 市役所
 戶長役場 町村役場

市町村避病院管理規程左ノ通定ム

第一條 避病院々務ハ左ノ例ニ依リ分擔ヲ定ムヘシ

醫 長

醫務及衛生事務ヲ掌理シ醫員看護人等ヲ監督ス

毎日一回以上回診シ治療並看護ノ方針ヲ醫員及看護人ニ指示ス

醫 員

醫長ノ指揮ヲ承ケ治療其他患者ニ關スル事務ヲ擔當ス

調劑掛

醫長ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當ス

看護人

醫長及醫員ノ指揮ヲ承ケ患者ノ看護ニ從事ス

事務員

院内ノ庶務ヲ掌理ス

第二條 消毒ニ從事セシムル爲メ豫テ院内諸員ニ就キ消毒擔當者若干名ヲ定メ置クヘシ

第三條 醫員調劑掛事務員ハ交番宿直スヘシ

第四條 看護人ハ院内ニ宿泊シ交番ヲ以テ通宵看護ニ從事スヘシ

第五條 患者ニシテ費用ヲ自辨スルモノハ避病院所屬外ノ醫師ニ治療ヲ受ケシムルコトヲ得

第六條 入院患者ノ父母妻子兄弟等近親縁故ノモノニシテ附添看護ヲ請フモノアルトキハ院務ニ妨ケナキ限リハ之ヲ許可スルヲ得ト雖モ成ルヘク患者一人ニ付一人ヲ超ヘサルヲ要スヘシ

附添看護人ニハ院内ノ諸規則醫長以下ノ指揮ヲ遵守セシメ且猥リニ外出ヲ許スヘカラス

第七條 患者又ハ附添看護人ニ面會ヲ求ムルモノハ之ヲ許可スルヲ得ト雖モ猥リニ病室ニ立入り或ハ長時間ノ談話等ハ許スヘカラス

第八條 醫長醫員及看護人等ハ病室用衣ヲ定メ置キ病室ニ入ルトキハ之ヲ被フリ病室ヲ出タルトキハ之ヲ脱シ一定ノ場所ニ置クヘシ

附添看護人面會人其他病室ニ出入スルモノハ前項ニ準シ病室用衣ヲ被ハンムヘシ

第九條 消毒所、屍室、汚物置場及燒却所等ニ出入スルトキモ前條ニ依ルヘシ

第十條 病室用衣ハ病室汚染ノ疑ナキモノト雖モ一周二回以上消毒ノ上之ヲ洗濯スヘシ若シ病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アルトキハ其都度十分ノ消毒ヲ爲スヘシ

第十一條 病室ノ出口ニハ履物ヲ消毒スル爲メ棕櫚製ノ靴拭ヒ或ハ藁藎ノ類ヲ敷キ之ニ石炭酸水ヲ潤シ置クヘシ

第十二條 調劑所ハ醫長、醫員、調劑掛其他要用アルモノハ外猥リニ出入セシムヘカラス

看護人ニシテ調劑所ニ往復スルモノハ豫メ之ヲ定メ置クヘシ

●第十類 ◎衛生 (傳染病)

- 第十三條 患者ニ與ヘタル藥劑ノ包紙ハ再ヒ之ヲ使用スヘカラス硝子瓶其他陶器ノ藥瓶類ハ相當ノ消毒ヲナシ使用スヘシ
- 第十四條 病室内ニ於テハ患者ノ外附添看護人ト雖モ飲食ヲ爲サシムヘカラス
- 第十五條 院內ニ於テハ飲食用ノ器具ハ使用ノ都度之ヲ煮沸シ又ハ熱湯ニテ洗滌スヘシ其患者ノ用ニ供セタルモノハ煮沸又ハ熱湯洗滌ヲ爲シタル後ニアラサレハ賄所ニ運ヒ入ルヘカラス
- 賄所ハ第十二條ニ準テ相當ノ取締ヲ爲スヘシ
- 第十六條 患者ノ飲食物ハ成ルヘシ自宅ヨリ取寄スルヲ廢シ院內ニ賄人ヲ置キ醫長ノ監督ヲ受ケ調理スヘシ
- 第十七條 院內ニ於テ使用スル飲料水及飲食物ハ必ス煮沸シタルモノニ限ルヘシ
- 第十八條 飲食物ハ塵埃ノ混入並蠅ノ群集ヲ防シヘキ場所ニ置クヘシ
- 第十九條 飲食物ハ避病院ニ於テ許可シタルモノ、外ハ總テ他ヨリ院內ニ入ル、コトヲ禁スヘシ
- 第二十條 患者ニ供セタル飲食物ノ殘餘ハ直ニ一定ノ場所ニ於テ燒棄シ決シテ賄所ニ運ヒ入レ又ハ院外ニ持出スヘカラス
- 第二十一條 患者及附添看護人ノ被服、寢具、器具其他病汚染ノ疑アルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ院外ニ持出サシムヘカラス
- 第二十二條 患者ノ排泄物ニ觸接シタル物品ニシテ價格ノ低廉ナルモノハ成ルヘシ之ヲ燒棄スヘシ
- 第二十三條 患者ヲ快復期患者室ニ移ストキハ豫テ相當ノ消毒ヲ爲スヘシ
- 第二十四條 患者全癒退院ノ際ハ先ツ昇水水又ハ石炭酸水ニテ全身ヲ拭淨シタル上入浴セシメ石鹼ヲ以テ身体ヲ清洗シ然ル後衣服ヲ更ヘシムル等相當ノ消毒ヲ行ヒ退院セシムヘシ
- 附添看護人退院ノトキ亦本項ニ同シ
- 第二十五條 死者アルトキハ直チニ二十倍ノ石炭酸水ニ浸シタル布片ヲ以テ全身ヲ被包シ速ニ之ヲ屍室ニ移スヘシ

第二十六條 火葬又ハ埋葬スル爲メ死体ヲ他所ニ移ストキハ棺中ニ生石灰又ハ格魯兒石灰ヲ入レ其上ニ屍体ヲ置キ更ニ該藥ヲ撒布シテ之ヲ密閉スヘシ

●島根縣訓令第五十五號 明治二十八年五月九日

島 縣 郡役所 市役所
戶長役場 町村役場

醫師派遣規則左ノ通定ム

- 醫師派遣規則
- 第一條 傳染病又ハ地方病ニ關シ左ノ場合ニ於テハ縣廳ヨリ醫師ヲ派遣スヘシ
 - 一 傳染病ノ鑑定ヲ要スルトキ
 - 二 傳染病豫防消毒治療上又ハ病況ノ觀察ヲ要スルトキ
 - 三 種痘施術上ノ觀察又ハ指導ヲ要スルトキ
 - 四 地方病ノ調査ヲ要スルトキ
- 第二條 島司郡市長ハ第一條各項ニ該當スル必要ヲ認メタルトキハ其事由ヲ具シ醫師ノ派遣ヲ請フコトヲ得
- 第三條 市長戶長町村長ハ第一條二項ノ場合ニ於テ派遣シタル醫師ニ其市町村傳染病患者ノ治療ヲ請フコトヲ得但治療ニ要スル費用ハ患者ヨリ辨償セシムヘシ
- 第四條 派遣醫師ハ實際ノ須要ニ從ヒ相當ノ學識ヲ有スル醫師ヲ以テ之ニ充ツヘシ
- 第五條 派遣醫師ハ其本務アルト否ト拘ハラズ派遣ヲ命シタル日ヨリ手當トシテ一日金三圓以内ヲ支給スヘシ
- 第六條 派遣醫師ノ旅費ハ地方稅旅費規則ニ依リ警察官吏其他內國旅費概則中甲號表面相當ノ額ヲ支給スヘシ但本務アルモノハ各其所屬規定ニ依ルヘシ
- 第七條 派遣醫師職務上必要ノ携帶品ニ屬スル運搬費ハ實費ヲ以テ支給スヘシ
- 第八條 派遣醫師ノ手當、旅費及携帶品運搬費等ハ總テ地方稅ヲ以テ支給スヘシ

●島根縣令第三十八號 明治二十四年三月十三日
傳染病者排泄物汚穢物埋沒場燒棄場取縮規則左ノ通相定ム

傳染病者排泄物汚穢物埋沒場燒棄場取縮規則

- 第一條 傳染病者ノ排泄物汚穢物ハ本則ニ依リ設置シタル場所ニ於テ埋沒又ハ燒棄スヘシ
- 第二條 排泄物汚穢物埋沒場燒棄場ヲ設置セントストキハ其地名番號地種地目反別地主ノ姓名及使用關係ノ地名並ニ第三條ニ關スル事項ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ヘ願出廢場シタル時ハ届出ヘシ
- 第三條 排泄物汚穢物埋沒場燒棄場ハ市町村又ハ町村内大字(止ムテ得サル)(ハ一部別)ノ共用ニシテ左ノ各項ニ觸レサル場所ニ限ル

但從前許可ノ場所ト雖モ本條ニ抵觸スルモノハ改廢ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 埋沒場ハ國道並ニ交通頻繁ナル道路及河川ニ添ハス人家並ニ飲料水ヲ隔ツル凡百二十間以上ニシテ高燥ナル地
- 二 燒棄場ハ人家ヲ距ル凡百二十間以上ニシテ飲料水ニ接近セサル地

第四條 排泄物汚穢物埋沒ハ六尺以上ノ地下ニ於テ爲スヘシ

第五條 排泄物汚穢物埋沒場燒棄場ニハ適宜ノ範圍ヲ設ケ其場名ヲ記シタル木標ヲ建ツヘシ

第六條 第一條ヲ犯シタルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

排泄物汚穢物ノ埋沒場燒棄場ハ廢場後一ケ年以上ヲ經ルニ非サレハ家屋ヲ建テ又ハ井池等ヲ穿ツコトヲ得ス

●島根縣訓令第一七號 明治二十四年六月十九日

島 廳 郡 役 所

傳染病者排泄物汚穢物埋沒場燒棄場設置ノ儀願出タルトキハ實地檢査ノ上其旨副申スヘシ

●乙第三十三號

明治十六年三月二十七日

郡 町 村

他府縣下ニ寄留及旅行中傳染病ニ罹リタルモノ身元赤貧ニシテ費用支辨ノ資力ナキモノハ總テ發病地地方稅ヲ以テ支辨可致答ニ候條爲心得此旨相達候事

●島根縣訓令第八十五號 明治二十七年四月三十日

島 廳 郡 役 所 市 役 所

傳染病ニ罹リタル赤貧者費取扱手續別紙ノ通定ム但明治二十七年五月十日ヨリ施行ス

(別紙)

傳染病ニ罹リタル赤貧者費取扱手續

第一條 本縣内ニ於テ傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ナルトキ其費用ハ此手續ニ依リ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ但親戚故舊ニ於テ之ヲ代償スルモノアルトキハ此限ニアラス

第二條 前條赤貧者ト稱スルハ左ノ各項ノ中ニ該當スルモノトス

- 一 地方稅戶數割ヲ免除シタル者並其家族
- 二 地所家屋ヲ有セス並貯蓄ノ財物ナク一巳ノ勞力ヲ以テ纔ニ一家ノ生計ヲ營ム者並其勞力者ニ頼リテ生活スル家族
- 三 地所家屋ヲ有スルモ其沽價患者費ヲ償フニ足ラズ且患者費二倍以上ノ負債アリ一家生計ノ狀況前項ニ等シキ者並其勞力者ニ頼リテ生活スル家族
- 四 寄留人行旅人ノ身元赤貧ナル者

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スル費用ハ左ノ制限ニ超ユルヲ得ス但虎列拉病患者ニ付テハ看護人賃、埋火葬費、汚物埋焼却費、消毒藥品費、同人夫賃ニ限リ各其半額ヲ増シタルモノヲ以テ制限トス

- 一 診察料 患者一人ニ付初診一回 金五拾錢以內

再診以後一患者ニ付一日金七錢以內

●第十類 ○衛生 ○傳染病

- 二 藥價 患者一人ニ付 一日金拾錢以內
 - 三 看護人賃 一患者ニ付一日 金貳拾錢以內
但獨身者、行旅人又ハ家族中老幼、病者ノミニシテ看護スルモノナキ場合ニ限ルヘシ
 - 四 排泄物運搬人賃 一患者ニ付一日 金三拾五錢以內
但虎列拉病患者ニ係ルモノニ限ルヘシ尤モ虎列拉病患者ニアラサルモ其轉歸ノ際之ヲ要スルトキハ患者一人ニ付一日分ヲ支辨スヘシ
 - 五 埋火葬費 (棺並附品、埋火葬用器具、火葬料、死體運搬費、火葬人夫賃) 一屍ニ付 金貳圓五拾錢以內
 - 六 汚物埋焼却費 (運搬器具、焼却料、患者一人ニ付 金五拾錢以內)
 - 七 消毒藥品費 (死体用 一屍ニ付 金貳拾錢以內)
(家屋用 一患者ニ付 金貳拾五錢以內)
(病中用 患者一人ニ付一日 金五錢以內)
 - 八 消毒人夫賃 (死体消毒人夫 一屍ニ付 金貳拾錢以內)
(家屋消毒人夫 一患者ニ付 金貳拾錢以內)
 - 九 病汚染ノ爲メ焼却ヲ要スル物品買上代 患者一人ニ付金五拾錢以內
 - 十 患者賄料 患者一人ニ付一日 金五錢以內
前各項ノ外患者ニ要シタル費用コシテ直接治療若シハ豫防消毒ニ關スルモノハ其事實止ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ支辨スルコトアルヘシ
- 第四條 前條諸費ノ中藥價埋火葬費、燒却物品買上代、患者賄料及家屋消毒ニ要スル藥品費並人夫賃ハ市町村ニ於テ設置セシ避病所ニ於テ治療セシトキト雖モ之ヲ請求スルコトヲ得
- 第五條 第一條ニ該當スルモノアルトキハ左ノ書類ヲ整理シ患者轉歸後二十日以内ニ市長ハ直ニ戸長、町村長ハ島廳又ハ郡役所ヲ經テ縣廳ニ請求スヘシ

- 一 患者費支辨請求書
 - 二 患者費仕譯書
 - 三 諸費正當請取人領收証書
 - 四 患者身元証明書
但寄留人、行旅人ニ付テハ原籍地市長戸長而村長ノ証明書 他府縣市長戸長而村長ノ作ルモノヲ除クノ外發病地ニ於テモ資力ナキ事實ヲ証明スヘシ
 - 五 看護人又ハ排泄物運搬人 虎列拉病患者ニシテ要シタル事由書 係ルモノヲ除ク
 - 六 病汚染ノ爲メ燒却ヲ要シタル物品取調書
但燒却ヲ要スルモノハ警察官吏ノ立會ヲ求メ其品名及相當見積代價ヲ取調ヘ本書ヲ作り立會人ノ証印ヲ受ケ置クヘシ
- 第六條 島廳郡役所ニ於テ前條ノ請求書類ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ當否ノ意見ヲ具シ縣廳ニ進達ス
- (患者費仕譯書式)
- 傳染病ニ罹リタル赤貧者費仕譯書
- 一金何程 此譯 何町某外何人分
- 一金何程 此譯 何町某分
- 但何年何月何日發病何年何月何日全治(死亡)セシ何病患者諸費
- 診 察 料

但何月何日初診金何程何月何日ヨリ何月何日マテ診察何一回金何程此金何程（以上正當請取人領收証書ニ詳記アルモノハ之ヲ省クコトヲ得以下同シ）別紙第何號証書ノ通

但何月何日ヨリ何月何日マテ何月分一日金何程別紙第何號証書ノ通 價
看護人賃

但何月何日ヨリ何月何日マテ何日分一日金何程別紙第何號証書ノ通
排泄物運搬人賃

但何月何日ヨリ何月何日マテ何日分一日金何程別紙第何號証書ノ通
埋火葬費

但棺桶一個代金何程何品何個一個金何程此金何程人夫何人一人ニ付金何程此金何程別紙第何號証書ノ通
汚物埋焼却費

但何品代金何程人足何人一人ニ付金何程此金何程別紙第何號証書ノ通
消毒藥品費

但死体用何藥何程此金何程家屋用何藥何程此金何程病中用何藥何程何日分一日金何程此金何程別紙第何號証書ノ通
消毒人夫賃

但死体消毒人夫何程此金何程家屋消毒人夫何人一人何程此金何程別紙第何號証書ノ通
焼却物品買上代

但何品何個代一個金何程別紙第何號証書ノ通
患者賄料

一金

内

金

(以下前ニ同シ)

右之通有之候也

明治何年 月 日

市長(戸長)(町村長) 姓 名

縣知事 當

●島根縣訓令保第一二號 明治二十七年四月三十日 警察署 分 署

赤貧者傳染病ニ罹リタルトキ市長戸長町村長其費用ヲ當廳ニ請求スル場合ニ於テ病毒汚染ノ爲メ燒棄スル物品代ニ付テハ警察官吏ノ立會ヲ求メ其品名及相當見積代價ノ取調書ヲ作り立會人ノ証印ヲ受ケ差出スヘキ筈ニ付右立會ノ請求ヲ受ケタルトキハ相當取計フヘシ

●島根縣訓令保第一四號 明治二十七年六月九日 警察署 分 署

今般別紙ノ通赤痢病豫防ニ關スル設備万島廳郡役所ニ訓令シタルニ付其署ハ署長及警部巡查部長ヲ以テ赤痢病豫防掛ト定メ島廳又ハ郡役所ノ豫防掛ト協議シ赤痢病豫防上ニ關スル警察規則ノ履行ヲ務メ充分實効ヲ舉クルニトヲ務ム可シ

(別紙)

島根縣訓令保第一三號 明治二十七年六月九日 島 廳 郡役所

今般赤痢病豫防ニ關スル設備ノ要領左記各項ノ通定ムルニ付右ノ旨趣ニ依リ適宜其吏員ニ赤痢病豫防掛ヲ命

●第十類 ○衛生 ○傳染病

シ充分實効ヲ舉クルコトヲ務ムヘシ

但豫防掛ヲ命シタル吏員ノ氏名開申スヘシ

一 島廳郡役所ニハ赤痢病豫防掛ヲ設クルコトヲ要ス

一 赤痢病豫防掛ハ成ルヘシ公衆衛生ノ事ニ通曉シ特ニ豫防消毒法ノ施行ニ經驗アルモノヲ以テ之ニ任スルコトヲ要ス

一 赤痢病豫防掛ハ町村ノ赤痢病ニ對スル豫防消毒ノ施行ヲ視察スルコトヲ要ス

一 赤痢病豫防掛ハ醫會等ト氣脈ヲ通シ赤痢病者届出ヲ速ナラシムルコトヲ要ス

一 町村ニシテ避病院若クハ隔離病室ナキモノハ赤痢病流行ニ際シテ成ルヘシ之ヲ設ケシムルコトヲ要ス

一 避病院及隔離病室ニハ少クモ患者三十人ニ對シテ宿直スヘキ醫師一人看護人三人ノ割合ヲ以テ醫師及看護人ヲ雇入レ置クコトヲ要ス

一 町村ハ赤痢病流行セントスルニ際シ消毒藥、消毒器具、便器等ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

● 島根縣告示第九十三號 明治二十七年六月十六日

目下廣東及香港ニ於テ流行スル黑死病ハ追々蔓延ノ景況ニシテ何時本邦ニ侵入スルヤモ難計ヲ以テ此際該病狀及豫防法ヲ知ルハ最モ必要ニ付其筋ノ取調ニ係ルモノヲ概示スルコト左ノ如シ

黑死病(一名)ペスト「黑死病ノ起原ハ遊トシテ考フヘカラス歴史上記事ノ存スルモノハ耶穌生後五百二十一年ヲ始トス此年君士但丁ニ於テ「ペスト」様ノ疾病發生シテ漸次蔓延シテリシカ五百四十二年ニ至リ波斯ヨリ起リテ猛烈ナル流行ヲ來シ廣ク東洋諸邦ヲ侵襲セリ降テ第十四世紀ニ至リテハ一層ノ猛威ヲ振ヒ全世界ヲ横行シ清國ヨリアイヌランド、グリオーランドニ至ルマテ黑死途ニ滿テ野ニ耕夫ナク都市ニ行人ヲ見

ス僅ニ生存セル者モ飢寒ノ爲ニ死亡ノ危難ヲ免レザル程ノ慘劇ヲ呈シタリ當時流行ノ狀態ヲ推考スルニ駝行商等ノ通路ニ伴ヒタルノ形跡著シク總テ商賈交通ニ依リテ亞細亞ヨリ歐羅巴ニ達シタルハ蓋フヘカラルノ事實ナリ此流行ニ際シテ獨逸一國ニ於テ該病ノ爲メニ斃レタル者百二十五万ニ下ラス(ヘツケル

ノ説ニ依ル)東洋ニ於テハ二千三百万乃至二千四百万人ノ死亡者アリントイフ其慘狀今日ヨリ之ヲ追想スルモ覺ニス肌膚ノ粟立ヲ生スルニ餘アリ五百四十二年君士但丁ニ於テ流行シタル「ペスト」ノ症狀ハプロコーアノ記述ニ據レハ左ノ如シ強熱ヲ發シテ往々躁狂狀ヲ爲スコトアリ鼠蹊腋窩ノ淋巴腺、耳下腺等腫脹ス此等諸腺ハ炎症ニ陥リテ暗黒色(壞疽色)ヲ爲ス此腺腫化濃スルトキハ患者恢復スル望アリ之ニ反シテ扁豆大黒色ノ膿疱滿身ニ發生シ諸所ニ「カルブングル」ヲ發シ或ハ吐血ヲ來ストキハ日ナラズニテ死ニ至ルヘシ是レ最モ惡性ノ症トス膿疱ノ色ニ依リテ黑死病ノ稱アルナリ通例發病後三日以内ニシテ死亡スル者多シ尤モ第三日ヲ經過スルトキハ之ヲ佳候ト見做スコトヲ得ヘシ

第十四世紀ノ「ペスト」ハ其症候少シク之ニ異ナリ一層劇甚ノモノタリシハ疑ヲ容レズ

高熱腺腫「カルブングル」渾身ノ黒斑等ハ前流行ニ異ナラザリシモノ一層ノ厭フヘキ新症候ヲ發シタリ即チ該症ノ患者ハ胸痛ヲ發シ咳嗽頻發シテ非常ニ惡臭アル血液ヲ咯出セリ斯ノ如ク咯血ヲ來セル患者ハ三日目迄生存スルコト殆ト絶無ニシテ多シハ其前ニ於テ死亡セリ而シテ該患者ノ惡臭アル呼吸氣ト血液トハ病毒蔓延

ノ媒介ト爲リテ空前絶後ノ慘劇ヲ呈セシト云フ(ヘツケ、ヒルシユノ説ニ依ル)

ヒルシユノ説ニ據レハ出血性肺疾患ヲ合併スル黑死病ハ印度ノ西北地方殊ニヒマラヤ山ノ南側ニ位スルガルワール、シマオン洲ノ地方病ニシテ畢竟東洋ニアル腺腫「ペスト」ノ一症ナリト云フ或ハ埃及ニ於テモ地方性ニ發スルノ説アレトモ信シ難シ第十四世紀ノ流行以來「ペスト」ノ流行セシハ事實ナレトモ何時モ東洋ニ止リテ遠ク西洋ニ及ハス千八百五十二年ニハ西亞刺比亞ニ發シ千八百五十八年乃至五十九年ニハ北亞非利加ノペンガチ洲ニ發シ千八百六十三年、千八百七十年、全七十二年ニハ波斯頭タルザンニ發シ千八百七十二年乃至七十四年ニハオアフラーニ發シ千八百七十四年ニハ再ヒペンガチニ發シ千八百七十六年乃至七十七年ニハシマオンノ山間ノ村落ニ流行シ千八百七十八年全七十九年アスタラハン及一般ニウオルガ地方ニ流行セリ「ペスト」ノ流行スルヤ饑饉、洪水、畜疫、汚物、蓄積等必ス之カ前驅ト爲リテ先ハ人民ヲ疲弊セシメ次テ大勢ニテ侵襲スルモノトス總テ濕温ナル空氣、隘屋ニ多人數住居スル事、動物性及植物性腐敗物ノ住家近邊ニ

鬱積スル事、食料ノ欠亡、心身ノ疲勞、私衛生ノ不注意等ハ本病ノ發生ニ與テカアルカ如シ
「ベスト」ノ感染ニハ必スシモ健者ト病者ノ觸接スルヲ要セズ是レ其室扶斯ニ類スルノ點ナリ但シ交通ニ依リ
テ感染スルハ疑ナキカ如シ故ニ此病毒ハ或ハ空氣ノ媒介ニ因リテ傳播スルヤモ計リ難シ
潜伏期ハアルノ一ニ依レハ五日乃至六日ニシテ八日ヲ越エサルモノトスヒルニハ短キモ二三日長キハ八日
ニ涉リ平均五日位ナリト云ヘリ

近世ノ「ベスト」ハ之ヲ三類ニ分ツコトヲ得ヘシ
第一 假性「ベスト」鼠蹊、腋窩、頸部等ニ腺腫ヲ發スルモ發熱ヲ來サス患者歩行ニ耐フ腺腫ハ腺病性腺腫ト異
ニシテ大約十四日ヲ經レハ全癒ス但シ稀ニハ化膿スルコトアリ此症ハ流行時ノ初期ト其終期ニ於テ目撃ス
ルヲ常トス然レトモ果シテ傳染スルヤ否ヤハ詳ナラス

第二 重症「ベスト」此症ハ普通見ル所ノモノニシテ渾身倦怠ニシテ關節痛ヲ發シ少時ニシテ惡寒戰慄ヲ來ス
二日目ヨリ四日目ノ間ニ於テ鼠蹊、腋窩、下顎、頸關節等ニ沿ヒテ腺腫ヲ來シ劇甚ナル頭痛ニ伴ヒテ膀胱ヲ
發シ顔面潮紅、結膜、喉嚨シテ眼、球光輝ヲ失ヒ皮膚熱シ舌ハ乾燥シテ黒苔ヲ帶ヒ龜裂ヲ生ス時トシテハ舌
縁ニ紅色ヲ呈シ中央ニ淺苔ヲ帶フルコトアリ腺腫ハ疼痛ヲ伴ヒテ瀾々腫脹ノ度ヲ増シ七日目頃ニ至リテ化
膿ス此時期ニ達セサルモノハ黒斑「カルブンケル」等ヲ發シテ死ニ歸ス化膿ハ佳良ノ徵候ニシテ屬々治癒ヲ
促カスコトアリ

此類ノ「ベスト」ニ於テハ前驅トシテ頓發、眩暈、振擗、瞬時失神スルコトアリ
最モ重症ナルモノニアリテハ強熱ノ際咯血ヲ來スコトアリ脈ハ發熱期ニ於テ一分時百乃至百三十搏ニ至リ
體温ハ四十度又ハ四十二度ニ達ス發熱歇止スルトキハ體温急速ニ下降シ多量ノ發汗ヲ爲シテ暫時間三十三
度半ニ至ルコトアリ患者往々頸部ノ燥熱ニ苦シム胸部ニ刺痛ヲ訴フルコトアリ又惡心ヲ發シ胆汁様物稀ニ
ハ咖啡様物ヲ吐血スルコトアリ「ベスト」ハ通例便秘スルモノニシテ若シ下痢アルトキハ之ヲ佳候ト見做ス
コトヲ得ヘシ尿ハ著シキ變化ヲ受ケス粘膜(鼻、肺、胃、腸、尿道)ノ出血ハ轉歸不良ノ患者ニ於テ目撃スル

ヲ常トス
腺腫ヲ發スルノ前多クハ全身違和ヲ覺ニ但シ稀ニハ腺腫ノ發生後徐ニシテ患者疾病ニ罹リタルヲ自覺セサ
ルコトアリト雖モ多クハ腫脹ヲ來スニ先チテ其腺ニ疼痛ヲ感スルカ故ニ上記ノ如キハ異數ニ屬スルモノト
ス死ニ歸スル患者ニ於テハ腺ノ化膿スルコト稀ナリト雖モ發作ノ初日ニ於テ腫起減退シテ扁平ト爲ルハ豫
后不良ノ患者ニ於テ最モ多シ

發疹ヲ來スモノハ豫后不良ナルモノニ限ル其大サハ粟粒大乃至扁豆大ニシテ其數非常ニ多ク全身ニ彌蔓シ
テ患者早ク己ニ屍色ヲ帶ルコトアリ死后ハ一層濃厚トナリテ殆ト黒色ヲ呈スルニ至ル「ベスト」ハ上記ノ症
狀ヲ呈スルカ故ニ室扶斯又ハ回歸熱若シハ爾餘ノ惡性熱病ト誤謬スルノ憂ナシ腺腫出血トハ能ク本病ヲ確
診スルノ價値アリ

第三 劇症「ベスト」此症ハ重ニ「ベスト」流行ノ初期ニ目撃ス患者卒然昏倒シ數時ヲ出スレテ死ス而シテ本病
特有ノ徵候(腺腫)「カルブンケル」等)ヲ呈スルコトナシ生前ニ於テハ神經中樞ノ侵害(振擗、昏睡)紫斑ノ發
生、吐血等ヲ以テ診定スルヲ得ヘク死后剖檢スレハ淋巴腺腫脹ノ初期ニアルヲ目撃スルヲ得ヘシ

トツアチルハ千八百七十八年、全七十九年下ウオルガニ於テ「ベスト」ノ研究ニ從事シタリ氏ハ本病ノ症候
ニ依リテ二種ニ分類セリ
(甲)劇甚ナル前額痛、頭痛、強熱(百二十搏)全身熾感、腹部膨滿、肝臟腫大(鬱血)等ヲ以テ始メ兩三日ニシ
テ發汗ヲ來ストキハ假令初發ノ衰弱甚シキモ痊癒ノ望アリ然レトモ多クハ兩三日ニシテ熱度一層亢進シテ
四十二度ニ昇リ諺言ヲ放テ同時ニ不眠不安ニ陥リ舌ハ乾燥シテ裂傷ヲ呈シ兩便失禁シ尿ハ其量僅微ニシテ
紅色ヲ帶ヒ遂ニ死ニ歸ス

(乙)此症ニ於テハ患者卒然心機亢進ヲ起シ脈搏不整ト爲リ嘔吐ヲ發シ時トシテ吐血ヲ來シ瞳孔散大ス此際患
者非常ニ肌力ヲ數時ニシテ發熱騰語ヲ併發ス兩便閉止シ全身ニ斑點ヲ生シ次テ昏睡ニ陥リテ死ス此症ニ
於テハ腺腫ヲ目撃セズ但シ輕症ノ者ニアリテハ此流行時ニ於テモ屬々腺腫ヲ目撃シタリ診斷ハ困難ニアラ

ス腺腫ニ兼テ神経系、循環系、胆汁系ノ重症疾患ヲ發スルハ他病ニ類例ヲ見サレハナリ
豫后、ト占上腺腫ノ化膿ハ高熱ノ存スルニモセヨ佳候ト見做スコトヲ得ヘシ之ニ反シテ神經性、出血性、胆汁
性ノ症候ヲ呈スルハ必然死ニ就クヲ期スヘシ下痢モ亦佳候ノ一ニ算入シテ可ナリ
本病ノ死亡數ハ他ノ流行病ニ全シク一定ナラス流行ノ初期ニ於テハ非常ニ多ク(九十三乃至百%)末期ニ於テ
漸々減退スルコト爾餘ノ流行病ニ於ケルカ如シ故ニ之ヲ平均シテ六十乃至七十%ノ死亡數ト見做スコトキハ大
差ナカラン(ヒルシユニ八十二%ナリト云フ)

病體解剖上ノ所見ハ近時新説ヲ聞カス往年ノ剖驗ニ於テハ腦脊膜心囊、網膜、腹膜等ノ出血、脾臟腫大及軟化、
腸胃粘膜ノ出血、腸間膜腺ノ暗紅色、腎臟ヲ圍繞シタル細胞組織ノ漏血腎臟腫大、腎臟實質ノ出血等ヲ目撃
セリ又淋巴腺ハ腺衝ヲ呈シ或ハ全身ノ腺ヲ侵スモノアリ或ハ然ラサルアリ通例腺ハ多少腫大充血 且血樣液
ヲ以テ浸潤セラル

療法ハ對症療法ノ他未ダ詳ナラス或ハ室扶斯療法ノ如クナスモ可ナリ但浴ヲ避ケテ温浴ヲ施スヘシ或ハ單
ニ洗滌スルモ可ナリ其他適宜ノ滋養物ヲ給シ衝動劑ヲ處スヘシ

豫防法ハ個人ニ於テモ公衆ニ於テモ清潔法ヲ行フヲ最上トス故ニ住屋又ハ其近傍ニ汚物ヲ蓄積スヘカラス一
言ヲ以テ之ヲ蔽ハハ衛生警察ヲ厲行スルヲ最良トス其他個人ハ身心ノ過勞ヲ避ケ飲食其度ヲ過サ、ル様注意
スヘシ消毒法ハ他ノ傳染病ニ則リテ大差ナカルヘシ

●島根縣令第四十三號 明治二十七年六月十八日

一 黒死病(一名「ペスト」)患者届出其他取扱方左ノ通定ム

一 黒死病患者アルトキハ明治二十四年ニ島根縣令第二十三號傳染病取扱手續ニ從フヘシ但該病ニ於ケル消毒
法等ハ傳染病豫防規則虎列拉病發疹室扶斯病ノ例ニ依ルヘシ

二 黒死病類似ノ患者アルトキハ前項傳染病取扱手續第一條第二條ニ從フヘシ

●島根縣訓令第百十六號 明治二十七年六月十八日 島 廳 郡役所 警察署

警察分署 市役所 戶長役場
町村役場

黒死病患者ニ關スル届出方等左ノ各項ニ依リ取計フヘシ

一 黒死病又ハ黒死病類似患者ノ發生ニ關スル報告並届出等ハ特ニ神速ノ方法ヲ以取扱フヘシ

二 黒死病ノ豫防消毒法等ハ傳染病豫防規則並明治二十三年^{十二}訓令第二百四十號傳染病豫防心得虎列拉病及
發疹室扶斯病ノ例ヲ適用シ神速周密ニ施行スヘシ但隔離法ハ特ニ嚴重ニ施行スヘシ

黒死病類似患者ニ對シテモ速ニ隔離法ヲ嚴施スヘシ

三 島司郡長市長ハ豫メ本縣開業醫師組合規則第三條ニ依リ黒死病ノ症候神速届出方其他豫防消毒法等ニ關シ
協議ヲナサシムヘシ

●島根縣訓令第百二十六號 明治二十七年七月十日

島 廳 郡役所 警察署
警察分署 市役所 戶長役場
町村役場

明治二十七年^六島根縣訓令第百十六號ヲ以テ黒死病患者ニ關スル届出方等訓令及ヒタル處元來黒死病ハ其病
勢最モ劇烈隨テ其豫防法ハ一層嚴密ヲ要スヘキハ勿論ナルニ既ニ長崎入港ノ米船航海中ニ於テ一名ノ該病死
者アリタルニ就テハ何時各地ニ侵入スルヤモ難計ニ付尙ホ左項ニ依リ其設備ヲ爲シ豫防法ヲ嚴密ニ施行スヘ
シ

一 黒死病患者若シハ同病類似患者發生シタルトキハ其家屋ノ交通ヲ遮断スヘシ而シテ其患者ヲ避病院ニ移ス
カ又ハ全治スルカ又ハ死者ヲ埋火葬シタル時ヨリ起算シ尙ホ九日間之ヲ繼續スルモノトス但掛吏員ニ於テ
必要ト認ムルトキハ其家ニ在リタル者ハ他ニ隔離シテ交通ヲ絶ツヘシ

二 黒死病患者若シハ同病類似患者發生シ一家遮断ヲ以テ防遏シ能ハサルモノト認ムルトキハ傳染病豫防規則
第十五條ニ依リ其部局ノ交通遮断ヲ施行スルコトアルヘシ

●第十類 ○衛生 ○傳染病

前項ノ交通遮斷ヲ施行シタルトキハ掛吏員ハ其區域内及ヒ其近傍ノ各戸ヲ日々巡視シ勉メテ該病ノ隱蔽ヲ防シヘシ

三船舶中ニ黒死病患者若クハ同病類似患者、死者アリタルトキハ之ヲ他ニ移シタル時ヨリ起算シ其船舶ヲ九日間留置スヘシ但掛吏員於テ必要ト認ムルトキハ船客乗組人ヲ適當ノ場所ニ隔離シテ他トノ交通ヲ絶ツヘシ

常ニ船客乗組人アラサル船舶ハ掛吏員ノ充分ナル消毒ヲ施行シタルトキハ前項期限間留置ノ限ニアラス

四黒死病患者若クハ同病類似患者ハ出來得ル限リ避病院ニ入ラシムヘシ但類似症ト眞症トヲ區別シ置クヘシ

五黒死病患者若クハ同病類似患者ノ死屍ハ萬止ムヲ得サルモノ、外火葬セシムヘシ

六黒死病患者若クハ同病類似患者ニ使用シタル衣類臥具席墊其他患者ニ觸接シ病毒汚染ノ虞アリト認ムルモノコソテ熱瀉消毒ヲ爲サ、レモノハ必ス燒却セシムヘシ

●島根縣保第二十六號 明治二十八年七月二十六日 島 廳 郡役所
本年六月勅令第七十一號ヲ以テ傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及備員ニシテ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニ手當支給ノ件發布シ付テハ町村ニ於テモ之レト同様職務上傳染病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニ對シテハ可成相當ノ手當ヲ給與スヘキ旨戶長町村長ニ訓示スヘシ

●島根縣保第二十九號 明治二十八年九月十三日 島 廳 郡役所
島司郡長ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲メ現場ニ臨ミ患者又ハ病毒汚染ノ物品ニ關スル處置ヲ指揮監督シタルトキハ本年八月本縣保第二十七號訓令表式ニ依ヒ毎月取調翌月十日マテニ當廳ニ差出スヘシ

●島根縣保第二十七號 明治二十八年八月五日 島 廳 郡役所 警察署
但本年六月以降之ニ該當スル者ハ此際調表差出スヘシ

警部島廳書記郡書記巡查戶長及島廳郡役所備員ニシテ傳染病流行ノ際豫防救治ニ從事スル者ハ別紙表式ニ依リ豫防消毒勤務表ヲ調製差出サシメ他日ノ調査ニ供スル爲メ保存スヘシ
但本年六月以降之ニ該當スル者ハ此際調表セシムヘシ
右訓令ス

| 種目 | 明治何年何月 | | 何(傳染病名) | | 豫防消毒勤務表 | | 警部(又ハ)巡查 | | 某 | |
|----|--------|-------|-----------|---------|---------|---------|----------|--------|------|-----|
| | 市町村 | 發病ノトキ | 患者及離隔病室巡視 | 排泄物消毒監督 | 死者消毒監督 | 患者及患者護送 | 排泄物 | 死亡又ハ全治 | 死者火葬 | 排泄物 |
| 一次 | 市町村 | 發病ノトキ | 患者及離隔病室巡視 | 排泄物消毒監督 | 死者消毒監督 | 患者及患者護送 | 排泄物 | 死亡又ハ全治 | 死者火葬 | 排泄物 |
| 一日 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 |
| 二日 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 |
| 三日 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 |
| 四日 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 |
| 五日 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 |
| 六日 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 |
| 七日 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 |
| 八日 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 | 何度 |

第十類 衛生 傳染病

(別紙)

娼妓檢査規則

- 第一條 娼妓ハ一週日毎ニ檢査所ニ檢査証票ヲ携帶出頭シテ檢査有無ノ檢査ヲ受クヘシ
- 但檢査ノ日割ハ豫メ驅檢院ヨリ告示スヘシ
- 第二條 娼妓營業免許ノ鑑札ヲ受ケタル者ハ當日所轄檢査所ニ出頭シ檢査ヲ受クヘシ
- 第三條 檢査定日自己ノ疾病コテ出頭シ難キトキハ貸席取締運署ノ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ檢査時限前檢査所ニ届出ツヘシ此場合ニ於テハ醫師往檢スルモノトス
- 第四條 檢査定日ヲ超テテ免許地外ニ宿泊セントスルトキ並ニ歸席(失踪)ノ届出タルトキハ當日所轄檢査所ニ出頭シ檢査ヲ受クヘシ
- 第五條 廢業セントスルトキハ驅檢院又ハ所轄檢査所ニ出頭シ檢査ヲ受クヘシ
- 第六條 檢査定日外ト雖トモ檢査ニ感染シテ自覺スルトキハ臨時檢査ヲ受クヘシ
- 第七條 檢査當日ニハ警察官吏取締トシテ立會フヘシ
- 第八條 檢査スルニ當テハ付添婦ヲシテ立會ハシムヘシ
- 第九條 檢査ノ上檢査アリト認ムル者ハ松江ハ驅檢院ニ入院セシメ其他ハ當分自宅加養ヲ許ス
- 但自宅加養ノ者ト雖モ檢査所ニ出頭シ治療ヲ受クルモノトス其病症ニ因リ檢査所ニ出頭シ難キ者ハ自宅ニ就キ治療スヘシ
- 第十條 入院中ノ藥品及治療用品ハ院費ヲ以テ支給スヘシ
- 第十一條 癩毒全治ノ上ハ驅檢院醫員ヨリ全治証ヲ受ケ貸席取締運署ノ上所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ
- 第十二條 檢査所ハ免許地毎ニ一ヶ所ヲ設置セシムル者トス
- 但便宜ニ依リ甲乙合併シテ設置スルモ妨ケナシ
- 第十三條 檢査所及檢査ニ關スル費用ハ其地貸席娼妓ニ於テ負擔スヘシ

十九年甲第
十九號令第
廿五年全第
廿六年全第
廿七年全第
廿八年全第
廿九年全第
三十號令第
三十一號令第
三十二號令第
三十三號令第
三十四號令第
三十五號令第
三十六號令第
三十七號令第

種痘

- 第十四條 貸席取締ハ檢査當日檢査所ニ出頭シ諸事不都合ナキ様取扱フヘシ
- 第十五條 娼妓轉居其他異動アルトキハ貸席取締ヨリ驅檢院又ハ檢査所ニ届出ツヘシ
- 第十六條 此規則第一條第二條第三條第四條第十一條第十五條ニ違背シタル者ハ拾圓以内ノ過料又ハ二十日以内ノ懲戒ニ處ス其上納期限換刑處分ハ貸席及娼妓營業取締規則第六章第四十五條第四十六條ニ據ル
- 縣令第百十號 明治二十一年十二月十日
- 縣令第百六十五號 娼妓檢査規則第十六條左之通更正ス
- 縣令第三十三號 明治二十二年三月三十日
- 客年六月縣令第六十五號娼妓檢査規則第十三條ヲ削除シ第十四條ヲ第十三條ニ以下順次繰上ケ第十條及第十二條ヲ左ノ通り改正ス
- 第十條 驅檢院ノ治療ヲ受クル者ハ藥價一劑金五錢以下ヲ徴收ス
- 第十二條 檢査所ハ免許地毎ニ一ヶ所ヲ設置ス
- 但便宜ニ依リ甲乙合併設置スルコトアルヘシ
- 甲第百六十九號 明治十八年十二月二十五日
- 種痘細則別紙之通相定明治十九年一月一日ヨリ施行ス此旨布達候事
- 但明治十八年ニ本縣甲第四十二號布達天然痘豫防細則ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス
- (別紙)
- 種痘細則
- 第一條 種痘ハ毎年二回三月ヨリ六月マテ定期施行スヘシ
- 第十類 ○衛生 ○種痘

第二條 種痘規則第三條ノ施行ヲ要スル時ハ其時々告示スヘシ

第三條 種痘ノ期日及ヒ場所等ハ其都度戸長之ヲ町村内ニ告知スヘシ

第四條 醫師ヨリ附與スル所ノ種痘及天然痘ノ証書ハ甲乙號書式ニ準據スヘシ

第五條 種痘規則第四條ノ届書ハ丙號式ニ準據スヘシ

第六條 戸長ハ豫テ種痘人名簿ヲ製シ置キ毎年二回種痘定期ニ先テ十六年未滿ノ種痘ヲ爲スヘキ者ヲ抜録シ漏ナク種痘ヲ勸奨スヘシ

第七條 種痘規則第三條ノ場合ニ於テハ天然痘濟ノ者及種痘規則第一條第二條ノ期限ニ據リ三種痘ヲ終ヘシ者ヲ除クノ外十六歲未滿ノ者ハ都テ種痘ヲナサシムヘシ

但種痘後二ケ年ヲ經サルモノハ之レヲ爲サハルモ妨ナシ

第八條 戸長ハ種痘規則第六條ノ届書ヲ受領シタルトキハ種痘人名簿ニ種痘濟又ハ天然痘濟ノコトヲ記入シタル上証書ハ該簿ト割印シテ本人ニ返付スヘシ

第九條 町村費ヲ以テ種痘ヲ施行シ又ハ赤貧ニシテ種痘料ヲ支辨スルコト能ハサル者ヲ救助スルコトヲ得ヘシ

第十條 醫師收入スル所ノ種痘料ハ初種一人ニ付金五錢以下再三種一人ニ付金參錢以下タルヘシ

第十一條 醫師ハ各種痘期ニ先テ痘苗ノ準備ヲナシ種痘ノ期日ヲ定メテ其門戸ニ揭示シ且開業醫組合部内ノ戸長ニ通知スヘシ

第十二條 醫師種痘ヲナスハ明治十八年四月本縣甲第七十四號布達種痘應術心得書ニ據ルヘシ且種痘ノ檢診ヲナシ其初種ニシテ不善感ナルモノ若シ病氣又ハ事故アリテ復種シ難キトキハ后日復種ヲ怠ルヘカラサルコトヲ示スヘシ

甲號書式

用紙西ノ内八ツ切

種痘證

何府何區何町何番地住

族誰長二三男女若

何 某

生年月日

左何類善感(若シハ不善感)

右者本期ニ於テ再種痘濟ニ付證明候也

三

島根縣何郡何番地住

寄留ノ者ハ本籍ノ次

寄留地ヲ記スヘシ

年月日

開業醫 何 某

乙號書式

用紙西ノ内八ツ切

天然痘證

(族籍其他甲號書式ニ據ル)

右ハ何年何月中天然痘濟ニ付證明候也

(以下甲號書式ニ據ル)

此印ハ割 戸長ハ役 役場ニ於テ 種痘人名簿 姓名ヲ押シ

印割

同前

印割

丙號書式

用紙半紙

種痘延期御届

(族籍其他甲號書式ニ據ル)

右者再種痘期節ニ相當候處別紙(診斷書)ニ
通リ此度種痘難致候ニ付此段御届仕候也

右父兄

年月日

何

某

戸長姓名宛

甲第九號

明治十九年一月二十九日

明治十八年^{十二}本縣甲第百六十九號布達種痘細則ニ左之通追加候條此旨布達候事

第十三條 未決已決監禁留ノ囚徒コシテ種痘期ニ該當スルモノハ監獄署ニ於テ種痘シ其善感不善感又ハ種痘期内ニ接種シ能ハサルノ事由若クハ天然痘濟ノ事ハ其時々本籍戸長ニ通知シ置キ種痘及天然痘濟ノ證書ハ出監ノ節直チニ本人ニ交付スヘシ此場合ニ於テハ豫テ監獄署ニ種痘人名簿ヲ製シ置キ其記入及證書ト割印等ノ手續ハ司獄官ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十四條 十六歳未満コシテ他府縣ヨリ本縣ニ入籍又ハ寄留スル者ハ其際種痘及天然痘濟ノ證書ヲ入籍又ハ寄留地ノ戸長ニ差出スヘシ戸長ハ種痘人名簿ニ記入ノ上本人ニ返付スヘシ

第十五條 前條入籍又ハ寄留ノ者コシテ會テ病氣或ハ事故アリテ種痘ヲ爲サザリシ者ハ其事由ヲ詳記シ入籍又ハ寄留地ノ戸長ニ届出ヘシ戸長ハ先方戸長ニ照會ノ上之ヲ種痘人名簿ニ記入スヘシ

甲第二十五號

明治十九年二月二十五日

明治十八年^{十二}本縣甲第百六十九號布達種痘細則第七條ヲ刪除シ第八條已下順次繰上ケ候條此旨布達候事

縣令第四十六號

明治二十年四月四日

明治十八年^{十二}甲第百六十九號布達種痘細則甲號書式(証明候也)ノ次ニ左ノ通追加ス

(臨時種痘ノ者ハ)本期ニ於テ初再ニ「トアル」ヲ「臨時」ト記入スヘシ

島根縣令第三十號

明治二十五年三月四日

明治十八年^{十二}島根縣甲第百六十九號布達種痘細則第九條左ノ通改正ス

第九條 醫師ハ相當ノ種痘料ヲ收入スルコトヲ得

島根縣令第七十七號

明治二十六年八月三十日

明治十八年^{十二}本縣甲第百六十九號布達種痘細則第十條中「且開業醫組合部内」ノ九字ヲ削除ス

乙第六號

明治十九年一月十八日

郡役所 戸長役場

第十類 衛生 種痘

明治十八年三月本縣乙第三十二號達種痘人名簿之義別紙離形之通改正候條本年初種ヲ爲スヘキ者ヨリ順次改製スヘシ

但從來ノ帳簿ニ掲載セシモノ、中本年初種ヲ爲スヘキモノヲ除クノ外ハ改製ニ及ハスト雖トモ其記入スヘキ麻々ハ都テ本文離形ニ準據スヘシ

右相違候事

| 種痘人名簿離形 | | 用紙美紙紙 | |
|------------------------------------|-------------------|--------------------------|------------|
| 種痘期年月日 | 接種年月日 | 善感 | 不善感 |
| 初種ニ當ル年月日 (何年何月何日ヨリ 何年何月何日マテ) | 種痘セシ年月日 何年何月何日 | 善感 左何類 | 不善感 右何類 |
| 再種ニ當ル年月日 同前 | 再種セシ年月日 同前 | 全 | 全 |
| 三種ニ當ル年月日 同前 | 三種セシ年月日 同前 | 全 | 全 |
| 臨時種年月日 何年何月何日 | 全 | 全 | 全 |
| 何年何月何日生 | 何年何月何日生 | 何 | 誰 |
| 何年何月何日生 | | 誰長二三男女若等 誰クハ妻子女弟等 | |
| 何年何月何日生 | | 何 誰 | |
| 何年何月何日生 | | (寄留ノ者ハ本籍ノ次ヘ 寄留地ヲ記スヘシ) | |

解釋

一初種ニ當ル年月日ハ初生ヨリ滿一ケ年マテノ年月日ヲ記入シ再種ニ當ル年月日ハ初種セシ日ヨリ滿五ケ年乃至七ケ年ノ年月日ヲ記入スヘシ三種モ亦此例ニ據ル

一初種不善感ニシテ更ニ滿一ケ年以内ニ復種セシ者ハ其年月日ヲ初種セシ年月日欄内ニ順次記入スヘシ而シテ再種ニ當ル年月日ハ最後ニ接種セシ年月日ヨリ計算スルモノトス

一種痘規則第一條第二條ノ期限ニ拘ハラズ接種セシモノハ都テ記入セサルモノトス

一臨時種痘ノ欄内ハ種痘規則第三條ニ據リ接種セシモノ、ミヲ記入スルモノトス

一再種ハ若シ不善感ニシテ屢々復種セシモノト雖モ其三種ニ當ル年月日ハ最初ニ接種セシ日ヨリ起算スヘシ

一種痘期表内ニ接種スル能ハルモノハ其事由ヲ事故欄内ニ詳記スヘシ

●訓令第二百二十二號 明治二十三年十月三日 島 廳 郡役所 市役所

戶長役場 町村役場

種痘明細表式別紙之通改定ニ戶長役場町村役場ハ毎年一月十日限リ島廳郡役所ニ差出シ島廳郡役所市役所ハ毎年一月二十日限リ進達スヘシ但本年分モ此表式ニ準據スヘシ

(用紙美紙紙)

何(郡、市、町、村)種痘明細表 (明治何年)

| 類 | 別 | | 計 |
|----|-------|-----------------------|---|
| | 滿一年マテ | 一年以上二年以上五年以上十年以上十五年以上 | |
| 初種 | 善感 | | |
| | 不善感 | | |
| 初種 | | 痘七サレモノ | |

第十類 ○衛生 (種痘)

シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者

但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 痘ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者 痘疱ノ已ニ化膿ニ傾キ者 爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者

三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者

四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者 第十三條ヲ參照スヘシ

五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日 二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆全シ ヲ以テ佳トスト雖時侯ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第

七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ其包含セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條 痘漿ヲ採ルコトハ痘疱ノ中心ヲ避ケ痘面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺セテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷シヘカラス

第十條 痘面ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルコトハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ時フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルコトハ左ノ各項ヲ以テ要點トナス

一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否

二 痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否

三 紅暈ハ常形ナルヤ否

四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否

五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ微候ヲ呈スルヤ否

六 痂皮ハ黯褐色又ハ黒色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否

第十二條 種痘善感ノ微候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅暈ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅暈ヲ生スルコト有リ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ痘ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ痘中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ痲腫シ微シク疼痛アリ痘中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋

下ニ疼痛ヲ覺ユ水脈腫起スルコト有リ

第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ疱液化濃シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液ト爲リ痘ノ中央稍々凸隆ス然レトモ其形必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收斂ヲ初メ痘ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス

爾后黯褐色又ハ黒色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初メハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂后八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ

小凹點ヲ呈ス

但ニ回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘粒小ニシテ七八日間ニ全ク経過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如シ
一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ達セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘス
ヲ紅腫ハ不整形ナリ痘粒ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ
鬆疎ナル伽皮ヲ結フベトシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレトモ其經過總テ不整形ナルヲ以テ自ラ善
感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖トモ腋下ニ疼痛ヲ覺ユ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス
二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ痘ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮膚破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ伽
皮ト爲ルヲ見ル
三 紅腫速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル
四 第八日ニ至リ數信相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ伽皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ伽皮ノ周圍ニハ廣ク赤色
ヲ呈ス
五 伽皮剝脫ノ後ニ遺セル癢痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ
後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ
第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感
染ヲ防禦スヘシ然レトモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ
第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可ラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接
種スヘシ
第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケンメ成ルヘシ清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌ス

ルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

甲第四百十號 明治十七年十月七日
本年ハ本縣甲第四百五號布達ニ因リ内科及外科開業免許ヲ受ケタル醫師ハ自今種痘術ヲ施行スルコトヲ得
本縣ヨリ下付セシ種痘術免許証ハ本月中都役所ニ差出スヘシ郡役所ハ右取給ノ十一月十日限リ進達スヘシ
右布達候事

甲第四百十五號 明治十七年十月二十三日
本月本縣甲第四百十號布達第一項外科ノ下(眼科産科)ノ四字ヲ挿入シ且該項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
本縣下開業醫師ニシテ種痘術スルモノハ其官郡役所ヲ經テ届出ヘシ
右布達候事

島根縣令第七十六號 明治二十六年八月三十日
明治十七年十月本縣甲第四百十號種痘術ニ關スル布達中第二項ニシテ云云ノ項ヲ削除ス
乙第五十二號 明治十一年四月二日 各區區長
種痘醫タル者ハ常ニ痘苗貯蓄可致置管之處近來貯苗方不注意ヨリ臨時痘苗下付之儀出願候向往々有之不都合
之事ニ候條自今痘兒ニ種痘シ又ハ毛管ニ貯苗スル等適宜取計何時モ種痘差支無之様可致注意尤春秋兩季左之
通配當可致ニ付其他臨時下苗ヲ乞フ向ハ一員金貳拾五錢ヲ以拂下候條毎年七兩兩度取纏ノ可願出此旨種痘醫
ニ可相達候事

一 痘苗配賦方因伯隱石ハ一大區一員ツ、出雲ハ一郡一員ツ、並松江七ヶ區ニ一員
島根縣訓令第六十四號 明治二十四年三月二十七日
島 郡役所 市役所
戶長役場 町村役場

種痘ニ應用スヘキ痘漿ハ極メテ純良ナルモノニアラサレハ暗ニ其病毒ヲ傳ヘ終身羸弱多病ノ源トナルニヨリ
採漿ノ際ニ於テハ最モ健全ナル種痘兒ヲ撰ミ決テ腺病性ノ者又ハ癩毒皮膚病其他帶患ノ小兒ヨリ採漿スヘカ

第十類 衛生 種痘

第十七年甲第
百四十五號
廿六年縣令
第七十六號
參照

ラス就テハ牛痘苗ハ人化痘ニ比シ性質善良極メテ安全ナルモノニ付可成牛痘苗ヲ以テ接種スヘキ様取扱フヘ

●島根縣訓令第七十三號 明治二十七年四月十六日
島 廳 郡役所 市役所
戸長役場 町村役場

明治二十四年三月島根縣訓令第六十四號ヲ以種痘ニ應用スヘキ痘漿ハ可成牛痘苗ヲ用コヘキ旨及訓令置候處近來縣下ニ於テ牛痘苗散賣ノ途ヲ開クモノ續々之レアルニ付テハ其牛痘苗ト稱スルモ或ハ時日經過ノ爲メ變敗シタルモノ或ハ價格低廉ヲ旨トシ品質不良ノモノ等之レナキヲ保シ難ク若シ其變敗不良等ノモノヲ以テ接種スルトキハ實ニ感染小善ナルノミナラス懼ルヘキ病毒ヲ傳播セシムルコトアリ就テハ牛痘苗ヲ需要スルモノハ充分注意ヲ加ヘ其品質善良コトヲ新鮮ナルヲ選フヘキ様取扱フヘ

中 毒

●甲第九十七號 明治十六年十月十二日

飲用物ノ中毒藥品ノ誤用等ニ罹ル患者ハ發病時及轉歸ノ節醫師届書ヲ請求シ 發病時ハ藥品ハ變敗シ易キ品ハアルコト届出ツヘシ尤モ醫師ノ診斷ヲ受ケサルモノハ自家届書ニ中毒品名中毒症狀ヲ記載 發病時ハ 届出轉歸ノ節發病時ヨリ治癒又ハ死亡ニ至ルマテノ時間ヲ記シ更ニ可届出發病後時間ヲ經スニテ轉歸ニ至ルモノハ發病届ニ發病後轉歸ニ至ルノ時間ヲ記入シ別ニ轉歸届ヲナスコト及ヘス

但明治十二年一月本縣甲第十八號及全十四年十月全甲第七十一號布達ハ廢止ス
右布達候事

●甲第三十四號 明治十九年三月五日

中毒患者届出方之義ニ付テハ明治十六年十月本縣甲第九十七號ヲ以テ及布達置候處右ノ内醫師ノ診斷ヲ受ケスニテ死亡シタルモノハ自家ノ届書ニ醫師ノ檢按書ヲ添ヘテ可差出此旨布達候事
●甲第九十五號 明治十六年十月十二日

廿六年
第八十二號

中毒患者届書式左之通相定候條此旨開業醫ヘ布達候事

用紙通常郵紙

何中毒患者御届

某郡某町 幾番邸

華士族平民某父母兄弟妻子等

何 條 某 年 齡

| | |
|-----------------|---|
| 職 業 | |
| 體 質 | |
| 中毒前他病ノ有無 | 他病アルモノハ病名及病狀ノ大容ヲ記載スヘシ |
| 毒品名稱並ニ飲食セシ量 | 飲食物ハ其調烹法容器ノ品名 容器ハ鑲屬製陶器ノ別ニ動物ハ雄雌及肉骨内臟ノ別新鮮腐陳等植物ハ花葉實根皮熟否等ノ別 |
| 毒品産出地 | 藥品著色料ハ製煉地或ハ販賣人住地姓名動物ハ漁獵セ地植物ハ生産地瓦斯類ハ發生地ノ概況等 |
| 併食セシ品名並ニ量 | |
| 飲食セシ日時 | |
| 飲食セシヨリ中毒セシマテノ時間 | |
| 現 症 | |
| 治 法 | |

●第十類 ○衛生 ○中毒

(急病ニシテ直ニ轉歸ニ至ルモノハ發病ヨリ轉歸ニ至ルマデノ時間ナク此處ニ明記シ別ニ轉歸届ヲナスニ及ハス)

右御届仕候也

年 月 日
縣 令 宛
用紙全上
何中毒患者轉歸届

某郡何村幾番邸
醫師 何 條 某 印

某郡某村幾番邸

華士族平民某父母兄弟妻子等
何 條 某

右何月何日午前第何時何中毒ニ罹リ登テ御届仕置候處何月何日午前第何時死亡候ニ付此段御届仕候也

年 月 日
縣 令 宛

某郡某村幾番邸
醫師 何 條 某 印

●島根縣令第八十二號 明治二十六年九月五日

明治十六年十月本縣甲第九十五號布達中毒患者届書式中(用紙通常野紙)ノ六字ヲ削除ス

飲食物 飲料水 氷雪

●島根縣令第百十八號 明治二十五年十二月二十三日

飲食物(砂糖、餅、菓子、鮮、麵類、豆腐、表物等)ノ如ク其儘食スヘキモノヲ店舖ニ於テ販賣シ若クハ行商スルモノハ其容器ニ蓋又ハ覆ヲ設ケ蠅類及塵埃ヲ防クヘシ

明治十五年三月七日

●甲第四十號 飲水検査願手續左之通相定候條此旨布達候事

第一條

飲水検査ヲ請フモノハ第二條汲取法ニ因リ二升乃至三升ヲ汲取一個又ハ幾個ノ器物ニ容レ未記書式ニ據リ調書ヲ添取後可成速ニ縣廳ヘ願出ツヘシ

第二條

検査ヲ要スル河井水ヲ汲取ニハ先灰砂ヲ以テ丁寧其容器(硝子瓶陶製ノ類)ヲ洗滌シ藥酒ノ臭氣ナカラシメ更ニ其河水ヲ以テ清潔ニ洗ヒ之ヲ水中ニ浸入シ充分水ノ充填スルノ后テ速ニ栓塞ヲ(松ハ可成新シキ)瓶口ヲ拭ヒ直ニ封臘或ハ松脂ヲ栓上ニ塗付シ密閉スヘシ

第三條

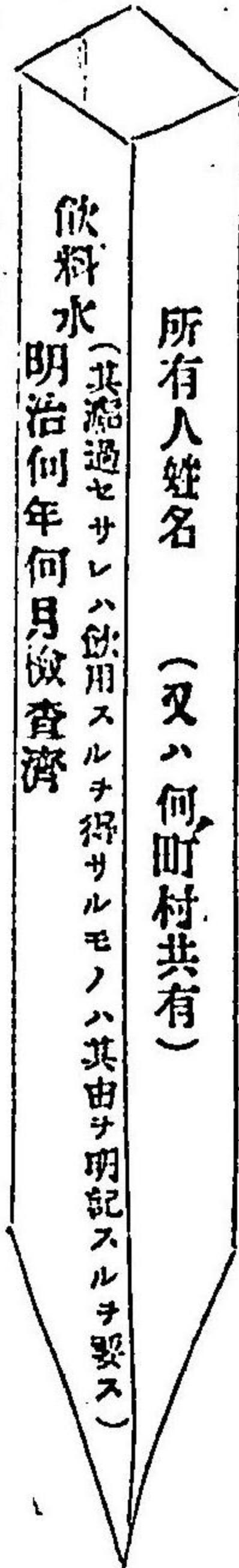
飲水検査料ハ一ヶ所ニ付料金五十錢ヲ納ムヘシ

第四條

遠隔等ノ地ニシテ第一條ノ手續ヲナスニ不便ナルトキハ其請求ニヨリ實地ニ就キ検査スルコトアルヘシ

第五條

井水河水ヲ論セス試験ヲ經テ飲料ニ適スル成績証ヲ得タルトキハ左式ニ倣ヒ目標ヲ井泉ノ邊又ハ河艇ニ建ツ



所有人姓名 (又ハ何町村共有)

飲料水 (其經過セサレハ飲用スルヲ得サルモノハ其由テ明記スルヲ要ス)

明治何年何月検査済

●第一類 ○衛生 (飲食物 飲料水 氷雪)

廿一年縣令
第七十六號
廿四年令
第三十一號

第一號式(河水ヲ飲用ニ)

飲水検査調書

- 一 位置(國郡町村名)
- 一 河名(地名等)
- 一 水源及ヒ上流ノ景況
- 一 河幅
- 一 深淺
- 一 水源ヨリノ距離
- 一 水流ノ緩急
- 一 沿河ノ地况(堤防ノ高低人家耕地墓地等ノ有無及ヒ距離樹木疎密ノ類)
- 一 全略圖
- 一 冬夏ノ温度(詳ニスルモ克ハサルモノハ其旨記載スヘシ)
- 一 第二號式(井泉水ヲ飲用ニ供スルモノ)
- 一 飲水検査調書
- 一 位置(郡町村名及地字其所在山上山下原野耕地内ノ類)
- 一 共有私有ノ別
- 一 地質ノ略
- 一 構造ノ景況
- 一 深サ(平地ヨリ水面迄幾丈幾尺)
- 一 近接地ノ景况(田圃道路墓地火葬場人家厠房等及其距離)
- 一 全略圖

- 一 冬夏ノ温度(詳ニスルモ克ハサルモノハ其旨記載スヘシ)
- 一 湧出ノ強弱
- 一 晴雨ニ關シ水量増減ノ景況
- 一 汲取人ノ多寡

●縣令第七十六號 明治二十一年七月二十八日

明治十五年三月 甲第四十號布達飲水検査願手續第三條左ノ通改正ス

第三條 自己使用ノ飲水ハ一ヶ所ニ付料金貳拾錢ヲ納ムヘシ

●鳥根縣令第三十一號 明治二十四年三月十二日

明治十五年三月 本縣甲第四十號布達飲水検査願手續第一條ノ但書ヲ削除ス

●明治十五年三月七日

水ノ濟生上ニ於ル必須無上ノ飲料ニシテ其關係ノ廣大ナル固ヨリ言ヲ俟タサルナリ故ニ之ヲ用ユルヤ最モ注
 心ヲ要シ其善良ナルモノヲ撰マスンハアル可ラス若シ之レカ如何ヲ問ハス不ノ良飲水ヲ供用スルハ於テハ不
 知不識其害ヲ將來ニ貽シ遂ニ百般ノ疾病ヲ生出スルニ至ル豈恐レサルヘケンヤ然レトモ被害ノ隱味目ハ觸レ
 サルヲ以テ意ヲ此ニ加フルモノ甚稀ナリ其井泉構造ノ如キ一般ノ風習ニシテ井側甲板ヲ用ヒス或ハ粗造下水
 ノ設ナク偶之アルモ頗ル接近スルヲ以テ溜滯ノ汚水漸々井中ニ滲入シ水質ヲ變換スルノ患害アルヲ知ラス其
 最モ甚キハ井ノ周圍ニ接近スルモノ田圃中ニアルモノアリ又河川ヲ以テ飲料ニ充ツルモノ其上流源水ノ如何
 ヲ問ハス塵芥汚泥ノ溜滯スルモ敢テ之ヲ浚成疏通スルナク況ンヤ糞尿ノ衣物ヲ洗濯シ鳥魚ノ骨腸ヲ投棄スル
 カ如キニ至テハ其患害寔ニ少小ナラサルナリ諸衛生家ノ經驗ニ因レハ傳染病ノ行ハルヤ瞬間蔓延ヲ致スモ
 ノ主トシテ不良ノ飲水之レカ媒介ヲナスト言フ其忽諸ニ付ス可ラサル所以タル如此於各各地共同私有ノ別ナ
 シ逐次飲用水ヲ查驗シ其良否ヲ畫分シ以テ人生保持ノ道ヲ計ントス然レトモ吏員ノ限リアル費途ノ大ナル亦
 一朝ニ舉行ス可カラサルニ因リ先以別紙飲水注意法飲水販賣規則飲水検査願手續ヲ施行シ之レカ改良ノ端ヲ

●第十類 ○衛生 ○飲食物 飲料水 氷雪

開キ候條諸事注意ヲ盡シ往々濟生ノ基礎相立候様可致此旨諭達候事

●明治十五年三月七日

飲料水注意法別冊之通告示候事

(別冊)

飲料水注意法

- 第一條 飲料ニ供スル井泉ハ其構造ヲ堅固ニシ井戸流シ下水ヲ設ケ汚水ノ滲透セサル様注意スヘシ且可成蓋ヲ用ユルヲヨントス
- 第二條 下水ハ時々之ヲ浚疏シ流通ヲ能クスヘシ
但從來下水ナキモノハ新設スヘシ若シ土地ノ高低或ハ人家稠密等ニヨリ之ヲ設クルニ差支ル場所ハ地形其他ノ事ヲ商量シ漸次開設スルヲ要ス尤モ此場合ニ於テハ郡役所ノ検査ヲ乞ヒ指圖ヲ受クヘシ
- 第三條 導水管ヲ以テ飲水ヲ引キ所用スルノ類ハ時々管道ヲ掃除シ汚垢ノ附着セサルヲ要スヘシ
- 第四條 井邊ニ塵埃ヲ堆積シ魚鳥ノ骨屬等ヲ放棄シ或ハ虎子オカハト汚次等ノ如キ不潔物ヲ洗滌スヘカラス
- 第五條 毎年少クモ一回井泉内ヲ浚成スヘシ
- 第六條 井戸ハ墓地厨房厩溜場ノ近傍ニ設置スヘカラス若シ他ニ適當ノ地ヲ得サルニ於テハ之ヲ去ルコト五間以上ノ地ニ設クヘシ
- 第七條 飲用水ニ供スル川河ハ時々浚疏スヘシ
- 第八條 其河中ニ鳥獸死屍塵埃等渾ヲ不潔物ヲ投棄スヘカラス
- 第九條 其沼河ノ各地ヨリ汚水ヲ混入セシムヘカラス
- 第十條 沼河堤上ノ竹木下草等猥リニ伐採スヘカラス
- 第十一條 其上流ニ於テ肥桶糞尿ノ如キ不潔物ヲ洗滌スヘカラス

●甲第六十八號

明治十七年六月十六日

飲料水貯泉製水及製水用水並ニ積雪等検査出願ノ節ハ其容器ニ産出ノ地名番號字及出願人ノ姓名ヲ記載シテ木札又ハ紙ヲ貼付シ可差出此旨布達候事

●縣令第六十六號

明治二十年六月十五日

飲用水販賣取締規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但明治十五年本縣甲第四十一號飲用水販賣規則ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

飲用水販賣取締規則

- 第一條 飲用水ヲ販賣セントスル者ハ明治十五年本縣甲第四十號布達飲用水検査願手續ニ據リ先ツ水質ノ検査ヲ受ケ其成績書寫ヲ添へ所轄警察署分署ニ出願シ免許證札ヲ受クヘシ
- 第二條 飲用水販賣人ハ營業ノ際必ラス鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第三條 飲用水ノ許可ヲ得タル者ト雖トモ井泉ヨリ汲取リタルモノニアラサレハ販賣スルヲ許サズ
- 第四條 販賣飲用水ヲ汲取ル井泉ハ毎年四回以上浚疏スヘシ
- 第五條 水槽擔桶ハ燒板ニテ構造スルカ又ハ内部ニ柿澁ヲ塗抹シ腐蝕ヲ防クヘシ
- 第六條 水槽擔桶ハ必ラス蓋ヲ設ケ塵埃ノ混入ヲ防クヘシ
- 第七條 水槽擔桶ハ日々清潔ニ掃除シ水垢ヲ附着セシムヘカラス
- 第八條 宿水及飲用上不良ノ水ヲ混和セル者ハ販賣ヲ禁ス
- 第九條 本則第一條第三條ニ違背シタル者及ヒ第四條第五條第六條第七條ニ違背シ當該官吏ノ督促ヲ受クルモ仍ホ實行セサル者ハ違警罪ニ處セラルヘシ
- 第十條 本則第八條ニ違背シタル者ハ違警罪ニ處セラレタル上營業ヲ停止若クハ禁止スルコト可シ

●縣令第二百二十號

明治二十二年十一月一日

明治二十年六月十五日縣令第六十六號飲用水販賣取締規則中第九條左ノ通更正シ第十條刪除ス

●第十類 ○衛生 ○飲食物 飲料水 氷雪

第廿二年
第百二十號
第廿五年
第百一號
照

廿六年縣令
第八十三號

第九條 本則第一條第三條第八條ヲ犯シタル者及ヒ第二條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シ當該官吏ノ督促ヲ受ケ仍ホ實行セサル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分セラルヘシ
●島根縣令第百二十一號 明治二十五年十二月二十三日
明治二十年六月縣令第六十六號飲用水販賣取締規則第一條ヘ左ノ一項ヲ加ヘ第九條中第一條ノ下ニ(第一項)ノ三字ヲ加フ
轉居改姓名又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ書換若クハ再渡ヲ乞ヒ廢業ノトキハ鑑札返納スヘシ
●縣令第八十八號 明治二十年九月二日
飲用井泉取締規則左ノ通相定ム

但在來ノ井泉ニシテ其構造及場所不適當ノ者ハ來ル二十一年五月三十一日限リ改修スヘシ
飲用井泉取締規則

第一條 飲用井泉トハ私用共用ヲ問ハズ總テ飲用ニ供スルモノヲ云フ
第二條 本則ハ左ノ市街及其連帶接續地ニ適用ス

- 松江 安來 廣瀬 木次 大東 今市 平田 杵築 掛屋
- 荒島 宍道 美保ノ關 直江 下庄原 大津 玉造 大田 大森
- 溫泉津 郷田 都野津 濱田 長濱 熱田 三隅 益田 津和野
- 下有福 西郷

第三條 井戸ハ石材煉化又ハ木材ヲ以テ構造シ罅隙アル所ヘハ(漆喰叩キ、マキハマ)ヲ填充シテ汚水ノ滲透ヲ防キ且ツ井底ニハ一尺以上小石又ハ荒砂ヲ撒布スヘシ
但地質硬土礫石ナルトキハ本文ノ限コアラズ

第四條 井戸ノ周圍ハ煉化石切石漆喰叩キ(セメント)等適宜敷詰メ汚水ヲシテ滲透セシムヘカラス
第五條 前條ノ構造法ニ倣ヒ井邊ニ下水ヲ設ケ時々之ヲ浚疏シ常ニ流通ヲ宜クスヘシ

第六條 地盤上ニハ必ラス石材木材等ヲ以テ井戸側ヲ設ケ且ツ適宜覆蓋ヲ設置スヘシ

第七條 井戸ハ毎歲一回以上浚疏スヘシ

第八條 試驗済シ井戸ハ板札ニ其成績ヲ記シテ井邊ニ揭示スヘシ

第九條 試驗成績ニ因リ濾過セザレバ飲用ニ適セザル水ハ井邊ニ水濾器ヲ備置キ且必ラス濾過シテ飲用ス可キ旨ヲ揭示スヘシ

第十條 井邊ニ於テハ不潔物ハ勿論一切洗滌ヲ許サズ若シ洗滌ヲ爲サントセハ井戸ヲ距ル一間以外ノ地ニ於テ第四條ノ構造法ニ準シ洗滌場ヲ設ケ汚水ヲシテ滲透透セシムヘカラス

第十一條 井邊ニ糞埃ヲ堆積シ魚鳥獸ノ骨腸等ヲ拋棄スヘカラス

第十二條 井戸ハ屠場ヲ距ル百二十間墓地厠房塵溜場等不潔ノ場所ヲ距ル五間以内ノ地ニ設置スヘカラス若シ他ニ適當ノ地ヲ得サルトキハ警察官ノ指揮ヲ乞フヘシ

第十三條 本則第三條第四條第五條第六條第九條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處ゼラルヘシ

●島根縣令第八十三號 明治二十六年九月九日
●縣令第八十九號 明治二十年九月二日
●縣令第八十八號飲用井泉取締規則ハ私有地内ニ在テ一已所用ノ者ニ限リ當分ニ之ヲ施行セシ

但飲用井泉ヲ新設スルモノハ本則第十二條ニ據ルヘシ
●島根縣令第四十號 明治二十四年三月十三日
●縣令第八十八號飲用井泉取締規則ヲ定メ明治十七年六月本縣甲第五十八號布達製氷積雪販賣取締規則ヲ廢ス

製氷水雪販賣取締規則ヲ定メ明治十七年六月本縣甲第五十八號布達製氷積雪販賣取締規則ヲ廢ス

●第十類 ◎衛生 ○飲食物 飲料水 氷雪

廿五年縣令
十七號參照

第一條 本則ニ於テ製氷ト稱スルハ器械及藥品ヲ以テ製造シタル氷ヲ云ヒ氷雪トハ天然ノ凍氷又ハ積雪ヲ云フ

第二條 飲食用ニ供スル製氷又ハ氷雪ヲ販賣スル爲メ貯藏セントスルモノハ製造又ハ貯藏前第四條ニ關スル調査現場ノ模様ヲ詳細ニシタル圖面及製氷用水二分又ハ氷雪凡ソ二貫目ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出検査ヲ受ケヘシ

但水雪ハ検査ヲ受ケル猶豫ナキ場合ニ限リ貯藏ノ後本條ノ手續ヲ爲スモ妨ケナシ

第三條 前條ノ製氷用水ヲ採酌シ又ハ氷雪ヲ採出スルトキハ島廳又ハ郡市役所吏員ノ監督ヲ請ヒ其容器ニ封印ヲ受ケヘシ

但用水ノ容器ニハ磁燵又ハ硝子燵水雪ノ容器ニハ箱又ハ桶ヲ用ユヘシ

第四條 飲食用ニ供スル製氷又ハ氷雪ヲ製造採出シ及之ヲ貯藏スルハ左ノ各項ニ觸レサルモノニ限ル

一製氷用水ノ水源又ハ製造場及凍氷ノ所在地ハ人家、肥料貯藏場、魚鳥獸飼畜場、屠畜場埋火葬場、傳染病者排泄物汚穢物並ニ獸畜死屍埋沒場燒棄場解体場ヲ距ルコト凡百二十間以上ニシテ亦溜溝渠等ニ隔絶シ汚穢物混入ノ虞ナキモノ

二藥品ヲ以テ製造スルモノハ其藥質ヲ製氷ニ含有セシムルノ虞ナキモノ

三貯藏場ハ倉庫家屋若クハ密穴コテ汚穢物混入ノ虞ナキモノ

四積雪ハ人家ヲ隔ツル凡一里以上ノ山林原野又ハ高山ニ在ルモノニシテ第一項飼畜場以下ニ觸レサルモノ

第五條 検査ヲ經テ製造又ハ貯藏シタル製氷水雪ヲ販賣セントスルトキハ第三條ノ手續ニ依リ現品凡貳貫目ニ試験成績書寫ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出検査ヲ受ケヘシ

但患者ノ外用ニ供スル爲メ販賣スルモノニ限リ本條ノ手續ヲ要セス

第六條 夏季(六月ヨリ十月マデ)ニ於テ飲食用ニ供スル製氷水雪ヲ製造又ハ採出シテ販賣セントスルモノハ第二條第三條ノ手續ニ依リ縣廳ニ願出検査ヲ受ケヘシ

第七條 飲食用ニ供スル製氷又ハ氷雪ヲ他管下ヨリ運輸シテ販賣セントスルモノハ現品凡二貫目ヲ添ヘ縣廳ニ願出検査ヲ受ケヘシ

但既ニ試験ヲ經テ販賣ノ許可ヲ得タル者ナルトキハ其試験成績書寫並ニ當該官廳ノ指令書寫ヲ添フヘシ

第八條 飲食用ニ供スル製氷水雪ヲ販賣スルトキハ居商行商ヲ問ハズ左ノ様式ニ準シ標札ヲ懸テ販賣許可ノ指令書寫ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ニ差出シ検査ヲ受ケ販賣所又ハ行商具ニ揭示スヘシ

但標札ハ其年十一月限リ島廳又ハ郡市役所ニ差出シ消印ヲ受ケヘシ

島廳又ハ郡市役所ニテ記入スヘシ

寸法適宜

| | | |
|------------|--------------|-----|
| 番 號 | 何府縣何郡市町村大字何々 | 住 所 |
| 製造場(氷雪所在地) | | |
| 製氷又ハ氷雪 | 製造人又ハ販賣人 | 姓 名 |
| | 住 所 | |
| 年 月 日 | 行 商 人 | 姓 名 |
| 島廳又ハ郡市役所烙印 | | |

第九條 飲食用ニ供スル製氷水雪ヲ運搬若クハ販賣スルトキハ清潔ナル器ニ容レ汚穢物ノ混入セサル様蓋又覆ヲ爲スヘシ

第十類 ○衛生 ○飲食物 飲料水 氷雪

第十條 製氷水雪製造又ハ販賣中當該官吏ニ於テ飲食用ニ供ス可カラスト認ムルモノアルトキハ其製造貯藏

若クハ販賣ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 患者ノ外用ニ供スル製氷又ハ水雪ハ前條ノ規定ニ拘ハラズ製造又ハ貯藏スルコトヲ得

前項ノ製氷水雪ハ其年十一月ヨリ翌年五月マテノ間ニ於テサレハ販賣スルコトヲ得ス

第十二條 前條ノ製氷水雪ヲ貯藏セントスルトキハ島廳又ハ郡市役所ニ届出其貯藏ヲ了リタル際貯藏場ニ封

印ヲ受ケ販賣スルトキハ其開封ヲ請フヘシ

但滿期ノ際殘品アルトキハ更ニ封印ヲ受ケ若シ殘品ヲ棄却スルトキハ臨檢ヲ請フヘシ

第十三條 第十條ニ依リ停止セラレタル製氷又ハ水雪ヲ患者ノ外用ニ供スル爲メ貯藏販賣スルハ妨ゲナシ此

場合ニ於テハ第十一條第十二條ニ從フヘシ

第十四條 第二條第五條第六條第七條第十一條第十二條第十三條ヲ犯シタルモノ及第十條ニ依リ停止

セラレタル製氷水雪ヲ飲食用ニ供スル爲メ販賣シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

製氷積雪販賣取締規則ニ依リ檢査ヲ經テ貯藏シタル製氷水雪ハ尙ホ其効ヲ有ス

島根縣令第百十七號 明治二十五年十二月二十三日

明治二十四年三月 島根縣令第四十號製氷積雪販賣取締規則第七條左ノ通改正シ第八條標札書式中又ハノ下(氷

雪)ヲ(凍氷積雪)ト改ム

第七條 飲食用ニ供スル製氷又ハ凍氷ヲ他管下ヨリ運輸シテ販賣セントスルモノハ當該管廳ノ試驗成績書寫

並ニ販賣許可ノ證明書ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

其試驗未済ノ分及積雪ノ現品凡ソ二貫目ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出檢査ヲ受クヘシ

鑛泉

甲第七十三號 明治十六年七月三十一日

鑛泉取締規則

(別紙)

鑛泉取締規則

第一條 鑛泉ヲ以テ浴場ヲ開設シ若クハ之ヲ採酌シテ發賣セントスルモノハ先ツ泉質ノ試驗ヲ受ケ而後更ニ

開場檢査法ヲ詳記シ又ハ發賣願ヲ差出スヘシ

但試驗已済ノ分ハ別ニ試驗ヲ乞フニ及ハス

第二條 鑛泉ノ試驗ヲ乞ントスルモノハ末記ニ據リ泉原ニ於テ貳升ヲ採酌シ沈澱物アルモノハ

但一泉ニ付試驗料金五拾錢ヲ納ムヘシ

第三條 浴室ニハ縣廳ヨリ下付ノ試驗成績書及醫治功用寫ヲ揭示スヘシ

第四條 浴室ニハ左リ入浴者心得書ヲ揭示スヘシ

一 鑛泉入浴者ハ各自其病症ニ就キ適宜ノ療養ヲ加ヘ入浴或ハ服用スヘシ總テ鑛泉ハ醫療ノ力ヲ補助スルモ

ノト心得ヘシ

一 浴敷ハ老幼者一日一回少壯者一日三回毎回二十分時ヲ率トナスヘシ尤モ入浴時刻ハ朝夕ヲ宜トス

一 内服スルモノハ泉原ニ於テ採酌シ其量ハ病症ニ因テ差異アリト雖モ大抵一日一盞ニテヨリ五六盞ヲ率トシ

シテ酌酌スヘシ而シテ朝夕兩度空心ニ服スルヲ法トス其温華氏ハ十五六度ヲ過クヘカラス若シ一回二三盞

ヲ服セントスルハ先ツ一盞ヲ傾ケ後少許ノ運動ヲナシ再ヒ一盞ヲ盞シ又運動シテ後盞ヲ舉クヘシ

一 服後ハ朝夕共三十分時間ヲ經サレハ食餌スヘカラス

一 過食過飲過劇ノ運動等凡テ身心疲勞ヲ來ス所爲ヲ慎ム可シ

第五條 浴場温度ハ常ニ華氏百度ヲ超過セシムヘカラス

但熱度之ヨリ過シルモ決シテ常水ヲ混スヘカラス宜ク放冷シテ適度ニ至ラシムヘシ

第十類 衛生 鑛泉

五三七

十七年甲第
十八年公第
十九年公第
二十年公第
二十一年公第
二十二年公第
二十三年公第
二十五年公第
二十七年公第
二十八年公第
二十九年公第
三十年公第

第六條 浴室ニハ堅固ナル放水樋ヲ設ケ浴湯ノ地上ニ溢出スルヲ防クヘシ
 第七條 浴室ニハ別ニ湯桶及清水ヲ盈シタル水桶ヲ備置瀝皿口嗽ノ用ニ供スヘシ
 第八條 浴室及客室便所共時々清潔ニ掃除シ不潔ナカラシムルヲ要ス
 第九條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ニ處セラルヘシ

探酌法

先ツ灰砂ヲ以テ丁竅ニ其容器ヲ洗淨シ藥酒等ノ臭氣ナカラシメ更ニ其鑛泉ヲ以テ洗淨ニ洗ヒ之ヲ泉中ニ没入シ充分泉水ヲ充填スルノ後泉中ニテ新シキ「キニル」ヲ以テ栓塞シテ之ヲ出シ瓶口ヲ拭ヒ直ニ封臘或ハ松脂ヲ以テ栓上ヲ密閉スヘシ
 但容器ハ硝子又ハ磁製ノ瓶ヲ用フヘシ

調書

第一 發見ノ年月

第二 溫度(泉源ニ就テ之ヲ檢スヘシ若シ詳ニスル能ハサレハ其旨ヲ記載スヘシ)

第三 地況及地名(山上山麓或ハ田野等)ノ如キ泉原ノ概況土質ヲ記載スヘシ)

第四 湧出ノ強弱及氣泡發生ノ有無(定時發生スルモノハ其時刻ヲ記載スヘシ)

●甲第六十號 明治十七年六月五日

明治十六年本縣甲第七十三號布達鑛泉取締規則中左ノ通追加候條此旨布達候事

第一條但舊ノ次ヘ左ノ一項ヲ加フ

發賣許可ヲ得タル鑛泉ヲ販賣スルトキハ卸小賣ヲ問ハス左ノ雛形ニ準シ看板ヲ造リ前ニ發賣許可ヲ得タル願書及指令ノ寫ヲ添ヘ郡役所ニ差出シ記番檢印ヲ受ケ其本支店若クハ行商具ニ掲付スヘシ

看板雛形

郡役所ニテ記入ス

| | |
|------|--------------|
| (番號) | 何縣何郡何村何番地字何々 |
| 住所 | |
| 發賣人 | 姓名 |
| 住所 | |
| 鑛泉 | |
| 年月日 | 受賣人又ハ行商人 姓名 |

郡役所烙印

寸法適宜

第八條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加ヘ原第九條ヲ第十條ト改ム

第九條 他府縣下ノ鑛泉ヲ探酌シテ浴場ヲ設ケ若クハ之ヲ發賣セントスルモノハ都テ本規則ニ從フヘシ

●甲第五十二號 明治十八年三月九日

明治十六年本縣甲第七十三號布達鑛泉取締規則第九條中(浴場ヲ設ケ若クハ)ノ八字ヲ削除候條此旨布達候事

●縣令第三十八號 明治二十年三月二十五日

明治十六年甲第七十三號布達鑛泉取締規則第一條看板雛形ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
鑛泉浴場若クハ販賣ヲ廢業スルトキハ其旨届出ツヘシ

●縣令第七十七號 明治二十一年七月二十八日

●第十類 ○衛生 ○鑛泉

明治十六年甲第七十三號布達鐵泉取締規則第二條ノ但書全十七年甲第五十八號布達製氷積雪販賣取締規則第十條ヲ削除ス

●縣令第六十五號 明治二十二年六月十日

明治十六年七月三十一日甲第七十三號布達鐵泉取締規則中第十條左ノ通更正ス
第十條 第一條第三條ヲ犯シタル者ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

牛乳

●島根縣令第九十二號 明治二十六年十月二日
牛乳營業取締規則左ノ通定ム
但明治十八年三月本縣甲第六十五號布達牛乳搾取及販賣取締規則ヲ廢ス

牛乳營業取締規則

- 第一條 本則ニ於テ牛乳營業ト稱スルハ左ノ營業ヲ爲スモノヲ云フ
 - 一 牛乳ヲ搾取販賣スル者
 - 二 牛乳ヲ請賣スル者
 - 三 牛酪干酪粉乳濃乳ノ類ヲ製造販賣スル者
- 第二條 牛乳搾取所ハ人家稠密ノ地外ニシテ人家ヲ距ルコト五間以上飲用水ニ障害ナキ地ニ非カレハ建設スルヲ許サズ但土地ノ情況ニ依リ特ニ認可スルコトアルヘシ
- 第三條 牛乳ヲ搾取販賣セントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ(借地アレハ)所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受ケルヘシ搾取所ヲ改修増設シ若クハ移轉シ又ハ讓受ケントスルモ亦全シ但讓受ニ係ルモノハ各項ノ事項改修増設移轉ニ係ルモノハ第一項ノ事項ヲ記載スルヲ要セス
 - 一 乳牛種牛種牛ノ種別及頭數
 - 二 搾取所ノ圖面並構造仕樣書

三 落成期日

第四條 搾取所ノ構造ハ左項ニ從フヘシ
但人家隔絶ノ地ニ在テハ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ第五項以下不滲透質ノ材料ヲ木材等ニ換用スルコトヲ得

- 一 搾取所ノ周圍ハ適宜圍ヲ爲シ運動場ノ周圍ハ駒止柵ヲ設ケヘシ
 - 二 牛舎ハ空氣ノ疏通ヲ自在ナラシムル爲メ屋棟ニハ穢氣抜ヲ設ケ周壁ニハ土壘上七八寸ノ所ニ氣孔ヲ穿ツヘシ但無窓等ヲ設ケテ氣孔ニ換ユルモ妨ケナシ
 - 三 牛室ハ一頭毎ニ幅五尺以上奥行八尺以上ノ區域ヲ爲シ不滲透質ノ材料(石、煉化石、コンクリート)ヲ以テ地盤ヲ敷設シ尙ホ厚板ヲ張リ適宜ノ勾配ヲ付スヘシ
 - 四 牛舎及運動場ハ適宜排水ノ構造ヲ爲スヘシ
 - 五 尿樋ハ鐵管若クハ釉藥ヲ燒付ケタル土管又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ舍外ニ尿水ノ流出スル樣構造スヘシ
 - 六 尿溜ハ内外ニ釉藥ヲ燒付タル甃又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ舍外三尺以上ノ地ニ設ケ適當ノ雨除ヲ付シ其周圍ハ地盤ヨリ高サ三寸以上ニ爲シ雨水ノ流入ヲ防クヘシ
 - 七 糞及不潔物置場ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ牛舎ヲ距ル三尺以上ノ地ニ設ケ雨水ノ浸入ヲ防ク裝置ヲ爲スヘシ
- 第五條 第三條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出検査ヲ受ケヘシ但検査以前ニ在テハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第六條 轉居改氏名又ハ搾取所ヲ廢シタルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第七條 牛乳搾取販賣者ニシテ搾取所外ニ販賣店ヲ設クルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

●第十類 ○衛生 ○牛乳

牛乳ヲ請買セントスル者ハ前項ノ例ニ依ルヘシ其支店ヲ設クルトキ亦全ク
牛乳ヲ買受ケテ牛酪干酪粉乳濃乳ノ類ヲ製造販賣セントスル者亦同シ

第八條 前條ノ營業者ニシテ轉居改氏名又ハ移店廢業シタルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
但該届書ハ駐在巡查ヲ經テ差出スコトヲ得

第九條 牛舎及運動場ハ日々掃除ヲ爲シ糞尿ニ浸染シタル葎藪ヲ使用スヘカラス
第十條 不潔物及糞尿溜ハ充溢セサル様時々掃除ヲ爲スヘシ

第十一條 搾取所ハ乳牛並乳牛用ニ充ツヘキ種牛牝牛ノ外飼養スヘカラス
第十二條 牛乳搾取ニ使用スル乳牛種牛牝牛ハ獸醫ヲシテ診察セシメ健全ノ証明ヲ得タルモノニ限ル

第十三條 搾取所ニハ乳牛種牛牝牛ノ年齢毛色及産地ヲ記載シタル牛籍簿ヲ備ヒ置クヘシ但牛籍簿ハ新調シ
タルトキ所轄警察署又ハ分署ノ検印ヲ受クヘシ
畜牛ニ異動アリタルトキハ牛籍簿ヲ加除更正スヘシ

第十四條 畜牛ニ異動アリタルトキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ但舊牛ノ届書ニハ獸醫ノ診
斷書ヲ付スヘシ

第十五條 畜牛病ニ罹リタルトキハ搾乳賣乳ヲ中止シ速ニ獸醫ノ診察ヲ受ケ其判定ヲ待ツヘシ若シ乳汁有害
ナルトキハ其診斷書ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ但其乳汁ハ販賣贈與スルコトヲ得ス

第十六條 衛生官吏警察官吏ハ臨時ニ乳牛ノ體質及乳汁ヲ検査スルコトアルヘシ但其乳汁不良ト認ムルトキ
ハ販賣贈與スルコトヲ得ス

第十七條 第十五條ノ病牛及第十六條ニ於テ乳汁不良ト認メタル乳牛ハ之ヲ他ニ移轉スヘシ

第十八條 乳牛ハ日々清潔ニ梳洗シ且適當ノ運動ヲ爲シムヘシ

第十九條 牛乳搾取ノ際ハ乳牛ノ乳房搾取者ノ身体衣服並乳汁ノ容器等ヲ清潔ニ爲シ乳汁ニ汚物ノ混入セサ
ル様注意スヘシ

第二十條 傳染性諸病ノ疑アル者並皮膚病アル者ヲシテ乳汁ヲ搾取セシムヘカラス

第二十一條 乳汁及製乳ノ容器ハ鐵製磁製硝子製ブリキ製ノ外使用スヘカラス
前項ノ容器ハ使用ノ都度熱湯ヲ以テ洗滌スヘシ但配達用ノ容器ハ使用ノ都度水ヲ以テ煮沸スルヲ要ス

第二十二條 牛乳ノ貯藏ハ究テ清潔ナル場所ニ於テシテ居室又ハ寢室ヲ避クヘシ

第二十三條 乳牛分娩後一週間ヲ經過スルニ非レハ其乳汁ヲ販賣贈與スルコトヲ得ス

第二十四條 他物ヲ混和シタル乳汁及左ノ程度ニ適合セサル乳汁ハ販賣スルヲ得ス
一 純 乳 強酸性ノ反應ナク其比重ハ攝氏十五度ニ於テ一〇二八乃至一〇三〇脂肪量ハマルシヤン
下氏檢計ヲ用ヒテ八立方センチメートル以上ノ依的兒性脂肪ヲ抽出セサルヘカラス

第二十五條 脱脂乳ヲ純乳ト稱シ販賣スヘカラス
但脱脂乳ハ其容器ニ脱脂乳ト明記スヘシ

第二十六條 牛乳配達人ニハ左ノ標札ヲ携帯セシムヘシ

| | | | |
|---|------------|------|------|
| 表 | 牛乳配達人 | 營業者ノ | 住所氏名 |
| | 豎三寸 横二寸 | | |

第二十七條 牛乳搾取販賣者ハ前年分ノ搾乳販賣及製乳(牛酪干酪粉)高ヲ翌年一月二十日迄ニ島廳郡役所市
役所ニ届出ヘシ

第二十八條 第三條第五條第七條第十一條第十三條第十四條第十五條第十六條但舊第十七條第二十一條第一
項第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分セラ
ルヘシ

附則

第十類 ○衛生 ○牛乳

從前認可ヲ得タル營業者ハ採取所ノ位置構造此規則ニ抵觸スルモ明治二十七年十二月三十一日迄其營業
 スルコトヲ得且從前使用ノ容器ハ第二十一條第一項ニ觸ル、モ同年六月二十日迄ハ之ヲ使用スルコトヲ得
 ● 郡乙第百三號 明治十六年十一月二日 郡役所
 牛乳採取所及營業人員等別紙雛形ニ倣ヒ明治十五年分ヨリ取調毎年一月中進達可致此旨相違候事
 但明治十五年分ハ本月十五日限進達スヘシ

明治何年 何郡役所

| 牛乳採取所 | 營業人員 | 一ヶ年入牛ノ數 | 平均年齡 | 在底平均日數 | 一ヶ年牛乳搾取高 | 一ヶ年賣捌高 |
|-------|------|---------|------|--------|----------|--------|
| 何郡何町 | | | | | | |
| 何郡何村 | | | | | | |
| 合計 | | | | | | |

解釋

一 平均年齡ハ入牛惣數ノ年齡ヲ每一頭積算シ之レヲ入牛惣數ニ割其一頭ノ平均年齡ヲ掲クルモノトス
 一 在底平均日數ハ入牛每一頭ノ日數ヲ積算シ之レヲ入牛ノ惣數ニ割其一頭ニ付テノ日數ヲ示ス

屠畜 屠肉販賣

● 縣令第九十三號 明治二十二年六月二十六日

屠畜取締規則別紙ノ通相定メ明治十九年^{十二}縣令第五十二號屠牛取締規則ヲ廢ス
 (別紙)

屠畜取締規則

廿四年縣令
 第八號
 第四號
 廿五年縣令
 百八號
 參照

- 第一條 此規則ニ稱スル畜類ハ牛馬羊豚ノ類ヲ云フ
- 第二條 屠畜場ハ人家道路河川井泉ヲ隔ツルコト二町以外ノ地ニ非レハ建設スルヲ許サス最モ地勢ヨリ特許スルコトアルヘシ
 但屠畜營業上必要ノ家屋ハ場外五間以外ノ地ニ建設スルコトヲ得
- 第三條 屠畜場ヲ建設セントスルモノハ第二條第七條ニ掲グル地所建物及年數ヲ詳記セル圖面並接近地主ノ承認書ヲ添ヘ借地ナレハ地主連署所轄警察署ニ出願スヘシ廢場及場主轉住改姓名賣買讓渡セントキハ全上ノ手續ヨリ出願又ハ届出ヘシ
 屠畜營業ヲナサントスルモノ又ハ屠手ヲラントスル者ハ場主連署ニ所轄警察署ニ出願シ廢業セントキハ全上ノ手續ヨリ届出ヘシ
- 第四條 屠畜場取締ニ關シ必要ト認ムルトキハ特ニ屠畜場聯合區域ヲ設クルコトアルヘシ
- 第五條 屠畜場建設ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケサレハ開場スルヲ許サス
- 第六條 屠畜營業者及屠手者轉住改姓名セントキハ其旨警察署ニ届出ヘシ
- 第七條 屠畜場ハ左項ニ從ヒ血液其他汚穢物ノ滲透流散セサル様構造スヘシ
 一 外圍ニハ適宜ノ垣柵ヲ設ケ畜類ノ逸走及外見ヲ防キ四方ニハ標木ヲ建テ其區域ヲ劃ルヘシ
 二 屠場ノ周圍ハ石造又ハ板張ニシテ地盤ハ切石ヲ敷キ尚汚水ヲ流通ス可キ石樋ヲ設ケ汚水地ニ導クヘシ
 三 汚水地ハ石造又ハ垂テ用ヒ屠場ヲ距ルコト十五間以外ニ設クヘシ
- 第八條 屠畜場内外ハ清潔ニ掃除シ皮膚肉ハ場所ヲ定メテ之ヲ置キ骨腸臟腑ノ類ハ直ニ屠畜場外第二條ニ適スル一定ノ地ニ埋却スヘシ
 但肥料ノ爲メ一時貯藏スルトキハ屠畜場ヲ距ル十五間以上一定ノ場所ニ設ケ堅牢ナル桶又ハ溜壺ニ密閉スヘシ
- 第九條 屠畜場ハ臨檢警察官吏ノ許可ヲ得レハ開閉スルヲ得ス

● 第十類 ○ 衛生 (屠畜 屠肉販賣)

但閉鎖ノ節ハ臨檢警察官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第十條 畜類ヲ屠殺セントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出警察官吏並獸醫ノ臨檢ヲ受ケ屠殺解体スヘシ

第十一條 屠殺スヘキ畜類ハ身元不分明ノ者ヨリ買取ルヘカラス

但其人ヲ知り得タル者二人以上ノ保証アル時ハ此限ニアラス

第十二條 屠殺法ハ左項ニ據ルヘシ

一 撲殺器ニテ倒シ充分放血セシムヘシ

二 臟腑蹄皮ヲ除キ高ク釣揚ケ屠體ヲ鋸割シ其鋸割シタルモノヲ中央ヨリ横斷シテ四個トナスヘシ

但羊豚類ハ此限リニアラス

三 筋肉ノ表邊血液ヲ落キタル部内ハ勿論其他ト雖モ清潔ナル布片ヲ以テ拭フヘシ

第十三條 畜類ヲ屠殺シタル時ハ其年月日屠畜ノ種類頭數及年齡肉量(骨付)ヲ屠畜簿ニ記載シ臨檢警察官吏ノ檢印ヲ受クヘシ

第十四條 左ニ掲クルモノハ食料トシテ屠殺スルヲ許サス

一 老羸シタル畜類

但獸醫ニ於テ食用ニ適スルモノト認ムルトキハ特ニ許スコトアルヘシ

一 瘦瘠及疾病アル畜類

三 獸類傳染病流行地ヨリ來リタル畜類

但四週日後獸醫ノ檢按ヲ經テ無病ナルヲ徵セハ屠殺ヲ許スヘシ

第十五條 屠肉ニハ臨檢警察官吏ヨリ檢査烙印ヲ受クヘシ

第十六條 屠肉ハ卸賣人ノ外他ニ賣渡スコトヲ許サス

第十七條 屠畜營業者ハ左項ヲ禁ス

一 屠畜免許證ヲ有セサル者ニ屠殺セシムルコト

二 屠畜場内ニ於テ他獸及斃畜類ヲ屠殺解体シ又ハ場外ニ於テ屠殺解体セシ他獸及斃畜類ノ肉類ヲ場内ニ入ルコト

三 屠畜場内ニ疾病アル獸畜類ヲ牽入レ又ハ之ヲ畜養スルコト

第十八條 營業者コアラサルモ食料ニ供スル爲メ畜類ヲ屠殺スルモノハ屠畜場ニ於テナスヘシ

第十九條 警察官吏及衛生官吏ハ臨檢屠畜場ニ至リ檢査スルコトアルヘシ場主營業者ハ之ヲ拒ムヲ得ス

第二十條 本則第三條第五條第八條第九條第十條第十一條第十四條第三項第十六條第十七條第十八條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分セラルヘシ

●鳥根縣令第八號 明治二十四年一月二十六日

明治二十二年六月縣令第九十三號屠畜取締規則中左ノ通更正ス

第三條 屠畜場ヲ建設セントスルモノハ第二條第七條ニ掲クル地所建物及坪數ヲ詳記セル圖面並接近地主ノ承諾書ヲ添ヘ借地ナレハ地主運署所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ買受ケ又ハ讓受ケタルモノハ前場主運署届出ヘシ

屠畜營業ヲナサントスルモノ又ハ屠手ヲラントスル者ハ場主運署所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第六條 屠畜場ノ廢シ又ハ場主轉住改姓名ノトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ屠畜營業者及屠手廢業又ハ轉住改姓名ノトキ亦全シ

第十七條 一項中免許ヲ認可トス

第十八條 (左項ヲ加フ)

前項ノ場合ニ於テ屠畜營業者ハ屠殺ニ要スル費用トシテ一頭ニ付金五拾錢以内ヲ請求スルコトヲ得

第二十條中第十八條ノ下ニ第一項ノ三字ヲ加フ

●第十類 ○衛生 ○屠畜 屠肉販賣

●島根縣令第四十四號 明治二十四年三月十三日
明治二十二年六月縣令第九十三號屠畜取締規則第四條削除ス

●島根縣令第八號 明治二十五年十一月十四日
明治二十二年六月縣令第九十三號屠畜取締規則第六條第一項届出ヘシノ下ニ左ノ十七字ヲ加フ

但該届書ハ駐在巡查ニ差出スコトヲ得

●縣令第五十三號 明治十九年十二月十日

牛肉販賣取締規則別紙之通改正ス

(別紙)

牛肉販賣取締規則

第一條 牛肉生肉販賣シ又ハ之ヲ行商セントスル者ハ戶長ノ與書ヲ受ケ所轄警察署ニ出願シ免許鑑札ヲ受クヘシ

但廢業スルトキハ本文ノ手續ヨリ鑑札ヲ返納シ改姓名轉居又ハ鑑札ヲ遺失シタルトキハ全手續ヨリ其旨届出鑑札替換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第二條 卸賣人ハ検査済ノ烙印ナキ牛肉ハ販賣スルヲ許サス

第三條 卸賣人ハ卸賣帳簿ヲ製シ受賣人ニ賣渡スノ際受賣人ノ住居姓名年月日及肉ノ斤量肉質(上)(中)(下)ヲ記載シ受賣人ノ受賣帳簿ニモ全様ニ明記シ卸賣人ノ割印ヲナスヘシ

第四條 卸賣人ハ賣肉一塊毎ニ左ノ証印ヲ貼付シ割印ヲナシ尙受賣帳簿ト証印紙ト割印スヘシ

但証印紙ノ見本ハ本縣第二部及所轄警察署ニ届出ツヘシ

廿二年縣令第六十七號
廿四年公第廿六號
廿五年公第廿七號
廿六年公第廿八號
廿七年公第廿九號
廿八年公第三十號
廿九年公第三十一號
卅年公第三十二號
卅一年公第三十三號
卅二年公第三十四號
卅三年公第三十五號
卅四年公第三十六號
卅五年公第三十七號
卅六年公第三十八號
卅七年公第三十九號
卅八年公第四十號
卅九年公第四十一號
卅四年公第百六號

用薄紙キ

明治何年何月 日

(上)(中)(下)(花)(杜)

割印

郡何町村

肉ニシテ
肉ト割印
スヘシ

卸賣人

何ノ 誰

此割印ハ貼付前コナス可シ

受賣帳簿割印ハ朱肉ヲ用ユ

第五條 行商人ハ行商鑑札及第三條ノ帳簿ヲ携帯スヘシ

第六條 受賣人ハ許可ヲ得タル卸賣人ヨリ買受ケタルモノコアラサレハ販賣ヲナスコトヲ得ス

但受賣人ハ卸賣ヲナスコトヲ得ス

第七條 賣肉ハ總テ土器又ハ漆器ヲ用キ若クハ綿布又ハ麻布ヲ纏ヒ外物ノ浸入ヲ防クヘシ

第八條 他縣下ヨリ輸入ノ牛肉ヲ買入販賣セントスルトキハ總テ本則ニ從フノ外尙左項ヲ禁ス

一 屠牛取締規則第十二條第十三條ニ據ラトルモノヲ販賣スルコト

二 卸賣人ニ賣渡スノ外小賣ヲナスコト

三 斷頭セシ屠肉ヲ買入ルコト

第九條 警察官吏及衛生官吏ハ臨時検査スルコトアルヘシ販賣人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

但食用ニ害アリト認ムルモノハ其販賣ヲ停止シ現品ハ棄却セシムルコトアルヘシ

第十條 本則第九條ヲ除クノ外各條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ノ刑ニ處セラル、外尙其營業ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ

●第十類 ○衛生 ○屠畜 屠肉販賣

●縣令第六十七號

明治二十二年六月十日

明治十九年十二月十日縣令第五十三號牛肉販賣取締規則中第十條左ノ通更正ス

第十條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條第八條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分セラレハシ

●縣令第九十四號

明治二十二年六月二十六日

明治十九年十二月十日縣令第五十三號牛肉販賣取締規則ヲ屠肉販賣取締規則ト改メ規則中總テ「牛肉」ヲ「屠肉」ニ第八條第一項ヲ「屠畜取締規則第十三條第十五條」ニ據ラサルモノヲ販賣スルコトト改ム

●島根縣令第三十六號

明治二十四年三月十二日

明治十九年十二月十日縣令第五十三號屠肉販賣取締規則第一條左ノ通り改正シ第十條第一條ノ下ハ(第一項)ノ三字ヲ挿入ス

第一條 屠肉生肉或肉ヲ販賣又ハ行商セントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受ケ行商者ハ鑑札ヲ受クヘシ

轉居改姓名又ハ廢業ノトキハ其旨速ニ届出ヘシ

行商者ニ於テ前項ノ場合及鑑札ヲ遺失シタルトキハ鑑札ヲ返納シ若クハ書換再渡ヲ請フヘシ

●島根縣令第七十二號

明治二十五年六月二十九日

明治十九年十二月十日島根縣令第五十三號屠肉販賣取締規則第二條(烙印)ノ下(他管下ヨリ輸入ノ屠肉ニ係ルトキハ其旨警察署若シクハ警察分署ノ烙印又ハ警察官ノ檢印)ノ割註ヲ加ヘ第八條及第十條中第八條ノ三字ヲ削除シ第九條以下順次繰上シ

●島根縣令第六十六號

明治二十五年十一月十四日

明治十九年十二月十日縣令第五十三號屠肉販賣取締規則第一條第二項届出ヘシノ下ニ左ノ二十三字ヲ加フ但該届書(行商者ヲ除ク)ハ駐在巡查ニ差出スルコトヲ得

墓地及埋葬

●甲第五十三號

明治十八年三月十日

明治十七年十月太政官第二十五號布達第八條ニ據リ墓地及埋葬取締規則別紙ノ通相定來四月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十四年七月

本縣甲第五十五號布達及明治十七年六月本縣甲第六十一號布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙)

墓地及埋葬地取締規則

第一條 墓地ハ從前許可シタル場所ニ限ル但從前許可ノ場所ト雖トモ第三條ニ適合セサル位置ハ漸次改廢ヲ命スルコトアルヘシ

第二條 已ムヲ得サル事情アリテ墓地ヲ新設シ又ハ從前ノ區域ヲ取廣メントスルモノハ其事由ヲ具シ圖面ヲ添ヘ戶長衛生委員ノ與書ヲ得郡役所ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ

但許可ヲ得タルトキハ願書並ニ圖面ノ寫ヲ添ヘ其旨所轄警察署ニ届出ツヘシ

第三條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ツル凡六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障リナキ地ニ限ル

第四條 墓地及火葬場ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ慣習アルモノハ此限ニアラス

死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スヘキモノトス

傳染病者(虎列刺、痘疹)ノ死屍ハ一定ノ墓地ニ埋葬スヘシ尤モ止ムヲ得サルトキハ通常墓地ノ一隅ヲ區劃シ其内ニ埋葬スルヲ得此場合ニ於テハ某病者ノ死屍タル墓標ヲ樹ツ可シ

但火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルハ此限ニアラス

第五條 墓地ノ周圍墓地ト非サルニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木掘壞ヲ存スヘカラス但從前ヨリ現存スルモノハ此限ニアラス

●第十類 ○衛生 ○墓地及埋葬

百十八年甲第
百六十八號令
百五十八號令
百四十八號令
百三十八號令
百二十八號令
百九號令

第六條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルハ格別ナリトス

但六尺ニ至リ難キ事由アルモノハ管理者ヨリ豫メ其旨ヲ具シ所轄警察署ノ認可ヲ受シヘシ

第七條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ装置ヲ爲シ且周圍ニ塹溝ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔テタル場所ナルトキハ唯周圍ノヨリ設クルモ妨ケナシ

第八條 火葬場ヲ新設シ又ハ既設ノ區域ヲ廣メントスルトキハ都ヘテ第二條ニ據ルヘシ

第九條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フ可シ

第十條 火葬場内ニハ遺骨ヲ埋藏スヘカラス又火葬燒場外ニ於テ死屍ヲ燒クヘカラス火葬シタル灰燼ハ該場内ニ一定ノ場所ヲ定メ埋却ス可シ

第十一條 墓地火葬場ノ樹木ハ猥リニ伐採スヘカラス若シ之ヲ伐採セントスルトキハ其事由ヲ具シ縣廳ニ出願ス可シ

第十二條 墓地火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ル可カラス

第十三條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其住所身分姓名ハ戶長役場ニ届出ツ可シ

但管理者ハ墓地火葬場所在地町村會議員若クハ其關係ノモノニテ之ヲ撰フ可シ

第十四條 墓地火葬場ニ關スル諸費ハ該町村費若クハ關係人民ニ於テ支辨ス可シ

第十五條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ左ノ届書若クハ證書ヲ添ヘテ死亡地戶長ノ認許証ヲ乞フ可シ
一 主治醫ノ死亡届書

一 醫師ノ治療ヲ受クル猶豫ナクシテ死亡シタル者ハ醫師ノ檢案書

一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産証

一 變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ受ケタルモノ

一 囚徒ノ死屍ニ係ルトキハ獄醫ノ死亡届書寫ニ司法官ノ檢印ヲ受ケタルモノ

第十六條 改葬ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ戶長衛生委員ノ與書ヲ得テ所轄警察署ヘ出願ス可シ

一 已ニ埋葬シタル墓地名及改葬セントスル墓地名

一 死者ノ族籍身分職業姓名及死亡時ノ病名

一 改葬ヲサントスル者ノ族籍身分職業姓名及改葬セントスル事由

第十七條 碑表ヲ建設セントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ所轄警察署ヘ出願ス可シ

但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建設者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ出願ニ及ハス

- 一 建設ノ場所及碑表ノ寸方
- 一 誌銘傳贊等碑表ニ彫刻若クハ書載ス可キ碑文若クハ題字及撰文者ノ族籍身分姓名
- 一 建設者ノ族籍身分姓名
- 一 刑死ニ係リタル者ノ碑表ナルトキハ裁判官渡書ノ寫

第十八條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル戶長ノ認許証及警察署ノ許可証ヲ編纂シ毎三ヶ月ニ所轄警察署又ハ分署ノ檢閱ヲ受ケ之ヲ戶長役場ニ差出ス可シ

第十九條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置ク可シ

第二十條 此細則ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラレ可シ

● 甲第六十八號 明治十八年十二月二十五日

明治十八年三月本縣甲第五十三號布達墓地及埋葬取締細則中左之通改正候條此旨布達候事

第十三條但書中「墓地火葬場所在地町村會議員若クハ」ノ十六字ヲ削リ第十四條中「該町村費若クハ」ノ七字ヲ「其」ノ一字ニ代フ

● 縣令第五十六號 明治十九年十二月十五日

明治十八年三月甲第五十三號墓地及埋葬取締細則第十八條(編纂。每三ヶ月)ヲ(每三ヶ月ニ編纂。七月十月限リ)ト改正ス

●縣令第五十八號 明治二十二年六月十日

明治十八年三月十日甲第五十三號布達墓地及埋葬取締細則第二十條左ノ通更正ス

第二十條 第四條第二項第三項第六條第十條第十三條第十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●島根縣令第二十九號 明治二十四年三月十二日

明治十八年三月甲第五十三號布達墓地及埋葬取締細則第二條(戶長衛生委員、與書ヲ得郡役所)ヲ(島廳又ハ郡市役所)ニ改ム

●島根縣令第六十四號 明治二十四年五月二十九日

明治十八年三月本縣甲第五十三號布達墓地及埋葬取締細則第十四條削除ス

●島根縣令第九號 明治二十五年十一月十四日

明治十八年三月本縣甲第五十三號布達墓地及埋葬取締細則第十八條又ハ分署ノ下ニ若クハ駐在巡査)ノ七字ヲ加フ

●乙第三十九號

本年本縣甲第五十三號布達墓地及埋葬取締細則第十五條ニ據リ戶長ヨリ認許証ヲ發付シ及該屆書証書ノ取扱方ハ左ノ手續ニ據ルヘシ此旨相達候事

但明治十六年三月本縣乙第百十號達ハ廢止ス

一戶長ニ於テハ細則第十五條ニ掲クル屆書又ハ証書ヲ領收スルコト非レハ認許証ヲ發付スヘカラス

一醫師產婆ヨリ出シタル屆書証書ハ每一ヶ月分ツ、編纂シ衛生委員ヨリ衛生委員ハ之レニ據リ死亡表ヲ編製シ而ル後之ヲ戶長ニ返付シ戶長ハ之ヲ保存スヘシ

一認許証ハ左ノ書式ニ據リ調製シ認許証元簿ト割印シテ之ヲ付與スヘシ最モ火葬ノモノコトハ認許証ニ乘

十八年乙第百八號參照

火葬認許証ト違背ノ認許証付與スヘキモノトス

埋葬(火葬)認許証

何府縣何國何郡町村何番屋敷族籍何誰父母兄弟妻子等

一病名又ハ死胎

職業 姓名

元簿ト割印

年 齡

戶長役

場 變死又ハ刑死ナレハ變死又ハ刑死ト記スヘシ

一死亡ノ年月日時

寄留又ハ宿泊中死亡セシモノナレハ何郡何町村何誰方寄留又ハ宿泊中ト付記スヘシ

右前記ノ通死亡シタルコト付埋葬(火葬)スルコトヲ認許ス

島根縣何郡何町村

年 月 日

戶 長 姓 名 印

●乙第百八號 明治十八年七月二十八日

郡役所 戶長役場 衛生委員

本年三月本縣乙第三十九號達埋葬(火葬)認許証書式申左之通追加候條此旨相達候事

(一)病名又ハ死胎)ノ左傍へ左ノ註解ヲ追加ス「死胎ノ証書ニハ姓名ノ下へ分婉ノ二字ヲ加へ職業年齡ヲ除クヘシ」

(二)死亡)ノ下へ(又ハ分婉)ノ四字ヲ加フ

(右前記ノ通死亡)ノ下へ(又ハ死胎分婉)ノ六字ヲ加フ

●乙第百九號

明治十八年七月二十八日

郡役所 戶長役場 衛生委員

墓地及埋葬取締細則第十九條ニ據リ管理者ニ於テ調製スル墓籍ハ左ノ書式ニ據ラントシ此旨相達候事

墓籍書式

第十類 ○衛生 ○墓地及埋葬

何郡町村何番地字何々墓地

一第何號墳墓 何墓 所有 何某

一第何號墳墓 何墓 所有 何某

參考

一全一所有者ノ墳墓ニシテ全一區番内ニ在ルモノハ一筆ニ記シ其區番ヲ別ニスルモノハ各別ニ記スヘシ

一現存ノ墳墓ニシテ所有者明瞭ナラサルモノハ所有不詳ト記スヘシ

一墳墓ノ番號ハ墓地ノ形状ニ由リ其次第ヲ整ヘ彼此錯雜セサル様順次ニ記番ヲ付スヘシ

一新設墳墓ノ番號ハ在來ノモノ、後タルヘシ但在來設ケアル墳墓ノ區番内ニ設置スルモノハ別ニ番號ヲ附セ

ス其墓數ヲ改ムヘシ

一改葬又ハ合葬スルモノアルトキハ其時々加除スヘシ

一墓籍ハ墓地毎ニ調製スヘシ

●島根縣令第四十二號 明治二十四年三月十三日

明治十八年三月三日 本縣甲第五十三號布達墓地及埋葬取締規則第二條ニ依リ墓地ヲ新設シ又ハ其區域ヲ擴ムルハ自

今市町村(市町村大字限リ)人民ノ共用ニシテ左ノ兩項ニ該當スルモノ一ヶ所ニ限リ之ヲ許可スヘシ

一墓地ノ新設ハ從前ノ位置不適當ナルカ又ハ適當ナルモ之ヲ擴ムル余地ナキカ若クハ之ヲ擴ムルモ永遠ノ共

用ニ充ツルコトヲ得サル地

二墓地ヲ擴ムルハ從前ノ位置適當ニシテ永遠ノ共用ニ充ツルコトヲ得ル地

●甲第六十六號 明治十八年十二月二十五日

墓地ヲ距ルコト六十間以内ノ場所ニ於テ新ニ家屋ヲ建築スル事ヲ禁ス

但本文ノ距離以内ト雖モ從來家屋建築仕來ノ場所及其接續地ハ此限ニアラス

右布達候事

廿二年縣令
第六十九號
廿四年縣令
全第三
廿五年縣令
百二十號

獸畜死屍

●縣令第十八號 明治二十年二月二十一日

獸畜死屍取締規則別冊ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

(別冊)

獸畜死屍取締規則

第一條 獸畜ノ死屍ヲ燒棄又ハ埋沒スルハ一定ノ場所ニ限ルヘシ

第二條 獸畜ノ死屍燒棄場又ハ埋沒場ハ一町村若クハ數町村人民協議ノ上左項ニ從ヒ繪圖面ヲ添ヘ總代二名

以上ノ連署ヲ以設置方縣廳ニ願出ツヘシ

一燒棄場ハ人家ヲ距ルコト凡ソ百三十間以上ノ場所ヲ撰ミ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲シ周圍ニ塼墻ヲ設クヘシ

但山林原野等ニテ人家ニ遠隔シタル場所ハ本文ノ裝置ヲ爲サ、モ妨ケナシ

一埋沒場ハ人家ヲ距ルコト空間以上ニシテ國道井川等ニ沿ハス土地乾燥飲料水ニ障害ナキ場所ヲ撰ムヘシ

第三條 獸畜ノ死屍ハ成ルヘク燒棄スヘシ若ク燒棄シ難キトキハ六尺以上ノ地下ニ埋沒スヘシ

第四條 獸畜ノ死屍解體場ヲ設置シ其業ニ從事セントスル者ハ第二條第二項ニ適スル場所ヲ撰ミ戶長ノ與印

ヲ以近接地主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ廢棄ノトキハ其旨届出ツヘシ

但飼主自ラ解體シ肥料ヲ製セントスルモノモ本文ノ場所ニ於テスヘシ

第五條 解體場ニハ豫テ帳簿ヲ製シ置キ獸畜並元飼主及賣渡人ノ住所姓名解體ノ月日ヲ記載シ置クヘシ

第六條 解體場ハ專ラ清潔ヲ主トシ汚物ノ棄却スヘキモノハ第一條ノ場所ニ於テ燒棄又ハ埋沒シ肥料ニ化製

スルモノハ堅牢ナル桶又ハ溜壺ヲ設ケ之ヲ密閉シ泄漏及臭氣ノ發散ヲ防クヘシ

第七條 解體場内ニ於テハ左項ヲ爲スヲ得ス

一肥料ニ化製セサル肉及内臟ヲ他ニ賣渡スコト

一食料ニ供スル獸類ヲ解體スルコト

●第十號 衛生 ○獸畜屍死

一傳染病ニ罹リタル獸類ヲ解体スルコト

第八條 獸畜死屍燒棄場及埋没場解体場ニハ左ノ標木ヲ建ツヘン
但解体場ノ外圍ニハ適宜ノ塀柵ヲ設クヘン

四寸角 高地上六尺

何々々々 場

第九條 解体場ニハ衛生官吏警察官吏臨檢スルコトアルヘン

第十條 此規則第一條第四條第七條ニ違背セシモノハ違警罪ニ處セラルヘン

●縣令第六十九號 明治二十二年六月十日

第十條 第二條第四條第七條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●島根縣令第九號 明治二十四年一月十六日

明治二十年ニ縣令第十八號獸畜死屍取締規則中左ノ通更正ス

第一條 獸畜死屍ノ燒棄埋没解体ハ第二條第四條ニ依リ許可ヲ得タル場所コアラサレハ之ヲ爲スヘカラス

第四條 獸畜死屍解体場ヲ設置セントスルモノハ第二條末項ニ適スル場所ヲ撰ミ接近地主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受ケ廢場シタルトキハ其旨届出ヘン

第十條 第一條第七條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

●島根縣令第三十號 明治二十四年三月十二日

明治二十年ニ縣令第十八號獸畜死屍取締規則第二條設置方ノ下(島廳又ハ郡市役所ヲ經テ)ノ十一字ヲ加フ

●島根縣令第二百二十號 明治二十五年十二月二十三日

明治二十年ニ縣令第十八號獸畜死屍取締規則第二條左ノ通改正ス

第二條 獸畜ノ死屍燒棄場又ハ埋没場ヲ設置セントスルモノハ左項ニ從ヒ繪圖面ヲ添ヒ使用者二名以上連署

島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出廢場ノトキハ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘン

一燒棄場ハ共用ニシテ人家ヲ距メコト凡ソ百二十間以上ノ場所ヲ撰ミ臭烟ヲ防シノ裝置ヲ爲シ周圍ニ塀垣ヲ設クヘン

但山林原野等ニテ人家ニ遠隔シタル場所ハ本文ノ裝置ヲ爲サレモ妨ケナシ

一埋没場ハ共用ニシテ人家ヲ距メコト六十間以上國道井川等ニ沿ハス土地乾燥飲料水ニ障害ナキ場所ヲ撰ムヘン

清潔法

○甲第四十六號 明治十九年四月十七日

道路掃除及溝渠下水周圍塵捨場取締規則別紙之通相定メ明治十一年一月本縣甲第十六號全十三年八月本縣甲第四十五號全十五年二月本縣甲第三十四號布達ハ廢止ス此旨布達候事

但從來設置セル溝渠下水周圍塵捨場ニテ此規則ニ觸ルハモノハ來ル五月三十一日マテ改造スヘン若シ右期限内ニ改造シ能ハサルモノハ事情ヲ具シ郡役所ニ願出テ許可ヲ受クヘン

(別紙)

道路掃除及溝渠下水周圍塵捨場取締規則

第一條 道路ノ掃除ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ負擔スヘン
但特ニ其負擔ノ定メアルモノハ此限コアラズ

一其兩側居住人ニ於テ道路ノ中央ヲ境界トシテ折半之ヲ負擔シ其片側ナレハ一方ノ居住人ニ於テ負擔スヘン尤モ廣場(燒却火除ニ接スルモノハ屋敷地外五間ヲ限リトス

●第十類 ○衛生 ○清潔法

十九年甲第
五十九號
廿九年甲第
廿七號
廿六年甲第
廿五號
廿五年甲第
廿四號
廿四年甲第
廿三號
廿三年甲第
廿二號
廿二年甲第
廿一號
廿一年甲第
廿號
廿年甲第
十九號
十九年甲第
十八號
十八年甲第
十七號
十七年甲第
十六號
十六年甲第
十五號
十五年甲第
十四號
十四年甲第
十三號
十三年甲第
十二號
十二年甲第
十一號
十一年甲第
十號
十年甲第
九號
九年甲第
八號
八年甲第
七號
七年甲第
六號
六年甲第
五號
五年甲第
四號
四年甲第
三號
三年甲第
二號
二年甲第
一號
一年甲第

但空家空屋敷ノ周圍ハ其所有主ノ負擔トス

二屋敷地ニ接セサル道路廣場橋上及市街村落以外ニ係ル道路橋梁ノ掃除ハ該地元町村ノ負擔トス
第二條 道路ノ掃除ハ市街及ヒ人家稠密ノ村落ニ於テハ常ニ之ヲ行ヒ其他ハ毎月一回已上之ヲ行フヘシ
但暴風雨等ノ後ハ其都度必ス掃除スヘシ

第三條 道路ノ掃除ハ塵芥雜草及不潔物ヲ除去シ出回高低ノ箇所ハ適宜砂利等ヲ加ヘテ平坦ナラシメ都テ其
形體ヲシテ變損セシム可ラス
但市街ニ在テハ降雪ノ堆積シタルトキハ道路ノ中央四尺以上之ヲ除クヘシ

第四條 並木等ノ風折雪折若クハ倒木等道路ニ遮ケルモノハ差向キ通行ニ差支ナキ様取片付ケ置キ直ニ戸長
ニ届出ツヘシ若シ其樹木各自ノ所有ニ係ルモノハ速ニ取除クヘシ

第五條 戸長ニ於テ前條ノ届ヲ得タルトキハ速カニ郡長ニ届出ツヘシ
第六條 溝渠下水ノ浚渫ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ負擔スヘシ
但特ニ其負擔ノ定メアルモノハ此限ニアラス

一各自所有地ノ周圍ハ該地主ニ於テ負擔スヘシ
二兩個ノ地ノ中間ニ在ルモノハ雙方ノ地主ノ負擔トス
三諸橋畔廣場内又ハ其周圍及一町村又ハ數町村ニ涉ルモノハ該關係町村ノ負擔トス

第七條 市街地ニ在ル溝渠下水ノ構造ハ左項ニ從フヘシ
一溝側ニハ石材木材ヲ用ヒ又ハ土樋^{陶器}ヲ埋設シ汚液ノ地中ニ滲透スルヲ拒クヘシ
二人家ニ接シタルモノハ被蓋^{雨水ノ流入ニ妨}ヲ設クヘシ
三一定ノ廣サ深サノ外肥料溜ニ類スル裝置ヲ爲スヘカラス

四公衆ノ用ニ供スル飲料井水ニ接近シタル場所ハ前各項裝置ノ外石材或ハ木材ヲ用ヒ溝底ヲ設クヘシ
第八條 溝渠下水ノ浚渫ハ市街及人家稠密ノ村落ニ於テハ毎年二回^{四月}之ヲ施行シ其他ノ地方ニ於テハ路傍

ニ在ルモノハ該道路掃除ノ時々其他ハ適宜ニ之ヲ施行スヘシ
但淤泥塵芥等疏通ヲ壅塞スルカ又ハ官ヨリ臨時浚渫ヲ命ジタルトキハ其時々施行スヘシ

第九條 前條着手ノ期日ハ戸長之ヲ定メ郡長及警察署又ハ分署ニ報告シ人民各自ノ負擔ニ係ルモノハ豫メ其
人民ニ告知スヘシ

第十條 市街ニハ適當ノ場所ヲ撰ミ一町村若クハ數町村内ニ一ヶ所若クハ數ヶ所ノ厠園^{小便所又ハ塵捨場ヲ設}
ケテ公衆ノ用ニ供スヘシ其位置ハ戸長之ヲ撰定シ其敷地坪數近傍人家井川ノ距離並ニ構造スヘキ圖面ヲ添
ヘテ郡長ニ届出ツヘシ若シ其敷地借地ナルトキハ地主ノ承諾書ヲ添フヘシ若シ之ヲ廢スルトキハ届出ツヘ
シ

第十一條 公衆ノ用ニ供スル厠園塵捨場ヲ自費ニテ建設セント欲スルモノハ前條ノ手續ニ據リ本人ヨリ郡長
ニ届出ツヘシ

第十二條 厠園塵捨場ヲ設廢若クハ改修シタルトキハ警察署又ハ分署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
第十三條 厠園及塵捨場ノ構造位置ハ左項ニ從フヘシ
一厠園ニハ屋形ヲ設ケ雨水ノ侵入及外見ヲ拒キ其大便所ニハ必ス戸ヲ設ケ且ツ適當ノ位置ニ窓ヲ作り空氣
ノ流通ヲ宜クスヘシ

二尿管溜ハ石材又ハ陶器^{蓋ニアラ}ヲ用ヒ其周圍ハ石敷又ハ「タ」キ等ヲ爲シ汚液ノ地中ニ滲透スルヲ拒キ
大便所ノ階板ハ糞池ヲ距ル壹尺五寸已上ノ高サヲ要ス

三厠園ハ道路ニ背面スヘシ若シ不得止道路ニ面スルトキハ必ス見隠ヲ設クヘシ
四塵捨場ハ地面ニ板張り石敷又ハ「タ」キ等ヲ爲シ其周圍ハ緊密ナル板圍ヒテ汚液ノ地中ニ滲透若ク
ハ汚物ノ散亂スルヲ拒クヘシ

五厠園及塵捨場ハ飲料用井川ヲ距ル五間以上ニシテ人家ニ接近セサルヲ要ス
六道路ニ厠園ヲ設クルトキハ其路傍五尺以内ノ場所及ヒ曲リ角ヨリ二間以外ノ場所ニ限ル最モ溝渠上ニ設

クヘカラス

但此ニ設置スルノ場所ナキトキハ特ニ懸懸ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 厠園及塵捨場ハ其所有主ニ於テ屎尿塵芥ノ堆積セサルニ先テ時々取除クヘシ尤モ一定ノ受負人ヲ定メテ之ヲ爲サシムルハ適宜ナルヘシ且ツ其所有主及受負人ノ住所姓名ハ其厠園及塵捨場ニ掲付スヘシ第十五條 市街及左ノ道路ニ接シタル場所ニ於テハ各自所用ノ厠園ト雖トモ沿道ノ軒下若クハ道路ニ面シテ之ヲ設クルコトヲ許サス尤モ他ニ設置スヘキ場所ナキトキハ郡長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 穴道ヨリ赤名ニ達スル道路

一 濱田ヨリ市木ニ達スル道路

第十六條 溝渠ノ浚深厠園塵捨場ニ係ル一切ノ費用ニシテ一町村若クハ數町村ノ共同負擔ニ屬スルモノハ其關係町村費ヲ以テ支辨シ一個人ノ負擔ニ係ルモノハ各自辨タルヘシ但從來ノ慣行若クハ特約アルモノハ此限ニアラス

第十七條 町村共同ノ負擔ニ係ル道路ノ掃除ハ戸長ニ於テ豫テ組合ヲ設ケ其組合ノ受持丁場ヲ定メ置クヘシ但從來ノ慣行アルモノハ之ニ從フモ妨ケナシ

第十八條 此規則ニ掲クル市街トハ當分左ノ場所及ヒ之ニ接続シタル町村ノ一部トス

松江 安來 廣瀬 大東 木次 平田 今市 杵築 大田 大森 郷田

濱田 益田 津和野 西郷港 温泉津

第十九條 此規則ニ違背シテ溝渠下水厠園塵捨場ヲ設置シ若クハ改修シ又ハ修繕ヲ怠リ或ハ私有ニ係ル倒木ノ取片付ヲ怠リ相當官吏ニ於テ其改良修繕取除ヲ命シタルトキ之ニ從ハサル者及此規則第十六條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

甲第五十九號 明治十九年四月二十九日

本年本縣甲第四十六號布達道路掃除及厠園塵捨場取締規則第十九條中「及此規則第十六條ニ違背シタル者」ノ十五字ヲ刪除ス此旨布達候事

●縣令第七十一號 明治二十二年六月十日

明治十九年四月十七日甲第四十六號布達道路掃除及溝渠下水厠園塵捨場取締規則第十九條左ノ通更正ス

第十九條 第四條私有ニ係ル風折雪折倒木等ノ取除キヲ怠リ又ハ第七條第十三條ニ違ヒタル溝渠下水厠園塵捨場等ノ改造修繕ヲ怠リ官署ノ督促ヲ受クルモ之ニ應セサル者及第十一條第十二條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●島根縣令第八十五號 明治二十六年九月十二日

明治十九年四月本縣甲第四十六號布達道路掃除及溝渠下水厠園塵捨場取締規則第十條中(其敷地)以下七十一字ヲ(警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ク可シ)ノ十五字ニ改メ第十一條左ノ通り改正シ第十二條中(設廢)ヲ(廢シ)トシ第十三條第六項ノ但書ヲ削除シ第十五條中(郡長)以下十三字ヲ(警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ)ノ十七字ニ改ム

第十一條 前條ノ公衆用ニ供スル厠園塵捨場ヲ自費ニテ建設セント欲スルモノハ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

●島根縣令第八十八號 明治二十七年十二月七日

明治十九年四月本縣甲第四十六號布達道路掃除及溝渠下水厠園塵捨場取締規則ヲ道路掃除及溝渠下水取締規則ト改メ尚ホ同則中左ノ通改正削除ス

一 第十條乃至第十五條ヲ削除ス

一 第十六條中「厠園塵捨場」ノ五字ヲ削除ス

一 第十九條第四條私有ニ係ル風折雪折倒木等ノ取除キヲ怠リ又ハ第七條ニ違ヒタル溝渠下水ノ改造修繕ヲ怠リ官署ノ督促ヲ受クルモ之ニ應セサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●第十類 ○衛生 ○清潔法

●縣令第十四號

明治二十一年一月十八日

本年縣令第七號ヲ以テ街路取掃規則施行ニ付明治十九年四月本縣甲第四十六號布達道路掃除及溝渠下水周圍塵捨場取掃規則中清潔法ニ係ル條件ハ松江市街及之ニ接続シタル町村ニハ適用セス

●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日

●島根縣令第八十七號

●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日

●島根縣令第八十七號

●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日

●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日

●島根縣令第八十七號

●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日

●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日

●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日

●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日

●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日
●島根縣令第八十七號 明治二十七年十二月七日

●汚泥ノ地中ニ滲透スルヲ防キ大便所ノ踏板ハ糞池ヲ距ル一尺五寸以上ノ高サアルヲ要スヘシ
三 厠圍ハ道路ニ背向スヘシ若シ止ムヲ得ス道路ニ面セシムルトキハ必ズ見隠シテ設ケルヘシ
四 塵捨場ハ地面ニ板張り石敷又ハ「シ、キ」等シテ其周圍ハ緊密ナル板圍ヒテ汚液ノ地中ニ滲透シ並汚物ノ散亂スルヲ防シヘシ

第六條 公衆用厠圍塵捨場ハ糞尿塵芥ノ充溢堆積セサルニ先テ之ヲ取除キ其破損等アルトキハ速ニ之ヲ修理シ常ニ清潔ニシテ不体裁ナカラシムヘシ
糞尿塵芥ヲ掃除スル爲メ一定ノ受負人ヲ設ケタルトキハ其住所氏名ヲ厠圍塵捨場ニ揭示スヘシ

第七條 公衆用厠圍塵捨場ヲ廢シタルトキハ其跡ヲ清潔ニ掃除スヘシ
第八條 左ニ掲グル市町村ノ市街地^{之ニ接続スル他}及道路ノ接續地ニ於テハ道路ニ接シタル場所ニ一已私用ノ厠圍其他器具ヲ發スヘキ肥料溜ノ類ヲ設ケヘカラス但其他ニ設置スヘキ適當ノ場所ナキトキハ其汚液ノ滲出ノ臭氣ノ發散及外見ヲ防シヘキ構造ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受シヘシ

一松江市 安來町 廣瀬町 大東村 木次町 平田町 今市町 杵築町 大田町
大森村 温泉津村 江津村 濱田町 益田町 津和野町 西郷^{東町、中町} 西郷^{西町}

二國道 宍道村ヨリ赤名村國境ニ至ル縣道石見村ヨリ市木村國境ニ至ル縣道
第九條 第八條ヲ犯シ警察官署ノ督促ニ應セサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則
一本則第八條ニ抵触スル厠圍肥料溜ノ類ハ明治一十八年十二月限り取除クヘシ其他ニ移スヘキ場所ナキモノハ同條但書ノ手續ニ依ルヘシ

二明治十九年四月本縣甲第四十六號布達道路掃除及溝渠下水周圍塵捨場取掃規則ニ依リ設置シタル公衆用厠圍塵捨場ハ市町村ノ公設ニ係ルモノヲ除ク外明治二十八年三月限り取除クヘシ

●乙第八十二號

明治十六年六月二十一日

郡町村

●第十類 ○衛生 ○清潔法

道路下水溝渠疏浚方ノ儀ニ付テハ、糞ヲ相違置候儀モ有之候處河川或ハ路傍溝渠芥溜等ニ於テ犬糞ノ死屍及不潔物ノ腐包等投棄有之衛生上障礙不勝儀ニ付自今右等ニ係ル不潔物ハ其町村ニ於テ豫テ相當ノ地ヲ卜定シ必ス一定ノ地ニ於テ埋燒却可致此旨相違候事

但本文卜定ノ場所ハ四方ニ榜木ヲ建テ該場ヲ示スヘシ且斃牛馬取捨場傳染病者排泄物埋燒却場ヲ以テ兼用不苦候事

●甲第四十七號 明治十九年四月十七日

市街村落中ニ流通スル河川ニ汚穢物ノ停滯スルトキハ地元町村ニ於テ速カニ水除クヘシ此旨相違候事

●島根縣令第四十三號 明治二十八年五月十七日

料理屋、飲食店ニ於テ客用ニ供スル便所又ハ多数ノ職工等ヲ使用スル工場ノ便所ハ毎日清潔ニ掃除シ尿尿溺及其周圍ニハ石灰酸又ハ石灰ヲ十分ニ撒布スヘシ

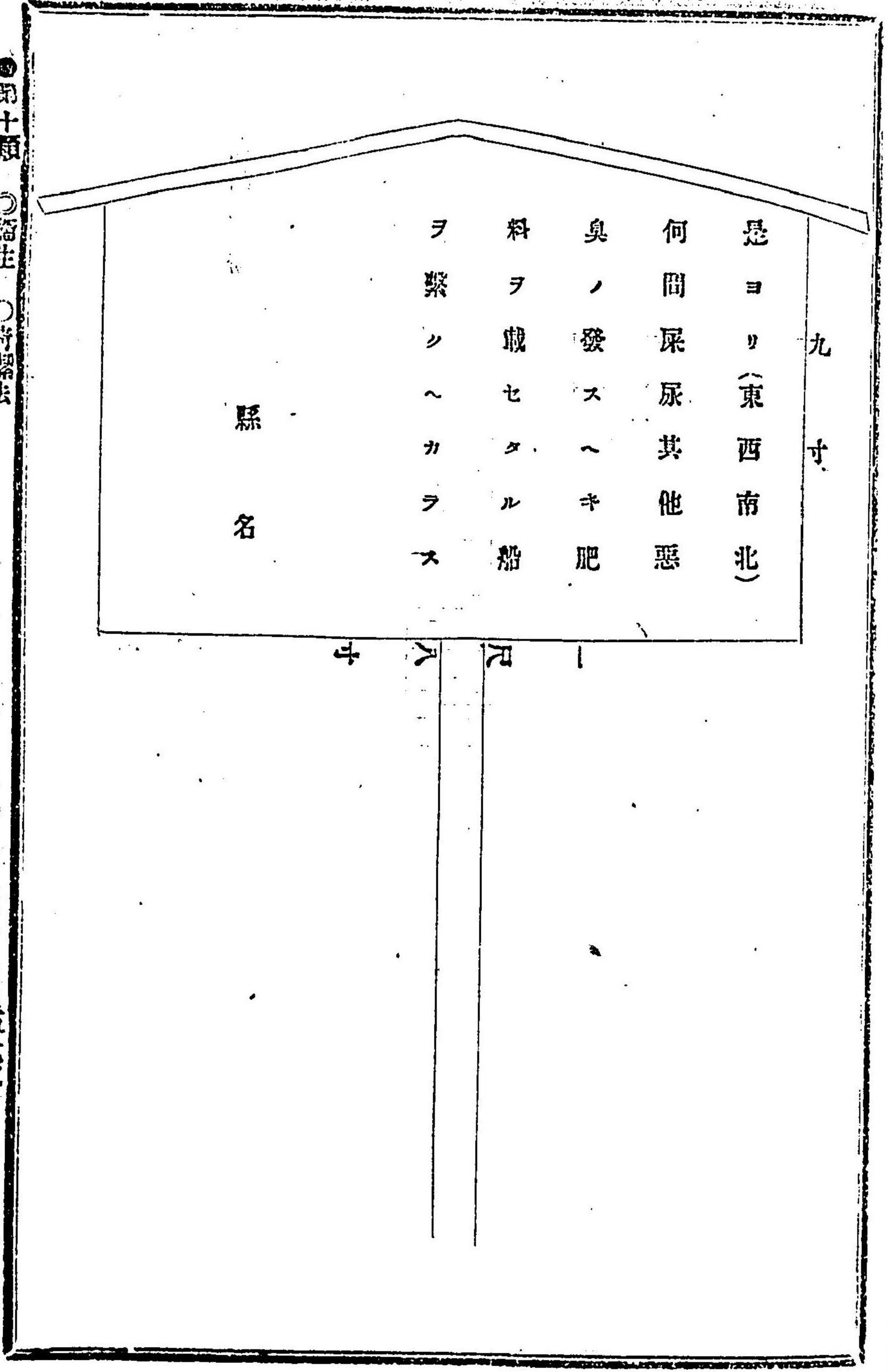
料理屋、飲食店、魚店、紺屋、豆腐屋ニ於テハ家屋内及家屋ニ沿ヒタル下水溝渠ハ毎日掃除シ惡水汚物ヲ停滯セシムヘカラス

前二項ヲ犯シ官ノ督促ニ應セサル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分セラルヘシ

●訓令警察第二四號 明治二十一年九月二日

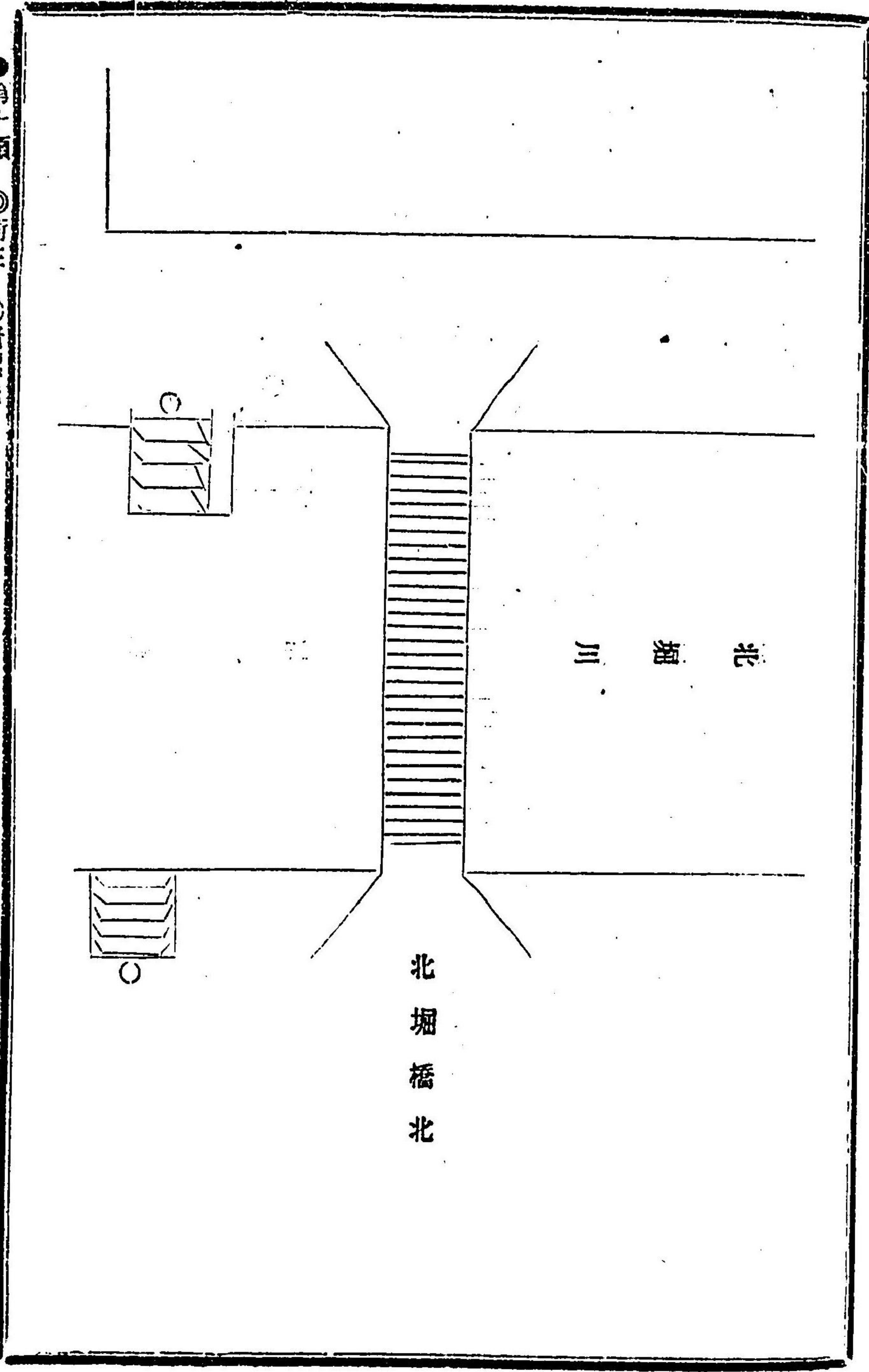
松江警察署

其署所轄松江街京橋外ニカ所別紙圖面○印ノケ所ハ自今尿尿其他惡臭ヲ發スヘキ肥料ヲ載セタル船艚ノ繫留ヲ差留メ候條左ノ離形ノ通り制札建設スヘシ

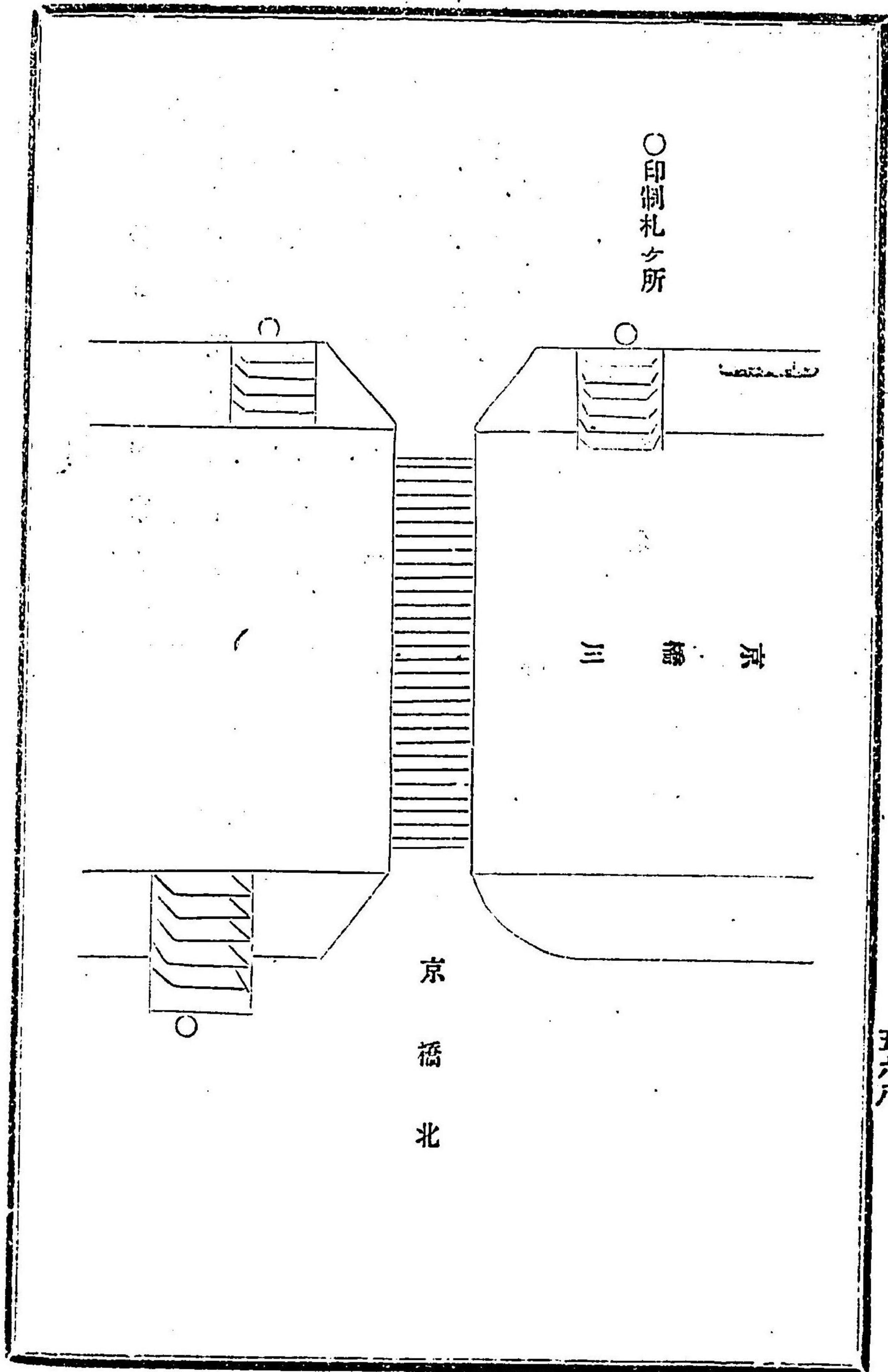


●第十類 ○衛生 ○清潔法

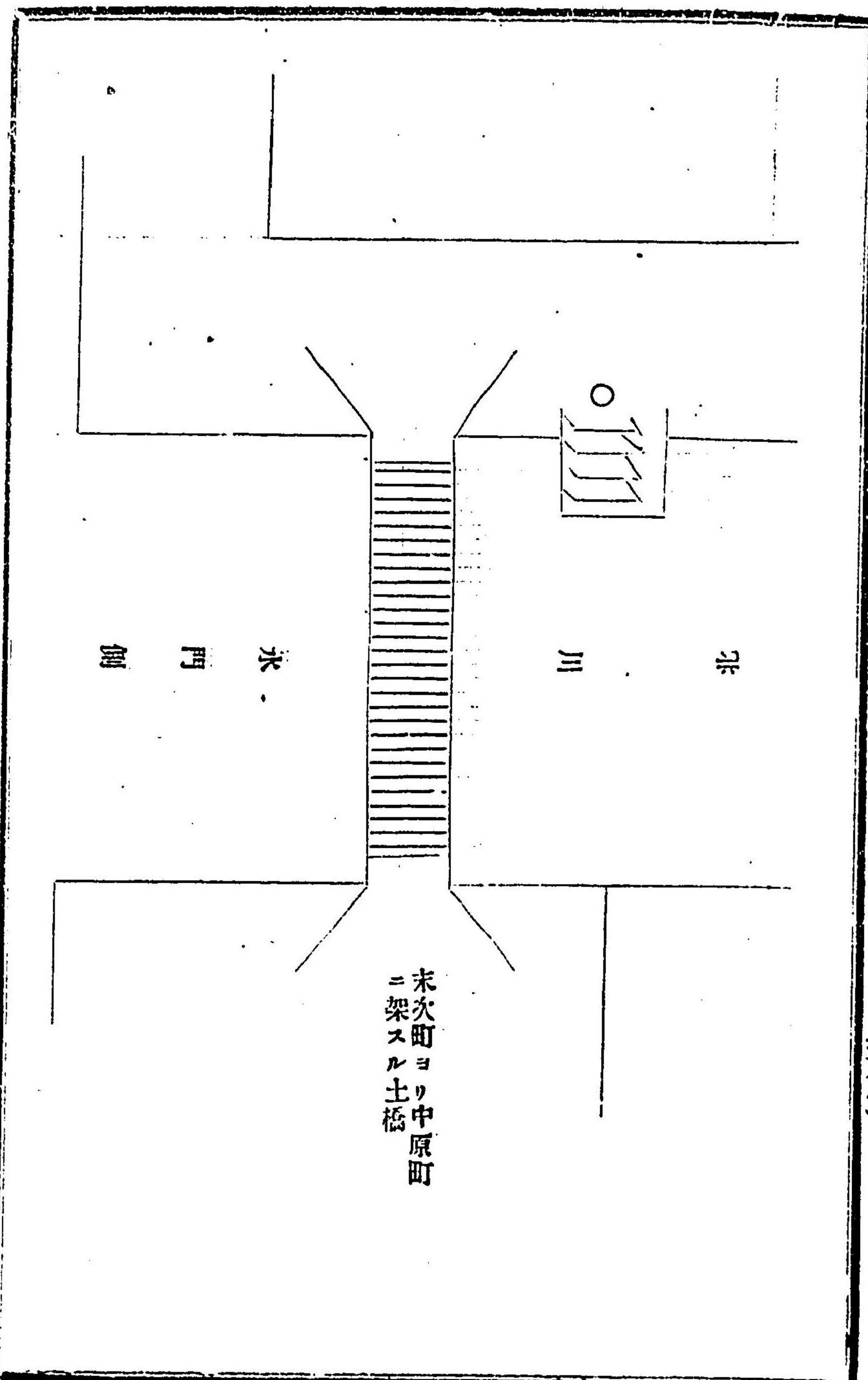
●第十類 ○衛生 ○清潔法



五六九



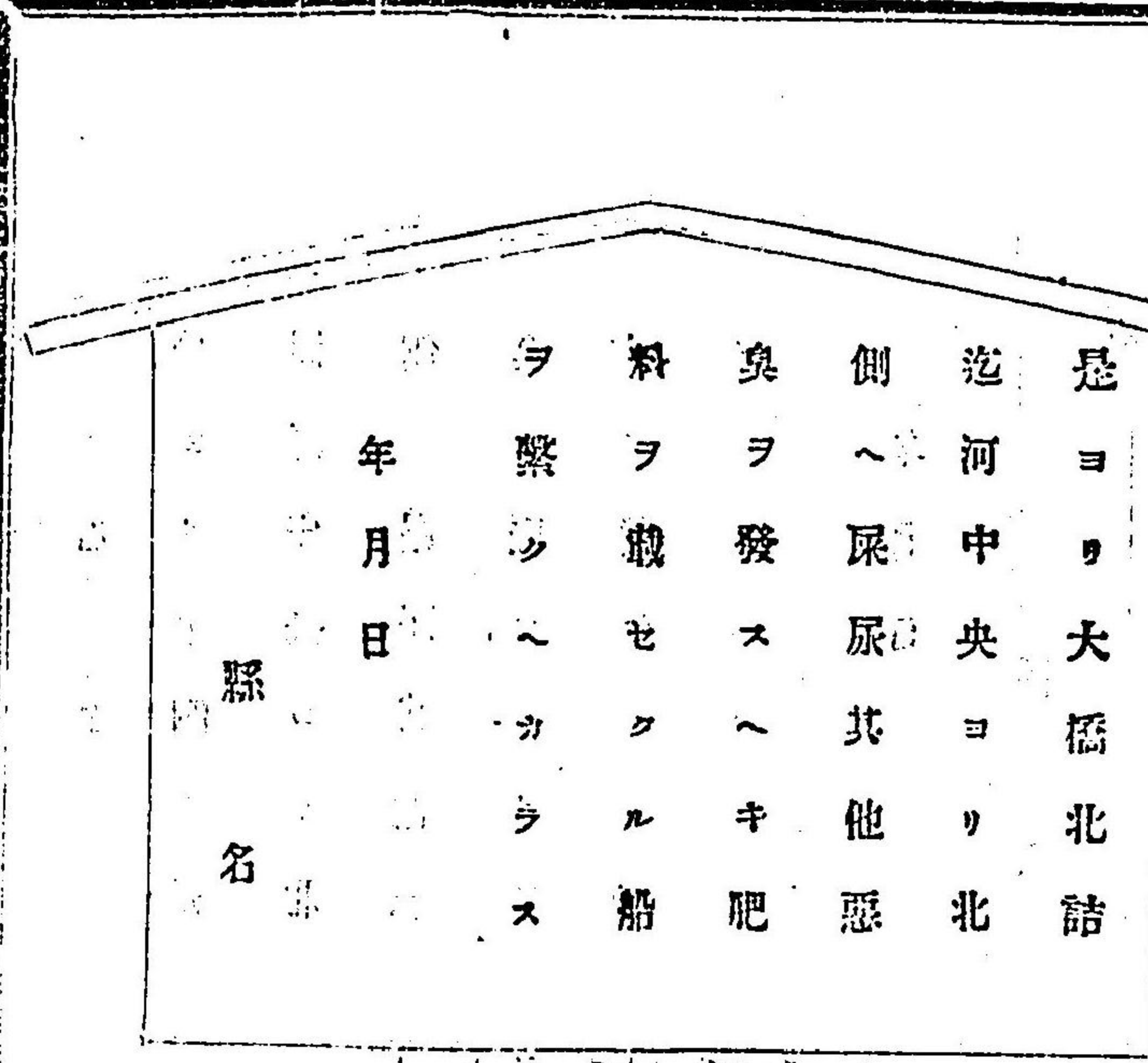
五六八



末次町ヨリ中原町ニ架スル土橋

訓令第七號
 明治二十二年二月十二日
 松江警察署
 其署所轄内松江大橋北詰ヨリ東四十五間ハ自今尿管其他惡臭ヲ發スヘキ積荷アル船ヲ繫留スルヲ禁止係條左ノ雛形ノ通制ヲ建設スヘシ

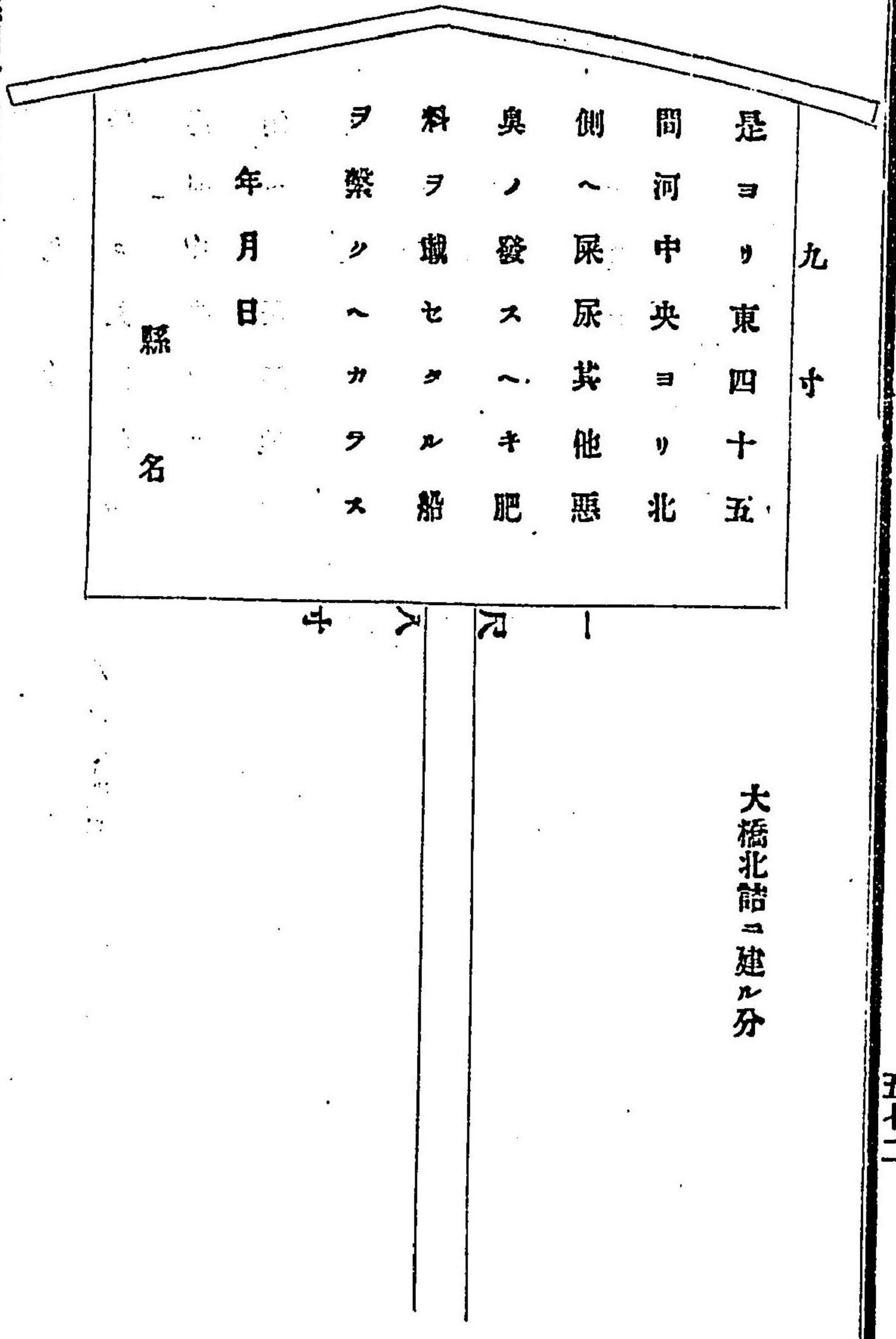
九寸



八百屋丁灘口東側ニ建ル分

第十類 ○衛生 ○清潔法

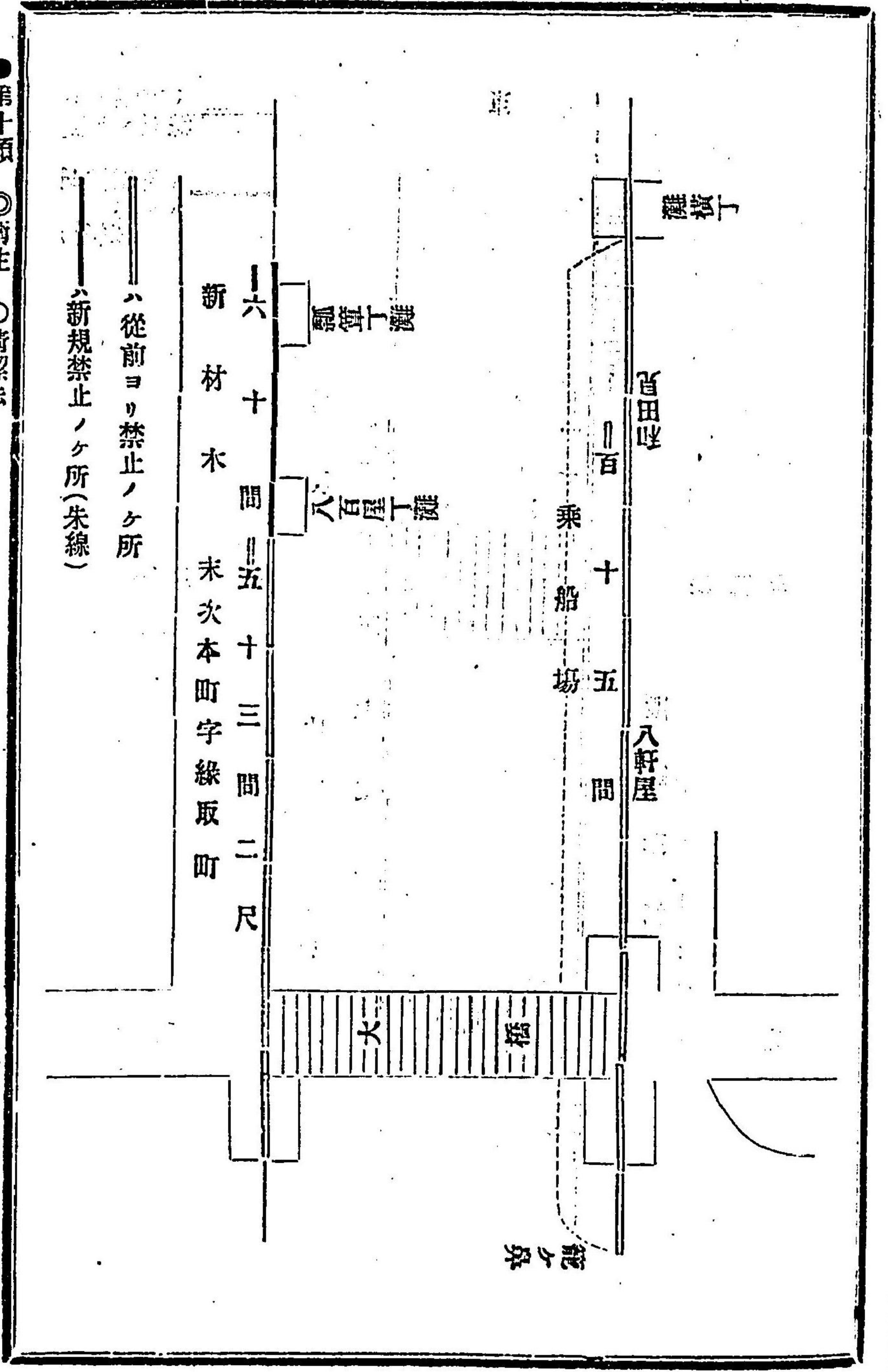
●島根縣訓令保第三十七號 明治二十四年十月十日 松江警察署
 松江府大橋川及京橋川沿岸別紙圖面朱線ノ場所ハ尿尿其他惡臭ヲ發スヘキ肥料ヲ載セタル船ヲ繫クヲ禁スル
 ニ付榜示建設方取計フヘシ



大橋北詰ニ建ル分

九寸

是ヨリ東四十五
 間河中央ヨリ北
 側へ尿尿其他惡
 臭ノ發スヘキ肥
 料ヲ載セタル船
 ヲ繫クヘカラス
 年月日
 縣名



●第十類 ○衛生 ○清潔法

ハ從前ヨリ禁止ノケ所
 ハ新規禁止ノケ所(朱線)

計五年陳
照百十號

●縣令第六十號 明治二十三年八月二十六日
 摺附木
 黃燐製摺附木製造取締規則左之通相定ム

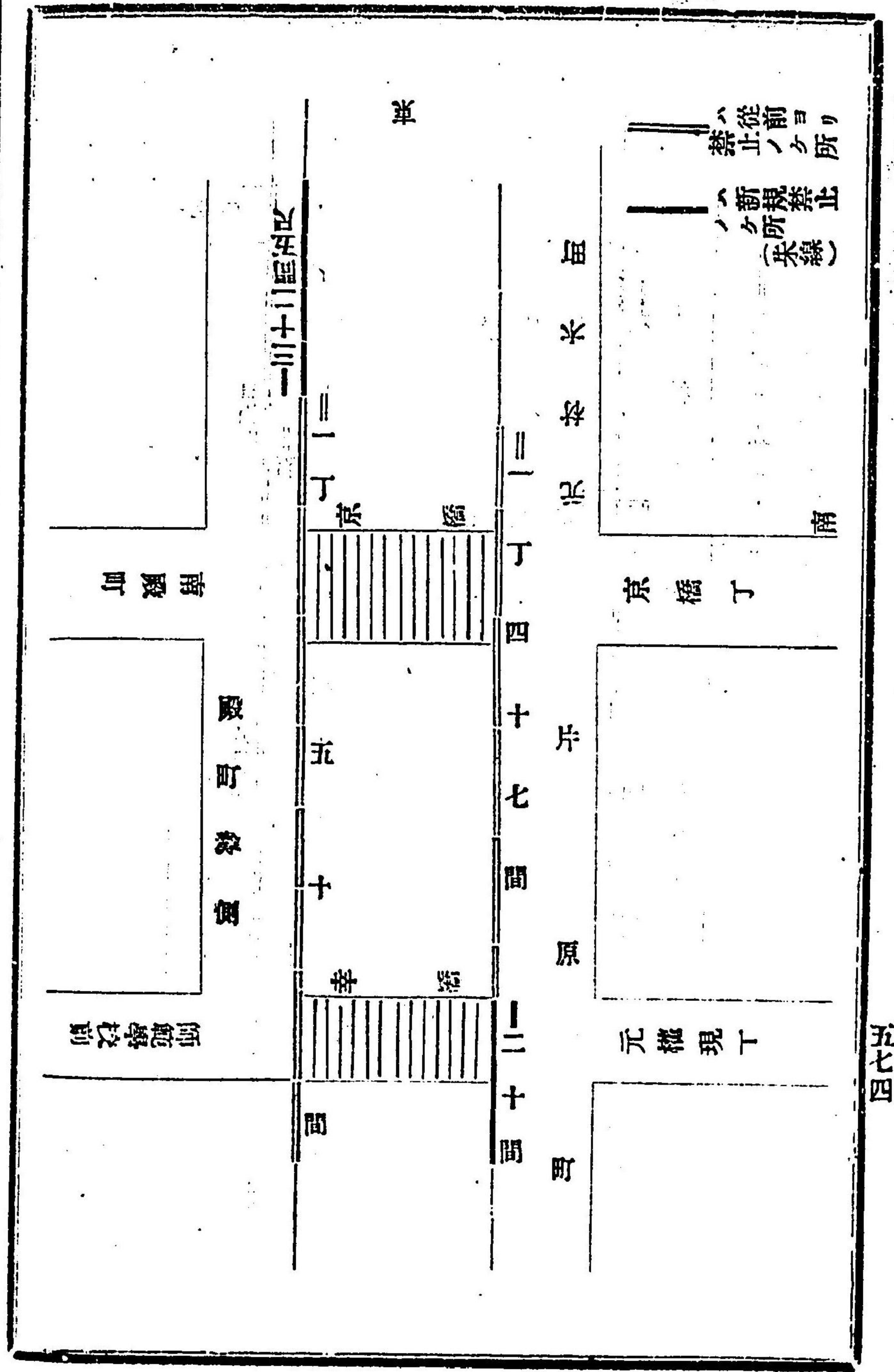
黃燐製摺附木製造取締規則

- 第一條 黃燐製摺附木ヲ製造セントスルモノハ第二條第三條ノ構造法及近傍人家ノ距離建物坪數ヲ詳記シテ
 圖面並接近地主ノ承諾書ヲ添ヘ借地ナレハ地所轄警察署又ハ分署ニ出願許可ヲ受クヘン
 - 第二條 黃燐製摺附木製造所ハ石又ハ煉瓦ヲ以テ之ヲ築造スヘシ但周圍ノ家屋六十間以上ノ距離アル場所ニ
 於テハ木造建築ヲ用ルモ妨ナシ
 - 第三條 調製室貯藏室及原料室ハ各之ヲ區劃シ又乾燥室ハ之ヲ別棟ト爲シ瓦斯ヲシテ他室ニ飛散セシメ
 サル様戶外ニ導クノ裝置ヲ爲スヘン
 - 第四條 工場内ハ常ニ窓戸ヲ開放シ空氣ノ流通ヲ良クスヘン
 - 第五條 製造所ノ主管ハ齒牙及齒齦ニ疾患アル者ヲシテ黃燐若クハ其合劑ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得ス
 - 第六條 製造所ノ主管ハ何人ヲ問ヘス工場内ニ於テ飲食ヲ爲サシムルコトヲ得ス
 - 第七條 合劑中ニハ合劑ノ量百分ニ付黃燐十分以上ヲ含マシムヘカラス
 - 第八條 第一條前項及第七條ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 島根縣令第百十號 明治二十五年十一月十四日
 明治二十三年八月縣令第六十號黃燐製摺附木製造取締規則第一條第二項届出ツヘシノ下ニ左ノ十七字ヲ加フ
 但該届書ハ駐在巡查ニ差出スコトヲ得

統計

●甲第九十四號 明治十六年十月十二日

●第一類 ○衛生 ○摺附木 ○統計



自今變産セシモノヲ診察又ハ取扱タル醫師產婆ハ第一號書式ニ準シ醫師又ハ產婆ノ手ヲ經スシテ變産セシモノハ第二號書式ニ準シ其戸主ヨリ各三日以内其町村衛生委員ニ可届出此旨布達候事

第一號

變産御届

何郡何町村族籍何某妻又ハ母女

何

條

誰

當何月何十年何ヶ月

一變産ノ景况

(逆産)

一産兒ノ生死男女ノ別

(生男)

一變産ノ原因

(幾度)

一變産セシ度數

(何年何月)

一受胎ノ年月

(全上)

一職業

(何)

一治療法

右變産ニ付此段御届仕候也

何郡何町村醫或ハ產婆

何

條

某印

第二號

年 月 日
縣 令 宛

變産御届

(記載方第一號ニ全シ以下共)

一變産ノ景况

一産兒ノ生死男女ノ別

一變産ノ原因

一變産セシ度數

一受胎ノ年月

一變産ノ年月

一職業
右變産候ニ付此段御届仕候也

何郡何町村族籍

何

條

某印

年 月 日
縣 令 宛

變産届心得

一變産ノ景况ハ逆産横産等及仔胎畸兒ノ類ヲ記載スヘシ
但畸形ハ其景况ヲ詳記シ又ハ圖面ヲ添ヘシ

一産兒生死ハ一旦呼吸シテ后チ死亡セシモノハ其死ニ至ルノ時間ヲ記入スヘシ

一變産ノ原因ハ孕胎中變産ヲ誘起スル因トナルヘキ非常ノ勞働又ハ急性病ニ罹ルノ類其事實ヲ詳細記入スヘシ其因ナキモノハ不詳トスヘシ

一職業ハ產婦ノ定業ヲ記入スヘシ定業ナキモノハ無業トナスヘシ

一寄留者ハ寄留地ニ於テ之ヲ調査スヘシ

乙第百三十五號

明治十六年十月十二日

郡町村

本年本
月三十一日現在癩疾者取調別紙表式ヲ調整シ翌年一月二十日限リ郡役所へ進達スヘシ此旨相達候事
但客年十二月三十一日現在癩疾者ハ本月三十一日限取調進達スヘシ
(別紙)

癩疾表

| 病名 | 癩疾表 | | 婚姻上ノ關係 | 現職業 | 發病前職業 | 族 | 籍年 | 齡人 | 名 |
|----|-------|-------|--------|-----|-------|---|----|----|---|
| | 先天性ノ別 | 狂燥性ノ別 | | | | | | | |
| 盲 | | | | | | | | | |
| 聾 | | | | | | | | | |
| 啞 | | | | | | | | | |
| 癩狂 | | | | | | | | | |
| 白癩 | | | | | | | | | |
| 雜症 | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | |

內男
女

右明治何年十二月三十一日現在癩疾表書面ノ通有之候也

何郡何村

年 月 日

衛生委員

何 條 誰 印

戶 長

何 條 誰 印

縣 令 宛

癩疾表調査心得

一 癩疾者ハ毎年十二月三十一日現在數ヲ以テ調査シ左ノ病名ニ區別スヘシ

盲 聾 啞 癩狂 白癩 雜症

一 最モ著シキ癩癩 癩癩 暗形ハ都テ雜症ノ部ニ算入スヘシ

一 先天性后天性ノ別ハ生來ノ癩疾ヲ先天トシ病思ノ爲メ癩疾トナリシモノヲ后天トシ記入スヘシ

一 原因ハ本病ヲ發セシ因ヲ記スルモノニシテ例ヘハ創傷或ハ梅毒ノ爲メヨ盲目トナルモノハ外傷或ハ梅毒ト記スル如シ且遺傳ニ係ルモノハ其廉ヲ併セ記スルモノトス

一 癩狂ニ限リ狂燥性ト沈鬱性ニ區別記入スヘシ

一 婚姻上ノ關係ハ既婚離婚未婚ニ區別スヘシ但既婚ハ現在配偶者離婚ハ婚嫁セシコトアリ現今配偶者ナキモノ未婚ハ婚嫁セシコトナキモノトス

一 職現業ハ本人ノ現業ヲ記載シ現業ナキモノハ無業トスヘシ

一 發病前ノ職業ハ後天性ノモノニ限リ記入スヘシ其職業ナキモノハ前項ニ全シ

一 寄留者ハ寄留地ニ於テ調査スヘシ

乙第百五十號 明治十六年十一月十日 郡町村

本年乙第百三十五號達癩疾表中(先天性ノ別)ノ下へ原因ノ一欄ヲ設ケ製表スヘシ此旨相達候事

郡乙第九十三號 明治十六年十月十二日 郡役所

第十類 衛生 統計

(用紙美濃紙)

何郡何町死亡表

(明治何年何月)

五八六

| 病名及事故 | 死亡人 | | 何郡何町 | 死亡年月 | 死亡年齡 |
|-------|-----|---|------|------|------|
| | 男 | 女 | | | |
| 何病 | 全 | 全 | | 一 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 二 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 三 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 四 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 五 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 六 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 七 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 八 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 九 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 十 | 年 |
| 全 | 全 | 全 | | 十一 | 年 |
| 合計 | 全 | 全 | | 年 | 不詳 |

一死亡者ハ其埋(火)葬認許証ヲ附與シタル土地ニ於テ其數ヲ掲載スヘシ但在監死亡者ハ記入ニ及ハス
 一死体ノ棄兒ハ欄外ニ其男女及推測ノ年齢ヲ記載スヘシ
 一一年ノ項ニハ滿一年マテ二年ノ項ハ一年一月以上滿二年マテノ者ヲ記入スヘシ以下諸項皆全シ

●訓令第六十六號 明治二十一年十二月六日 島 廳 郡役所 戶長役場
 明治十九年十月本縣訓令第五十二號死亡表ハ自今月別ニ調整スヘシ
 ●訓令第五十三號 明治十九年十月二十二日 郡役所
 今般訓令第五十二號ヲ以テ死亡表相定メ候ニ付テハ右取締メ別紙表式ニ照準調整シ毎年三月限リ進達スヘシ
 但明治十八年十月乙第八十四號達ヲ廢ス
 (表式零ス)
 ●訓令第四百四十九號 明治二十三年六月二十七日 島 廳 郡役所 市役所
 明治十九年十月訓令第五十三號死亡者年齢區別表式別紙之通更正ス
 (用紙美濃紙)

廿三年訓令
第四百十九
號參照

死亡者年齢區別表

(明治何年)

何郡市

| 年 齡 | 第一類 | | 第二類 | | 第三類 | | 第四類 | | 第五類 | | 第六類 | | 第七類 | | 第八類 | | 第九類 | | 第十類 | | 第十一類 | | 第十二類 | | 合計 | 第七類ノ内 肺病 | |
|-----|-----|------|------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|---|------|---|------|---|----|-------------|---|
| | 性傳 | 染發育及 | 病營養的 | 筋皮 | 病膚及 | 節骨 | 病節及 | 器血 | 病行 | 病及 | 器呼 | 病吸 | 器消 | 病化 | 病生 | 器泌 | 變外 | 死裝 | 性 | 中 | 毒 | 症 | 不 | 原 | | | 詳 |
| 三年 | 男 | 女 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二年 | 男 | 女 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一年 | 男 | 女 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

第十類 ○衛生 ○統計

五八七

